令和8年度　開講科目一覧

生活デザイン専攻

		授業科目		読み替え科目	担当者	開講期間	Page
対象年次		1年次	2年次	( )内対象入学年度		前・後	
専攻科目	共通科目	教養基礎演習			中野都、米山陽子、佐藤清香、平尾和子	前	5
		情報技術			教　授　前田　康智	前	7
		データサイエンス			教　授　前田　康智	後	9
		ビジネスワード・パワーポイント			教　授　前田　康智	後	11
		ビジネスエクセル			教　授　前田　康智	後	13
		心理学			非常勤講師　佐久間　直人 非常勤講師　原島　雅之	前	15
			SDGsと現代の社会問題		講　師　オステン・リチャード	前	17
		異文化と世界			講　師　オステン・リチャード	後	19
		ボランティア論			教　授　中野　都	前	21
		キャリア形成Ⅰ			教　授　前田　康智	前	23
		キャリア形成Ⅱ			教　授　前田　康智	後	25
		ビジネスマナー			助　教　大西　峰子	前	27
		運動と健康			非常勤講師　佐藤　久乃	後	29
		英語コミュニケーション		英会話	講　師　オステン・リチャード	後	31
		標準英語スキルズ			講　師　オステン・リチャード	後	33
			応用英語スキルズ		講　師　オステン・リチャード	前	35
	家政科コア科目	家政学概論			講　師　木林　祥子	前	37
		食生活論			講　師　佐藤　清香	前	39
		衣・住生活論			非常勤講師　山村　美保里 非常勤講師　鈴木　麻希子	前	41
			消費生活と環境		講　師　木林　祥子	後	43
	ライフ・デザイン	生活デザイン概論			非常勤講師　本郷　芳哉	前	45
		マーケティング概論			非常勤講師　犬飼　美穂子	後	47
		グラフィックソフト実習			非常勤講師　鈴木　麻希子	後	49
		工芸実習			非常勤講師　本郷　芳哉	後	51
		店舗空間デザイン演習			非常勤講師　山村　美保里	後	53
		サービス英語コミュニケーション			非常勤講師　江口　眞由美	後	55
			カラーコーディネート演習		非常勤講師　山村　美保里	前	57
			デジタルデザイン演習		非常勤講師　李　子木	前	59
			ユニバーサルデザイン概論		非常勤講師　山村　美保里	後	61
	パティシエ・レストランサービス	食べ・ストラテデザイン実習			非常勤講師　パッケ伊東	前	63
		パティシエ実習Ⅰ		製菓製パン実習Ⅰ	准教授　米山　陽子	前	65
			パティシエ実習Ⅱ		非常勤講師　森崎　繭香	前	67
		ベーカリー実習		製菓製パン実習Ⅱ	准教授　米山　陽子	後	69
		調理学			教　授　平尾　和子	前	71
		調理学実習			准教授　米山　陽子	後	73
			食品衛生学		教　授　三星　沙織	前	75
			食文化論		准教授　米山　陽子	前	77
		フードデザイン・マネジメント論			准教授　米山　陽子	後	79
			フードプランニング論		非常勤講師　森崎　繭香	前	81
			フードコーディネート実習		非常勤講師　真島　久美	前	83
		レストランサービス論			非常勤講師　真島　久美	後	85
			レストランサービス実習		非常勤講師　真島　久美	前	87
	ファッション・アパレル	アパレル素材・管理学			講　師　木林　祥子	後	89
		テキスタイルデザイン実習Ⅰ			講　師　木林　祥子	前	91
			テキスタイルデザイン実習Ⅱ		講　師　木林　祥子	前	93
			ファッション造形実習		非常勤講師　秋山　敦子	前	95
		ファッション販売演習			非常勤講師　鈴木　麻希子	後	97
			インテリアコーディネート演習		非常勤講師　山村　美保里	後	99
		アロマテラピー概論			非常勤講師　久保田　裕子	前	101
		アロマテラピー演習			非常勤講師　久保田　裕子	後	103

生活デザイン専攻							
授業科目				読み替え科目	担 当 者	開講期間	Page
対象年次		1年次	2年次	( )内対象入学年度		前・後	
専攻科目	福祉・介護・医療事務	子どもの福祉	子どもの福祉		非常勤講師 川 上 美 子	前	105
			介護概論		教 授 中 野 都	前	107
		社会福祉概論			教 授 中 野 都	前	109
			介護食実習		教 授 小田島 祐美子	前	111
			福祉住環境コーディネート概論		非常勤講師 山 村 美 保 里	前	113
		医療事務サービス論			非常勤講師 内 藤 麻 紀	後	115
		医療事務サービス演習			教 授 中 野 都	後	117
卒業演習			商品開発・企画演習		木林、中野、山村、米山	後	119
科目支援		英語基礎演習			講 師 オステン・リチャード	前	121
		生活数理演習			教 授 前 田 康 智	前	123
講座		医療事務支援講座	医療事務支援講座		教 授 中 野 都	後	125

アクティブ・ラーニング要素表

要素番号	手法	概要	アクティブ・ラーニング科目を構成する際の留意事項	
【1】	Problem Based Learning, Project Based Learning	Ｐｒｏｂｌｅｍ　Ｂａｓｅｄ　Ｌｅａｒｎｉｎｇとは、問題解決を主目的として、学習者主体で実践されるグループ学習である。Ｐｒｏｊｅｃｔ　Ｂａｓｅｄ　Learningとは、具体的な学修課題をたてて、一人ないしチームでプロジェクトを遂行しながら行う学習である。いずれも学生が自主的に学修することが求められる。	「ペア・グループワーク」や「プレゼンテーション」等と組み合わせて実施することが想定される。学生が主体となり課題を解決する方法を考え、計画を立てて学修を進めるという、初年次の学生にとっては比較的高度な学修法ともいえるので、課題レベル設定や適切な学修支援（チューターによる補助など）に配慮が必要である。ポートフォリオの利用も考えられる。	
【2】	クリッカーを用いた レスポンス	教員の質問に対し、学生がクリッカー（情報送信機）のボタンを押して答える形態である。レスポンスシステムとも呼ばれる。その結果が瞬時に集計され、スクリーンに表示される。学生は自らの意見の正誤や他の学生の意見を即時に知ることができる。意思表示を手軽に行えるので、授業への参加意欲が促される。	教員は学生の全体的な反応を確認しながら授業を進めることができる。しかし、クリッカーはアクティブ・ラーニング化を支援するシステムなので、他の手法と組み合わせるなど、主体的な学修を促進するような授業設計をする工夫が必要となる。	
【3】	調査研究	教員が提示したテーマや課題に対して、図書館等で参考図書、新聞・雑誌、統計資料を調べたり、ＤＶＤ映像やインターネットのメディアを活用して情報収集を行い、結果をまとめ、発表する学習方法である。	単にレポートを課すだけでは、アクティブ・ラーニングとはいえない。学生によるプレゼンテーションへつなげたり、フィードバックを行ったりして、調査情報の質を高めたり、調査の成果を用いながら、学生がさらに学修を深めていく工夫が重要となる。	
【4】	フィールド・ワーク	教員が提示したテーマや課題に対して、実施調査・研究等を行う学習方法である。	学修課題をフィールド・ワークに取り組み、学習者が実施での活動を行い、学修課題についての理解を深めることが必要である。	
【5】	実験	理論や仮説を様々な条件の下で検証する学習方法である。学生が知識を活かして実際に行動することによって理解を深めると同時に、結果を整理してまとめる力を身につけることが期待される。	教養教育で準備できる範囲の部屋や器具類で実施計画を立てること。実験を通して主題に対する探求を深めていくことが大切である。実験自体は主体的な活動ではあるが、実験の事前教育、実験過程での学習者の主体的・能動的な取り組みへの指導が必要である。	特に自然科学系分野では、設定された課題について、学生が（協力して）自らの活動を通じて解決したり、講義で学んだ原理や現象を、学生自身が追体験して確認する要素が含まれていることが重要である。 したがって、単に計測器の取扱い法等について学ぶような実験・実習はアクティブ・ラーニングとはならない。
【6】	実習	講義などで学んだ技術や方法等を実際の場面で展開することで、理論と実践の関係を深める学習の方法である。学生が実践的な力量をつけるとともに、実践を理論的に省察すること、そのことでさらに実践力や課題への取組みの姿勢の向上が期待される。	実習・実技は必ずしも、単純にアクティブ・ラーニングとはならない。講義等での学修内容・知識と、実習・実技で身につける知識・技能とが有機的に結びつく必要がある。	
【7】	実技	技術や演技などが直接的な学習であるような授業方法。		
【8】	ロール・プレイング・シミュレーション	現実に起こる場面を想定して、参加者がそれぞれに与えられた役割を演じ（ロールプレイ）、疑似体験（シミュレート）する学習法である。技術・技能の修得や、現実的なケースにおける多面的な見方、態度・姿勢の涵養、他人の立場への理解などを促進する際に効果的である。	ロールプレイやシミュレーションを取り入れるためにはその事柄に対する知識・理解が必要。教員による適切な場面の設定と、役割分担を話し合い等を通して決めるなど、学生相互の関わりも重要になる。	

アクティブ・ラーニング要素表

【9】	ペア・グループワーク	教員から与えられた課題に対して、ペアもしくは小グループ（３人から６人程度が一般的）で相互協力を行いながら学修を進めていく協同学習のことである。グループ構成員が相互協力して共同作業をする。	作業手順の明確化、課題解決への探求方法や手がかりをどのように準備するかが重要になる。円滑なペアワークやグループワークを行うために、協同学習の考えを取り入れながら授業の準備や設計を行うことが望まれる。学習者が明確な役割を持って学修を進められるような課題の設定をし、また互恵的な協力関係を生み出せるよう人間関係に配慮することが必要である。グループワークは必ず授業時間内に終了することが必要である。
【１０】	ディベート	課題討議法の一種で、ある公的なテーマについて肯定側と否定側の立場から、立論・反論といった論戦を通じて、第３者を客観的な証拠に基づいて説得するｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ形態である。ディベートを通して、自分の意見や問題意識を持ったり、論理的な考え方ができるようになるといった効果が期待される。	多数の受講者を一括した討議は一般的とは言えない。討議の成果が可能な授業設計が必要である。小グループで交代しながら討議を繰り返す場合には、それ以外の学生が果たす役割を明確にしておく必要がある。成績評価方法についても明確にし、予め受講者に示しておくことも重要である。また、テーマの難易度が高すぎる場合にはうまく機能しないことのあるため、教員は進行をよく観察し、時には介入することも必要である。学生同士で議論させる機会を作るだけではなく、議論を行うための知識や経験を持たせた上でお互いの考えを深めたり、議論の結果としてテーマに関する学修を深める意欲につながったりするように、授業を設計する必要がある。
【１１】	ディスカッション	グループでの討議・話し合い。学生同士の相互の意見交換を通して、各人の持つ知識・経験などが共有され、討議課題への理解が深まることが期待される。自由討議法は、内容も役割も自由に議論することになる。	
【１２】	プレゼンテーション	指示されたテーマや課題について、グループもしくは単独で調査・学習を行い、聴衆の前で発表す形態。発表形式は、パワーポイントなどの情報機器を活用したものや、ポスターセッションなど様々である。発表後は他の受講者や教員からの質疑に応答する。	プレゼンテーションの回数と成績評価方法を予め明確にしておく必要がある。プレゼンテーションをする学生と聞く学生の学修課題の明確化、評価基準の明確化が必要である。プレゼンテーションを聞くことが、学び合いにつながるように、質疑応答の時間を十分に確保すること、プレゼンテーション後に各学生が何を学んだかをふり返る機会も設けることなども考慮することが重要である。
【１３】	輪読学習	書物を数人が順番に読んで解釈し、問題点について論じ合う学習方法である。一般的には、書物をいくつかの部分に分け、それぞれ担当者に割り当て、担当者はその部分の論点をまとめ、授業で発表する。それを受けて、分からなかった部分や疑問点などについて、各自の見解を論じ合う。	単純に学生に書物の部分を割り振り、発表させるのではなく、教員側では論じ合う問題点や解釈を適宜チャネリングすることも必要である。輪読する書物の選択は十分な考慮を必要とする。受講者数を考えた授業設計は必要であり、例えば５０名の受講者なら、発表者が５名で、１０回で全員が担当する場合には、各回で残りの４５名が何をするのかを、全員の学習機会の保証という視点で考えておく必要がある。またそれに伴なった成績評価方法も必要である。
【１４】	双方向型問題演習	与えられた課題やテーマについて学生が答案やレポート・小論文を作成し、それを教員が添削・採点してフィードバックしたものを、再度学生が確認し理解を深める学習方法である。教員とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをとることにより、学修意欲を引き出すねらいもある。学生は自らの理解度を確認し、新たな気づきや課題を見いだすことが期待される。	学生の能動的な学修をひきだすところにねらいがある。出題した課題の解答例や解説を示すとともに、双方向演習としてのフィードバックが不可欠となる。
【１５】	双方向型執筆演習		
【１６】	振り返り	授業の途中や終了時に、理解したことや分からなかったこと等について確認を行い、理解の促進を図る学習方法である。確認の方法としては、振り返りシート等の記入、確認テスト（小テスト)、ペア・グループワークによる意見の共有などがある。	学生は、講義を聞いただけ、体験しただけでは、次の機会に学修内容を応用できない可能性があり、学修内容や自らの言動を振り返る機会を設けることが有効であるという考え方に基づく。振り返りを促すための支援方法が重要であり、単に振り返るだけでなく、その後の主体的（能動的)学修へつなげることが重要である。
【１７】	体験型学習	教員による講義等を中心とする授業形態ではなく、学外機関・企業等における体験学習を中心とする、インターンシップ、サービス・ラーニング、ボランティア活動などが挙げられる。	学外における体験活動等を完結するだけではアクティブ・ラーニングとはならない。事前準備・指導、体験活動・事後指導・展開等を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠である。活動期間中における受け入れ先の評価と併せて、事前事後の取組状況を加味して評価を行うことが重要である。また、成績評価法の明確化が必要である。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
教養基礎演習	共通	卒業必修	1年 前学期	演習	1	中野（なかの）・米山（よねやま）・佐藤（さとう）・平尾（ひらお）	複数・クラス分け

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	6・7, 12,14

授業の概要

本学の学生として身につけてほしい基礎的な知識・技能を学び、その中から豊かな生活をするために必要なことを自ら選びとることができるようになるために設定している科目である。はじめに本学園の礎となる、建学の精神・校訓・歴史・伝統について学ぶ。そのうえで、社会で活動するために必要となる基礎的な知識及び能力・豊かな教養を身につける。さらにこの学修成果を獲得するために欠かせない、円滑なコミュニケーション方法やマナー、社会常識について理解し、活用できるようにする。また、短期大学で必要とされる学修方法を習得するために、レポートや文章の書き方、プレゼンテーション技術および聴講姿勢を身につけ、まとめとして礼節をもって短大での学びの成果を報告する方法を学ぶ。

成績評価方法

以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。
(1)授業内課題等及びプレゼンテーション(40%)
(2)文章表現力(30%)
(3)受講態度(30%)以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。

再評価の成績評価方法

再試験は(1)の課題の提出及びプレゼンテーション実施により点数が更新される。
再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・コミュニケーションやマナーの必要性を説明することができ、短大生として円滑に双方向のコミュニケーションをとることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】
・社会生活に必要なマナー・社会常識を十分に理解し、状況に応じて使うことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】
・プレゼンテーションのために構成を考えて論理性のある原稿を作成し、聴衆の前で模範的なスピーチをすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】
・話者の話を「聴く」ことができ、質問することができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】
・レポートの書き方や文献の検索方法を理解したうえで、必要条件を満たし、文献を基に自分の考えを含めた内容のレポートが提出できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】
・主体的にプロジェクト学習を進め、相手にも配慮しながら状況に応じた内容の文章を書くことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】
・学校行事参加を通じて主体的かつ積極的に物事に取り組む姿勢を身につけ、さらに他者との連携・協力体制の重要性を理解し、実践できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】

到達（成績評価A）目標

・コミュニケーションやマナーの必要性を説明することができ、短大生として円滑にコミュニケーションをとることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】
・社会生活に必要なマナー・社会常識を理解し、状況に応じて使うことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】
・プレゼンテーションのために構成を考えて原稿を作成し、聴衆の前で模範的なスピーチをすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】
・話者に対して聴く姿勢を示すことができ、質問することができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】
・レポートの書き方や文献の検索方法を理解したうえで、必要条件を満たし、自分の考えを含めた内容のレポートが提出できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】
・主体的にプロジェクト学習を進め、相手に対し状況に応じた内容の文章を書くことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】
・学校行事参加を通じて主体的かつ積極的に物事に取り組む姿勢を身につけ、さらに他者との連携・協力体制の重要性を理解できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】

到達（成績評価B）目標

・コミュニケーションやマナーの必要性を理解し、短大生としてコミュニケーションをとることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】
・社会生活に必要なマナー・社会常識を理解し、使うことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】
・プレゼンテーションのための原稿を作成し、聴衆の前で自分らしくスピーチすることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】
・話者に対して聴く姿勢を示すことができ、質問が思い浮かぶようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】
・レポートの書き方を理解したうえで、必要条件を満たした内容のレポートが提出できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】
・主体的にプロジェクト学習に取り組み、基本に則った内容の文章を書くことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】
・学校行事参加を通じて主体的に物事に取り組む姿勢を身につけ、さらに他者との連携・協力体制の重要性を理解できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・コミュニケーションやマナーの必要性を概ね理解し、短大生としてコミュニケーションをとることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】
・社会生活に必要なマナー・社会常識を概ね理解し、使うことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】
・プレゼンテーションのための原稿を作成し、聴衆の前でスピーチすることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】
・話者に対して聴く姿勢を示すことができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】
・レポートの書き方を理解したうえで、内容のレポートが提出できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】
・主体的にプロジェクト学習に取り組み、文章を書くことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】
・学校行事参加を通じて主体的に物事に取り組む姿勢について考え、さらに他者との連携・協力体制の重要性を理解できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】

教科書

なし

参考書・資料

各授業の講師が必要に応じて資料を配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題及びスピーチ原稿等は添削等ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業の内容により、担当教員が指定したクラス分けを行って実施する。
・スケジュール、講師はクラスによって異なることがある。
・講師の都合等により、授業の順序が変更になることもある。
・欠席した場合は、出校した際に必ずその回の担当講師に連絡を取り、課題等について情報を得る。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
教養基礎演習	共通	卒業必修	1年 前学期	演習	1	中野・米山・佐藤・平尾	複数クラス分け	6･7, 12,14

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	建学の精神、オリエンテーション	愛国学園の建学の精神・校訓・学園の歴史を学ぶ、本科目の意義と進め方、短大生活におけるマナーについて	複数
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる。建学の精神と校訓を音読してくる(キャンパスガイド参照)。	
	事後学習 40分	授業の内容を振り返り、短期大学で学ぶということを再度確認する。	
2	自己紹介（プレゼンテーション1）	簡易のスピーチ原稿の作成、自己紹介スピーチの実施、他のスピーチ傾聴を学ぶ。	クラス分け複数
	事前学習 30分	1分間で自分自身を紹介するための題材および原案について考えてくる。	
	事後学習 30分	自分のスピーチについて振り返る。	
3	短期大学で必要な学修方法(初年次教育)	資料のファイリング法、学生生活における時間管理、試験と成績評価、メールの仕方、レポートの書き方について学ぶ。	佐藤
	事前学習 30分	事前にキャンパスガイドの該当ページ及び配布資料を読んでくる。	
	事後学習 90分	ファイリング、時間管理、メール等について、日常生活において学んだことを実践する。レポートを完成させ、提出する。	
4	防犯セミナー、ボランティア活動について	小岩警察署による防犯セミナーを聴講する。ボランティア活動を理解し、実践への心構えをまとめる。	外部講師・中野
	事前学習 30分	自分または周囲の人に危険を感じたことを整理する。	
	事後学習 30分	防犯のために必要なことを実践する。自分がどのようなボランティア活動ができるか考え、実践に向けて計画をたてる。	
5	ボランティア活動の実践	「江戸川区役所周辺の地域清掃とパトロール」というボランティア活動に参加し活動地域の安全・安心の向上に寄与することで地域貢献を考える。	複数
	事前学習 30分	ボランティア活動とは何か調べてみる。	
	事後学習 30分	ボランティア活動を実践してその意義についてまとめる。	
6	疾病予防セミナー	女性のライフサイクルにおける特有の疾病予防について理解を深める。	外部講師
	事前学習 30分	女性特有の疾病についての自分の知識を把握しておく。	
	事後学習 30分	女性特有の疾病についての心構えを構築する。	
7	テーマに沿ったスピーチ1　（プレゼンテーション2）	テーマに沿ったスピーチをするための原稿を作成する。	クラス分け複数
	事前学習 30分	テーマに沿ったスピーチに用いる内容を考えてくる。	
	事後学習 30分	スピーチの原稿の構成を考える。	
8	テーマに沿ったスピーチ2	スピーチ原稿を完成させ、スピーチの練習をする。	クラス分け複数
	事前学習 30分	原稿の内容をまとめる。	
	事後学習 40分	スピーチの練習をする。	
9	テーマに沿ったスピーチ3	個人発表及び聴講	クラス分け複数
	事前学習 40分	スピーチの練習をする。	
	事後学習 30分	自分の課題をみつけ、原稿を提出する。	
10	なでしこ祭（学園祭）参加	なでしこ祭に参加し、学生・教職員及び来場者との交流を深める。	複数
	事前学習 180分	なでしこ祭の準備に主体的に取り組む。	
	事後学習 30分	なでしこ祭全体を振り返り、自分の取り組み方について考え、感想を書く。	
11	創立記念祭参加	創立記念祭に参加し、愛国学園で学ぶ意義を再考する。	複数
	事前学習 60分	建学の精神と校訓を再確認（キャンパスガイド参照）すると共に参加競技等の練習をする。	
	事後学習 60分	一連の行事を通じて愛国学園で学ぶ意義をまとめ、自分の将来像を考え、感想を書く。	
12	公開講演会参加	公開講演会に参加し、講演内容を理解する。	外部講師
	事前学習 30分	公開講演会のテーマ及び講演者について調べる。	
	事後学習 30分	公開講演会の内容を振り返り、感想を書く。	
13	学修成果発表会参加	学修成果発表会において自分の学修成果を発表する。他学年・他専攻の学修内容について理解する。	複数
	事前学習 180分	自分の学修成果をまとめ、発表の練習をする。	
	事後学習 30分	学修成果発表会について振り返り、感想を書く。次年度の自分の研究テーマについて考える。	
14	全体の振り返り・まとめ	各項目内容を振り返り、自分の生活のおける行動変容を進める。	複数
	事前学習 60分	これまでの学修内容を振り返り、行動変容できることを考える。	
	事後学習 30分	全体の内容を振り返り、短期大学生活に活かす。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
情報技術	共通	卒業必修	1年 前学期	演習	1	前田（まえだ） 康智（やすとも）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
なし	該当なし	6・7,14

授業の概要

文書作成ソフトウェアによる各種文書の作成、表計算ソフトウェアによる各種帳票の作成、帳票に必要な計算式・関数の作成、プレゼンテーションソフトウェアによる発表資料の作成についてそれぞれ練習を繰り返し行い、演習課題を通じて理解につなげる。また、情報を取り扱うためのマナーについて学ぶ。

成績評価方法

(1)受講態度(10%)
(2)毎回授業の課題提出(30%)
(3)パソコンと筆記による定期試験(60%)
の総合評価

再評価の成績評価方法

再試験は(3)による試験を実施し、(3)の点数が更新される。
再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器の基本操作や基本機能を十分熟知している。【DP1:知識・技能】
・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器を利活用する上で必要となるモラルやマナーを十分熟知している。【DP1:知識・技能】
・上記操作と機能・モラルやマナーを十分熟知した上で、ビジネス文書や大学生として求められるレポート文書の書き方を十分熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
・上記操作と機能・モラルやマナーを十分熟知した上で、大学生として求められるプレゼンテーションを十分熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
・上記操作と機能・モラルやマナーを十分熟知した上で、大学生として求められる表計算を十分熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価A）目標

・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器の基本操作や基本機能を大部分熟知している。【DP1:知識・技能】
・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器を利活用する上で必要となるモラルやマナーを大部分熟知している。【DP1:知識・技能】
・上記操作と機能・モラルやマナーを大部分熟知した上で、ビジネス文書や大学生として求められるレポート文書の書き方を大部分熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
・上記操作と機能・モラルやマナーを大部分熟知した上で、大学生として求められるプレゼンテーションを大部分熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
・上記操作と機能・モラルやマナーを大部分熟知した上で、大学生として求められる表計算を大部分熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価B）目標

・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器の基本操作や基本機能をある程度熟知している。【DP1:知識・技能】
・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器を利活用する上で必要となるモラルやマナーをある程度熟知している。【DP1:知識・技能】
・上記操作と機能・モラルやマナーをある程度熟知した上で、ビジネス文書や大学生として求められるレポート文書の書き方をある程度熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
・上記操作と機能・モラルやマナーをある程度熟知した上で、大学生として求められるプレゼンテーションをある程度熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
・上記操作と機能・モラルやマナーをある程度熟知した上で、大学生として求められる表計算をある程度熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器の基本操作や基本機能を基本的に熟知している。【DP1:知識・技能】
・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器を利活用する上で必要となるモラルやマナーを基本的に熟知している。【DP1:知識・技能】
・上記操作と機能・モラルやマナーを基本的に熟知した上で、ビジネス文書や大学生として求められるレポート文書の書き方を基本的に熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
・上記操作と機能・モラルやマナーを基本的に熟知した上で、大学生として求められるプレゼンテーションを基本的に熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
・上記操作と機能・モラルやマナーを基本的に熟知した上で、大学生として求められる表計算を基本的に熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】

教科書

『情報利活用基本演習Office2019対応』　日経BP社 ¥1,815
『2025事例でわかる 情報モラル＆セキュリティ30テーマ』実教出版 ¥510

参考書・資料

なし（適宜プリントを配布する）

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・毎回の授業に演習課題を課す。欠席した場合は、資料を取りに来るだけでなく、ある程度はその欠席した分の課題に取り組むことを期待する。
・13回目の授業では情報操作の総復習の問題を課す。
・14回目の授業では定期試験前の総まとめの問題を課す。
・やむを得ず欠席した場合は、授業内容と連絡事項を必ず聞きに来ること。また、欠席した資料を取りに来ること。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
情報技術	共通	卒業必修	1年 前学期	演習	1	前田 康智	単 独	6・7,14

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス、コンピューターの基本操作1／文書の作成と管理	情報演習室の利用、コンピュータの基本操作、ファイル・フォルダの操作／新規文書の作成・保存、文字の装飾	
	事前学習 30分	シラバスを読んでくる。教科書の該当ページを読んでくる(コンピューターの基本操作のP2～P9と情報利活用Lesson1のP21～34)	
	事後学習 60分	情報演習室の利用方法を確認、ファイル・フォルダの操作、Wordの文書の作成と管理を復習する	
2	コンピューターの基本操作2／ 一般的なビジネス文書の作成	ファイル・フォルダの操作、ファイルの種類と拡張子、PDFファイルの作成／社外・社内文書の書き方、文字位置（インデント、タブ）	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる(コンピューターの基本操作のP8～P11と情報利活用Lesson2のP35～47)	
	事後学習 60分	ファイルの種類、PDFファイルの作成、Wordのビジネス文書の書き方とインデント・タブを復習する	
3	コンピューターの基本操作3／レポート・報告書の作成1	キーボードのキー機能、かな変換、タッチタイピング練習／大学レポートの書き方、段落設定、書式設定1	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる(コンピューターの基本操作のP16～P18と情報利活用Lesson3のP48～54)	
	事後学習 60分	キーボードのキー機能、Wordの段落設定、書式設定を復習する	
4	メールの書き方／レポート・報告書の作成2	メール文章の書き方と添付ファイルの添付方法／大学レポートの書き方、段落設定、書式設定2	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる(情報利活用Lesson3のP55～64)	
	事後学習 60分	メールの使い方全般、Wordの段落設定、書式設定を復習する	
5	スマートフォン・SNSのマナーほか／他データを利用した文書の作成	スマートフォン・SNSのマナーほか／他文章、Excel、写真の挿入と編集	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる(情報モラル＆セキュリティP2～P13と情報利活用Lesson4のP64～78)	
	事後学習 60分	スマートフォン・SNSのマナーほか、他文章、Excel、写真の挿入と編集を復習する	
6	情報の信ぴょう性ほか／プレゼンテーションの基本作成と文字・イラスト・図表等	情報の信ぴょう性ほか／プレゼンテーションの目的、自己紹介スライドの作成（展開の仕方、見せ方、作り方の基本）、特殊の文字やイラストの挿入、表やグラフの挿入	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる(情報モラル＆セキュリティP14～P19と情報利活用Lesson5と6のP81～106)	
	事後学習 60分	情報の信ぴょう性ほか、PowerPointのグラフ、表の挿入などを復習する	
7	画像の共有と発信ほか／レイアウトデザインとイラスト・写真の活用	画像の共有と発信ほか／レイアウトデザイン（フォント・テーマの適用、スライドマスターの活用）とイラスト・写真の活用	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる(情報モラル＆セキュリティP20～P25と情報利活用Lesson7と8のP107～136)	
	事後学習 60分	画像の共有と発信ほか、PowerPointのフォント、テーマ、スライドマスターなどの操作を復習する	
8	動画の共有と発信ほか／PowerPoint総合問題	動画の共有と発信ほか／PowerPoint総合問題	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる(情報モラル＆セキュリティP26～P31と情報利活用のP206～208)	
	事後学習 60分	動画の共有と発信ほか、PowerPoint総合問題を復習する	
9	オンライン詐欺ほか／表作成の基本動作	オンライン詐欺ほか／文字・数値・数式の入力、ブックの保存	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる(情報モラル＆セキュリティP32～P37と情報利活用Lesson9のP141～P154)	
	事後学習 60分	オンライン詐欺ほか、Excelの表作成の基本動作を復習する	
10	個人情報と情報提供ほか／表の編集操作	個人情報と情報提供ほか／幅の調整、表構成の変更、セル内編集	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる（情報モラル＆セキュリティP38～P43と情報利活用Lesson10のP156～P167)	
	事後学習 60分	個人情報と情報提供ほか、Excelの表の入力・編集を復習する	
11	個人情報の保護ほか／数式・関数による集計表の作成	個人情報の保護ほか／絶対・相対参照、合計・平均、最大・最小、四捨五入、条件式など	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる(情報モラル＆セキュリティP44～P49と情報利活用Lesson11のP170～P184)	
	事後学習 60分	個人情報の保護ほか、Excelの数式・関数による集計表の作成を復習する	
12	個人認証ほか／グラフの作成・編集	個人認証ほか／グラフのラベル・目盛、要素の書式	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる(情報モラル＆セキュリティP50～P55と情報利活用Lesson12のP187～P199)	
	事後学習 60分	個人認証ほか、Excelのグラフの作成と編集を復習する	
13	コンピュータウイルスほか／Excel総合問題	コンピュータウイルスほか／Excel総合問題	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる(情報モラル＆セキュリティP56～P61と情報利活用・総合問題のP209～P212)	
	事後学習 60分	コンピュータウイルスほか、Excel総合問題を復習する	
14	無線LANと暗号化ほか／情報操作総復習	無線LANと暗号化ほか／全体の振り返り（Word2019、Excel2019、PowerPoint2019総復習）	
	事前学習 30分	教科書の全ページを読んでくる(情報モラル＆セキュリティP62～P67と情報利活用Lesson1～12)	
	事後学習 60分	今までの授業の操作全てを復習する	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
データサイエンス	共通	卒業必修	1年 後学期	演習	1	前田（まえだ） 康智（やすとも）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
なし	該当なし	6・7,14

授業の概要

現在では、ICT（情報通信技術）やIoT（全てのモノがインターネットと接続）の進展により、いつでもどこでも大容量のデータ通信が可能となり、いわゆるビッグデータが日々蓄積されています。データに基づき自然や社会における不確定な事象を把握し、物事を適切に判断しなければならなくなりました。さらに、仮想空間と現実空間が融合した超スマート社会（Society5.0）になるとも言われ、第4次産業革命の中にあり、それらの実現のためには、IoTやAI（人工知能）、ビッグデータ、ロボットに精通する人材育成が求められています。本授業では、Society5.0時代に生きる人が身につけるべきデータサイエンス（データの読み書き能力）のリテラシー（素養）レベルの知識を修得することを目的とします。具体的には、データサイエンスの社会的な役割、必要とされる統計の知識、データの取得方法、Excelを用いたデータ分析方法などを取り上げます。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
(1)受講態度(10%) (2)毎回授業の課題提出(40%) (3)定期試験(50%) の総合評価	再試験は(3)に替わるレポート課題を実施し、(3)の点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

(1)Society5.0、AI、IoT、ビッグデータ等の意味、活用方法を最大限理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(2)事例を通してのデータサイエンスの必要性、活用プロセス（データ収集・分析・考察・表現）、活用方法を最大限理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(3)データ分析における手法（Excelによる各種計算、データベースの扱い、クロス集計表の作成、各種グラフの作成、統計調査、代表値の計算、度数分布（表）、相関係数、回帰式など）を最大限理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(4)オープンデータを活用したデータサイエンスの実践を最大限理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(5)PowerPointを使用して分析結果をまとめ、分かりやすく効果的に表現する「情報デザイン」の実践を最大限理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価A）目標

(1)Society5.0、AI、IoT、ビッグデータ等の意味、活用方法を大部分理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(2)事例を通してのデータサイエンスの必要性、活用プロセス（データ収集・分析・考察・表現）、活用方法を大部分理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(3)データ分析における手法（Excelによる各種計算、データベースの扱い、クロス集計表の作成、各種グラフの作成、統計調査、代表値の計算、度数分布（表）、相関係数、回帰式など）を大部分理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(4)オープンデータを活用したデータサイエンスの実践を大部分理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(5)PowerPointを使用して分析結果をまとめ、分かりやすく効果的に表現する「情報デザイン」の実践を大部分理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価B）目標

(1)Society5.0、AI、IoT、ビッグデータ等の意味、活用方法を大方理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(2)事例を通してのデータサイエンスの必要性、活用プロセス（データ収集・分析・考察・表現）、活用方法を大方理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(3)データ分析における手法（Excelによる各種計算、データベースの扱い、クロス集計表の作成、各種グラフの作成、統計調査、代表値の計算、度数分布（表）、相関係数、回帰式など）を大方理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(4)オープンデータを活用したデータサイエンスの実践を大方理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(5)PowerPointを使用して分析結果をまとめ、分かりやすく効果的に表現する「情報デザイン」の実践を大方理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

単位取得（成績評価C）目標

(1)Society5.0、AI、IoT、ビッグデータ等の意味、活用方法を基本的に理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(2)事例を通してのデータサイエンスの必要性、活用プロセス（データ収集・分析・考察・表現）、活用方法を基本的に理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(3)データ分析における手法（Excelによる各種計算、データベースの扱い、クロス集計表の作成、各種グラフの作成、統計調査、代表値の計算、度数分布（表）、相関係数、回帰式など）を基本的に理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(4)オープンデータを活用したデータサイエンスの実践を基本的に理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
(5)PowerPointを使用して分析結果をまとめ、分かりやすく効果的に表現する「情報デザイン」の実践を基本的に理解し、専攻の授業に活かすことができる。【DP1:知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

教科書

『はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス』 noa出版 ¥2,200

参考書・資料

なし（適宜プリントを配布する）

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・必ず事前に教科書の該当ページを読んでから授業を受けるようにすること。事前の準備がないと、いきなり話を聞いても理解が深まらず、授業についていくのが大変になるため。
・毎回の授業に演習課題を課す。欠席した場合は、資料を取りに来るだけでなく、ある程度はその欠席した分の課題に取り組むことを期待する。
・やむを得ず欠席した場合は、授業内容と連絡事項を必ず聞きに来ること。また、欠席した資料を取りに来ること。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
データサイエンス	共通	卒業必修	1年 後学期	演習	1	前田 康智	単 独	6・7,14

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	社会で起きている変化	Society5.0とは、AIとは、ビッグデータの活用方法、AI時代に求められる人材となるために	
	事前学習 30分	シラバスを読んでくる。教科書の2～18ページを読んでくる	
	事後学習 60分	Society5.0とは、AIとは、ビッグデータの活用方法、AI時代に求められる人材となるために、を復習する	
2	データサイエンスとは	データサイエンスとは、データサイエンスの役割と目的、データサイエンスとしてのデータ活用のプロセス、データの取得と管理、情報倫理	
	事前学習 60分	教科書の20～29ページを読んでくる	
	事後学習 60分	データサイエンスとは、データサイエンスの役割と目的、データサイエンスとしてのデータ活用のプロセス、データの取得と管理、情報倫理を復習する	
3	データ分析１	データの前処理、統計処理の流れ、分析と結果の考察、データを表・図で可視化（表・グラフの表現）	
	事前学習 60分	教科書の30～48ページを読んでくる	
	事後学習 90分	データの前処理、統計処理の流れ、分析と結果の考察、データを表・図で可視化（表・グラフの表現）を復習する	
4	データ分析２	データの活用事例１（顧客分析を行い、必要とされる統計処理を行う）	
	事前学習 60分	教科書の50～64ページを読んでくる	
	事後学習 90分	顧客分析を行ったときの統計処理で、ピボットテーブルの使い方、分析ツールの使い方、代表値の求め方を復習する。	
5	データ分析３	データの活用事例２（販売予測を行い、必要とされる統計処理を行う）	
	事前学習 60分	教科書の64～77ページを読んでくる	
	事後学習 90分	販売予測を行ったときの統計処理で、散布図の描画、相関係数、回帰式の求め方を復習する。	
6	データ分析４	データの活用事例３（品質管理を行うにあたり、必要とされる統計処理を行う）	
	事前学習 60分	教科書の78～89ページを読んでくる	
	事後学習 90分	品質管理を行うときの統計処理で、標本や標本調査に関する考え方、正規分布とばらつきを復習する。	
7	データ分析５	データ分析に必要なExcelの基本機能（各種計算式、関数の使い方）	
	事前学習 60分	教科書の90～101ページを読んでくる	
	事後学習 90分	加減乗除の計算式、個数を数える、四捨五入、順位、検索、条件式、AND・OR等の関数の使い方を復習する。	
8	データ分析６	データベース・テーブルの扱い方（並び替え、抽出）とクロス集計表の作成（ピボットテーブル）	
	事前学習 60分	教科書の102～110ページを読んでくる	
	事後学習 90分	データベースの管理の仕方、フィールドとレコード、並び替え、抽出の方法、クロス集計表作成のためにピボットテーブルの使い方を復習する。	
9	データ分析７	グラフの視覚化とグラフ選択・作成・修正、標本調査とその方法	
	事前学習 60分	教科書の111～121ページを読んでくる	
	事後学習 90分	データの規則性・傾向・特徴からグラフの選択～修正まで、標本調査と標本調査の方法について復習する。	
10	データ分析８	データの要約（代表値の各種計算）、度数分布表と度数分布・ヒストグラムの作成、正規分布に従うこと	
	事前学習 60分	教科書の122～133ページを読んでくる	
	事後学習 90分	代表値の計算、度数分布表と度数分布・ヒストグラムの作成、正規分布に従うこととは何かを復習する。	
11	データ分析９	統計的確率とは、二つの関係の可視化・数値化（散布図・相関係数）	
	事前学習 60分	教科書の134～145ページを読んでくる	
	事後学習 90分	統計的確率とは何か、また二つの関係を可視化・数値化する方法として、散布図と相関係数を復習する。	
12	データ分析１０／公的データ活用の実践１	二つの関係のモデル化（回帰分析）／公的統計データの入手１（推計値・国勢調査等のデータと構成比の計算、グラフ等の可視化）	
	事前学習 60分	教科書146～155ページを読んでくる	
	事後学習 90分	回帰分析、公的データの入手方法と分析方法、可視化（複合グラフ・ドーナツグラフの見せ方）を復習する。	
13	公的データ活用の実践２	公的統計データの入手２（データの分類、比率の計算、グラフ・図形等の可視化）	
	事前学習 60分	教科書156～157ページを読んでくる	
	事後学習 90分	公的統計データの入手方法と分析・分類方法、可視化を復習する。	
14	データの表現／AI時代の社会、データ分析・公的データ活用のまとめ	データ分析結果のデジタル表現（プレゼンテーション資料の作成としてデザイン、ビジュアル表現の使い方）、総まとめ	
	事前学習 60分	教科書164～175ページを読んでくる	
	事後学習 90分	プレゼンテーション資料にまとめ、論理展開、情報の画像・図解、グループ化、表化、グラフ化、文字装飾、配色等の表現を復習する	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
ビジネスワード・パワーポイント	共通	選択	1年 後学期	演習	1	前田（まえだ） 康智（やすとも）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
情報技術単位取得者	該当なし	6・7,14

授業の概要

1～7回目授業では文書作成ソフトウェアWordについて、8～14回目授業では、プレゼンテーションソフトウェアPowerPointについて、決められた目的や課題に対して正確に、美しく、速く作るための基礎・応用を学びながら、繰り返しの演習を通じ、他授業や就職に向けて実践的な技能を得ることを目指す。資格取得が十分可能な学生に対して、Word文書処理技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の2級取得を目指すための試験対策またはPowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の上級取得を目指すための試験対策を行う。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
(1)受講態度(10%) (2)Word課題の提出(45%) (3)PowerPoint課題の提出(45%) の総合評価	各自の提出状況に応じて、(2)または(3)、(2)と(3)の両方の再提出となり、(2)(3)の点数が更新される。再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の2級取得またはPowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、Word文書処理技能認定試験2級とPowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、総合的でかつ最大限のプレゼンテーション処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価A）目標

各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の2級取得またはPowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、本授業は、Word文書処理技能認定試験2級とPowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、求められるプレゼンテーション処理が大部分できるようになる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価B）目標

各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の2級取得またはPowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、Word文書処理技能認定試験2級とPowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、求められる中程度のプレゼンテーション処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の2級取得またはPowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、本授業は、Word文書処理技能認定試験2級とPowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、基本的なプレゼンテーション処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】

教科書

なし

参考書・資料

なし（必要に応じて資料を配布する）

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・前半の1～7回目は資格取得対策も兼ねた実践的な正確で美しく訴求力のある文書作成を目指した課題作成に取り組む。後半の8～14回目は資格取得対策も兼ねた実践的な正確で美しく訴求力のあるプレゼンテーションを目指した課題作成に取り組む。
・資格受検は希望者のみではあるが、履修者全員に資格レベルの内容を求めているため、決められた時間と期間（期限）の中でいかに速くこなせるかを考えながら課題作成に取り組むこと。
・資格受検を希望した場合、または希望しない場合でも、課題作成の様子を見てから教員が受検を勧める、または勧めないの判断をする場合がある。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
ビジネスワード・パワーポイント	共通	選択	1年 後学期	演習	1	前田 康智	単独	6・7,14

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	Word文書処理　知識問題対策１	作業環境・環境の設定と変更、書式設定、ファイル・ページ設定・印刷	
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	作業環境・環境の設定と変更、書式設定、ファイル・ページ設定・印刷を復習する	
2	Word文書処理　知識問題対策２	文書編集、罫線と表、オブジェクト	
	事前学習 60分	配布資料を読んでくる	
	事後学習 60分	文書編集、罫線と表、オブジェクトを復習する	
3	Word文書処理　実技問題対策１	文章入力を速く行う練習、ページ設定、ヘッダー・フッターの作成・編集	
	事前学習 60分	配布資料を読んでくる	
	事後学習 60分	文章入力を速く行う練習、ページ設定、ヘッダー・フッターの作成・編集を復習する	
4	Word文書処理　実技問題対策２	画像の編集、ワードアートの編集、文字書式・段落書式の設定、表の編集	
	事前学習 60分	配布資料を読んでくる	
	事後学習 60分	画像の編集、ワードアートの編集、文字書式・段落書式の設定、表の編集を復習する	
5	Word文書処理　実技問題対策３	スタイルの作成と適用、段組み、改ページ、段区切り、図形の編集	
	事前学習 60分	配布資料を読んでくる	
	事後学習 60分	スタイルの作成と適用、段組み、改ページ、段区切り、図形の編集を復習する	
6	Word文書処理　実技問題対策４	実技問題対策のまとめ	
	事前学習 60分	3回目～5回目の内容をもう一度確認する	
	事後学習 100分	実技問題が90分以内で完成できるかどうか復習する	
7	Word文書処理　実技問題対策５	実技問題対策のまとめ	
	事前学習 60分	3回目～6回目の内容をもう一度確認する	
	事後学習 100分	実技問題が90分以内で完成できるかどうか復習する	
8	PPプレゼンテーション　知識問題対策１	作業環境、環境の設定と変更、書式設定、スライド、ファイル	
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	作業環境、環境の設定と変更、書式設定、スライド、ファイルを復習する	
9	PPプレゼンテーション　知識問題対策２	編集、罫線と表、オブジェクト、校閲	
	事前学習 60分	配布資料を読んでくる	
	事後学習 60分	編集、罫線と表、オブジェクト、校閲を復習する	
10	PPプレゼンテーション　実技問題対策１	スライドマスター、フッターの編集、レイアウトの編集	
	事前学習 60分	配布資料を読んでくる	
	事後学習 60分	スライドマスター、フッターの編集、レイアウトの編集を復習する	
11	PPプレゼンテーション　実技問題対策２	アニメーション、ハイパーリンク、動作設定ボタン、画面切り替え	
	事前学習 60分	配布資料を読んでくる	
	事後学習 60分	アニメーション、ハイパーリンク、動作設定ボタン、画面切り替えを復習する	
12	PPプレゼンテーション　実技問題対策３	スライドマスターの復習	
	事前学習 60分	配布資料を読んでくる	
	事後学習 60分	スライドマスターをもう一度再復習する	
13	PPプレゼンテーション　実技問題対策４	実技問題対策のまとめ	
	事前学習 60分	10回目～12回目の内容をもう一度確認する	
	事後学習 100分	実技問題が90分以内で完成できるかどうか復習する	
14	PPプレゼンテーション　実技問題対策５	実技問題対策のまとめ	
	事前学習 60分	10回目～13回目の内容をもう一度確認する	
	事後学習 100分	実技問題が90分以内で完成できるかどうか復習する	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
ビジネスエクセル	共通	選択	1年 後学期	演習	1	前田（まえだ） 康智（やすとも）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
情報技術単位取得者	該当なし	6・7,14

授業の概要

現在の学生生活、その先の仕事や社会生活で使われる可能性の高いものを例に挙げ、表計算ソフトEXCELを活用して処理する方法を取り上げる。時間・金額等のデータ記録管理、検索抽出などのデータ操作と活用、グラフを活用した視覚的な表現力の向上を目指しながら、入力ミスを防ぐ方法や、データベースを表に集計する方法などを学ぶ。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
(1)受講態度(10%) (2)毎回授業の課題提出(40%) (3)定期試験(50%) の総合評価	再試験は(3)による試験を実施し、(3)の点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、総合的に処理することができる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価A）目標

さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてほぼミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、大部分処理することができる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価B）目標

さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてほぼミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、大方処理することができる。【DP1:知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、基本的な部分を処理することができる。【DP1:知識・技能】

教科書

なし（毎回資料を配布する）

参考書・資料

なし（適宜プリントを配布する）

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・毎回の授業に演習課題を課す。欠席した場合は、資料を取りに来るだけでなく、ある程度はその欠席した分の課題に取り組むことを期待する。
・やむを得ず欠席した場合は、授業内容と連絡事項を必ず聞きに来ること。また、欠席した資料を取りに来ること。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
ビジネスエクセル	共通	選択	1年 後学期	演習	1	前田 康智	単 独	6・7,14

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	アンケート集計	表作成、式・関数計算、条件付き書式、データの抽出	
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
2	アルバイトの時間・時給計算	日付、時刻の管理、金額計算	
	事前学習 60分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
3	納品書・請求書	納品書とは、商品コード、商品名の検索、入力規則	
	事前学習 60分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
4	請求書	請求書とは、商品コード、商品名の検索	
	事前学習 60分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
5	売上分析、栄養成分表、体制表	表の印刷、特殊なグラフ、SmartArtグラフィック	
	事前学習 60分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
6	家計簿	日付関数、収入残高計算、月単位と年単位の管理	
	事前学習 60分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
7	売上分析の可視化（様々な特殊グラフ）	シートの連携、複合グラフ、スパークライン	
	事前学習 60分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
8	売上分析のグループ化（階層的な整理）	レコードの条件抽出・並び替え、小計の出し方	
	事前学習 60分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
9	売上分析の多次元化（多軸による回転的な集計とグラフ）	多次元集計・グラフの方法（ピボットテーブル、ピボットグラフ）	
	事前学習 60分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
10	数学・統計と分布グラフ1	順位関数、ヒストグラム、散布図、近似曲線、照合関数（INDEX・MATCH）、除の関数（商・余り）	
	事前学習 60分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
11	数学・統計と分布グラフ2、配列数式、金利計算、式と文字の結合1	標準偏差、偏差値、度数分布表、金利計算、結合の各種関数	
	事前学習 60分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
12	セル範囲の文字化、条件付き範囲、文字列関数の使用	引数の定義、条件付き範囲の関数、文字列関数（置換・削除等）	
	事前学習 60分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
13	年齢、年月の計算、式と文字の結合2	年齢、年月の計算の関数、式と文字の結合の関数	
	事前学習 60分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
14	まとめ	今までの問題の総復習	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
心理学	共通 （社主事）	選択	1年 前学期	講義	2	佐久間（さくま） 直人（なおと）・原島（はらしま） 雅之（まさゆき）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	6・7,16

授業の概要

心とは何でしょうか。自分にとっても身近で明らかなものであるように思える一方で、考えれば考えるほど複雑で難しいもののようにも思えます。そのような対象について、心理学は100年以上にわたって科学的に解明しようと様々な試みを行ってきました。多くの先人たちがどのような工夫を行い、そしてその結果どのようなことがわかってきたのか、色々な心理学の分野における知見について紹介していきます。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下の項目の総合評価とする。 (1)定期試験（筆記試験）(70%) (2)リアクションペーパーなどの課題(30%)	再試験は(1)の筆記試験を実施し、点数が更新される。 再評価は(1)～(2)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・日常生活における身近な心理学的現象について、授業で学んだ知見をもとに論理的に説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】
・「心のはたらき」における社会的機能や適応的意義について十分に理解し、論理的に説明をすることができるようになる。【DP1：知識・技能】
・「心」を科学的に扱うということについて十分に理解し、論理的に説明ができるようになる。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価A）目標

・日常生活における身近な心理学的現象について、授業で学んだ知見をもとに説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】
・「心のはたらき」における社会的機能や適応的意義について、説明をすることができるようになる。【DP1：知識・技能】
・「心」を科学的に扱うということについて、基本的な説明ができるようになる。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価B）目標

・授業で学んだ心理学的知見について、日常における具体的かつ適切な例を挙げて説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】
・「心のはたらき」について、適切な心理学的用語を使って説明をすることができるようになる。【DP1：知識・技能】
・心理学における実験や調査的手法について、具体的かつ適切な例を挙げて説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

・授業で学んだ心理学的知見について、日常における具体的な例を挙げて説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】
・「心のはたらき」について、心理学的用語を使って説明をすることができるようになる。【DP1：知識・技能】
・心理学における実験や調査的手法について、具体的な例を挙げて説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】

教科書

特になし

参考書・資料

毎回の授業においてプリントを配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題は添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。
・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
心理学	共通 （社主事）	選択	1年 前学期	講義	2	佐久間 直人・原島 雅之	単独	6・7,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	心理学とは	心理学という学問の概要と歴史	佐久間
	事前学習 10分	シラバスを読む	
	事後学習 10分	配布資料について復習する	
2	感覚・知覚①	ものを見る仕組みと錯視	佐久間
	事前学習 10分	心理学が扱う「心」について考えを整理しておく	
	事後学習 20分	身近にある錯視を探してみる	
3	感覚・知覚②	感覚の測定法と法則	佐久間
	事前学習 10分	対象と背景の区別や奥行きの把握など「見る」ことに必要な要素を考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
4	学習・条件づけ①	古典的条件づけによる行動の形成	佐久間
	事前学習 10分	自分の癖や好き嫌いについて考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
5	学習・条件づけ②	道具的条件づけによる行動の形成	佐久間
	事前学習 10分	好き嫌いについて、古典的条件づけを用いた説明を考えておく	
	事後学習 20分	自分の癖や好き嫌いについて心理学的に説明し、修正方法を考えてみる	
6	認知・記憶	認知心理学の成立と基本的な考え方	佐久間
	事前学習 10分	初回講義の内容（特に心理学史）を復習しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
7	認知・思考	日常における認知バイアス	佐久間
	事前学習 10分	第６回の講義で提示される問題について考えておく	
	事後学習 20分	これまでに自分がした法則的な誤謬（認知バイアス）を説明してみる	
8	動機づけ①	モチベーションとは、基本的欲求と目標の追求	原島
	事前学習 10分	自分の目標について考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
9	動機づけ②	目標設定と計画の立て方、自己制御	原島
	事前学習 10分	自分の目標を達成するための計画を考える	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
10	社会的認知①	他者に対する印象、バイアスとステレオタイプ	原島
	事前学習 10分	身近な他者についてのイメージを考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
11	社会的認知②	自己呈示、社会的自己と自尊心	原島
	事前学習 10分	自分自身についてのイメージを考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
12	パーソナリティ①	性格の諸理論、性格の一貫性	原島
	事前学習 10分	自分や他者の性格について考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
13	パーソナリティ②	性格の測定、性格の背景	原島
	事前学習 10分	人の性格はどう調べられるか、どう形作られるかについて考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
14	まとめ	心理学とは何か一全体の振り返り	原島
	事前学習 60分	これまでの学習内容を振り返り、心理学とはどのような学問か、「心のはたらき」とは何かについて、自分の考えを整理しておく	
	事後学習 30分	定期試験に向けての準備をする	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
SDGsと現代の社会問題	共通	選択	2年 前学期	講義	2	オステン・リチャード	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	6・7,9, 11,12,16

授業の概要

この授業では、SDGsの観点から、私たちが直面している人類に関わる深刻な世界的課題について学ぶ。授業の主な目標は、「気候正義」、「企業責任」、「エシカル消費」などの重要な課題に取り組むことを通して、受講者が自らのライフスタイルや日常的な選択について考え、見直すことである。本コースでは、現代社会における差し迫った社会問題を理解し、それらに主体的に向き合う力を養うことを目指す。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)ライフスタイルプロジェクト及び課題(40%) (2)定期試験（筆記試験）(40%) (3)授業中の態度(20%)	再試験は(2)の筆記試験を実施し、点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・グローバル問題を十分理解し、自分ができることを考える能力を十分備えている。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・SDGs について十分な知識があり、SDGsについて説明、及び評価・批判することができる。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・自分のライフスタイルチョイスを判断・評価・批判する能力がある。　【DP4:関心・意欲・態度】

到達（成績評価A）目標

・グローバル問題を大らか理解し、自分ができることを考える能力が備えている。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・SDGs について知識があり、SDGsについて説明、及び評価することができる。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・自分のライフスタイルチョイスを判断・評価する能力がある。　【DP4:関心・意欲・態度】

到達（成績評価B）目標

・グローバル問題をある程度理解し、自分ができることを考えようとする態度がある。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・SDGs についてある程度知識があり、SDGsについて説明することができる。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・自分のライフスタイルチョイスを判断する能力がある。　【DP4:関心・意欲・態度】

単位取得（成績評価C）目標

・グローバル問題をある程度理解し、自分ができることを考えようとする態度がある。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・SDGs についてある程度知識がある。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・自分のライフスタイルチョイスについて見直す態度を示す。　【DP4:関心・意欲・態度】

教科書

なし

参考書・資料

授業ごとにワークシートを配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

なし

課題に対するフィードバック

・課題をチェックし、フィードバックを行う。・レポートの概要・構成をチェックし、アドバイスを提供する

履修上の注意・備考・メッセージ

・積極的な発言が期待され、授業中の質問を歓迎する。
・授業中に遊びでの携帯電話の使用は、減点対象とする。
・欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
SDGsと現代の社会問題	共通	選択	2年 前学期	講義	2	オステン・リチャード	単独	6・7,9, 11,12,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	イントロダクション	SDGsの基本　　カーボンフットプリント　武本匡弘　コースの説明	
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	プリントを復習する・課題を行う	
2	気候正義	SDG 13　　気候変動と人権　　気候変動は私たちの責任なのか　SIDs	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する・課題を行う	
3	生物多様性の喪失	SDG 15　生物多様性の喪失 - 原因と結果　日本と世界	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する・課題を行う	
4	企業責任	SDG 8　企業と環境　グリーンウォッシュ　ステークホルダー　　エシカル消費	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
5	食料供給システム	SDG 2　　気候変動の影響　　フードマイレージ	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
6	水	SDG 6　　水循環　　水資源をめぐる紛争の可能性	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
7	Project (1)	ライフスタイルチョイスを見直すプロジェクト (1)	
	事前学習 15分	以前のワークシートの確認	
	事後学習 60分	課題を行う	
8	Project (2)	ライフスタイルチョイスを見直すプロジェクト(2)	
	事前学習 15分	課題を行う	
	事後学習 60分	課題を行う	
9	エネルギー革命	SDG 7　　エネルギー正義　ネットゼロ	
	事前学習 N/A	N/A	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
10	世界の貧困	SDG 1 / SDG 10　　貧困ライン　歴史的原因　　NGOs　　オーバーツーリズム	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
11	ジェンダー平等	SDG 5　　ジェンダー役割　　賃金差	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
12	環境理論学	SDG 12　　ビジネス vs 政府　気候変動の責任	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する・課題を行う	
13	グローバルヘルス	SDG 3　健康格差　裕福・貧困の国の健康問題	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する・課題を行う	
14	復習	定期テストに向けて復習	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	定期テストに向けてコースの復習	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
異文化と世界	共通	選択	1年 後学期	講義	2	オステン・リチャード	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	3,6・7,9,11,16

授業の概要

授業の目的は、異文化を理解することの重要性と楽しさを学ぶことである。本コースを通じて、グローバル社会において日本人として適切に行動していくための知識や能力を身につけることを目指す。授業は主に二つのテーマから構成される。第一のテーマは、日本の国際関係史を学び、現在の日本の国際的地位を正しく理解することである。第二のテーマは、異文化理解のための視点やツールを学び、日本人以外の人々の習慣や価値観を適切に理解することである。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)期末レポート(40%) (2)課題(40%) (3)授業中の態度(20%)	再試験は(1)の再提出により点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・国際関係の観点から、現在の日本がどのように築かれてきたのを理解し、そのことについて説明・発表ができる。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・現在の日本の世界における位置づけを解釈し、そのことについて説明、及び評価することができる。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・日本と世界に存在する異なる文化を理解し、楽しみながら学ぶ。　【DP4:関心・意欲・態度】

到達（成績評価A）目標

・国際関係の観点から、現在の日本がどのように築かれてきたのを理解し、そのことについて説明・発表ができる　(DP1：知識・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・現在の日本の世界においての位置づけを解釈し、そのことについて説明ができる。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・日本と世界に存在する文化を理解し、楽しみながら学ぶ。　【DP4:関心・意欲・態度】

到達（成績評価B）目標

・国際関係の観点から、現在の日本がどのように築かれてきたのを理解し、そのことについて発表ができる。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・現在の日本の世界においての位置づけを解釈し、そのことについてある程度説明ができる。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・日本と世界に存在する文化を理解し、楽しみながら学ぶ。　【DP4:関心・意欲・態度】

単位取得（成績評価C）目標

・国際関係の観点から、現在の日本がどのように築かれてきたのをある程度理解することができる。　【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・現在の日本の世界においての位置づけを理解することができる。【DP1:知識・技能】・【DP2:思考力・判断力・表現力】
・日本と世界に存在する文化を理解し、楽しみながら学ぶ。【DP4:関心・意欲・態度】

教科書

なし

参考書・資料

授業ごとにワークシートを配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

なし

課題に対するフィードバック

・課題をチェックし、フィードバックを行う。
・レポートの概要・構成をチェックし、アドバイスを提供する

履修上の注意・備考・メッセージ

・積極的な発言が期待され、授業中の質問を歓迎する。
・授業中に遊びでの携帯電話の使用は、減点対象とする。
・欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
異文化と世界	共通	選択	1年 後学期	講義	2	オステン・リチャード	単 独	3,6・7,9, 11,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	イントロダクション	異文化とはなにか？　・コース概要の説明　　・過去と現在の日本領土	
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	プリントを復習する・課題を行う	
2	日本の国際関係史・異文化理解	ソフトパワー　　ジェスチャー　　日本とポルトガルの関係史	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する・課題を行う	
3	日本の国際関係史・異文化理解	日本人の性格　　孔子の影響　　日本とオランダの関係史	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する・課題を行う	
4	日本の国際関係史・異文化理解	Japan? Nihon? Riben?　　時間に関するマナーの違い　日本とイギリスの関係史	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
5	日本の国際関係史・異文化理解	日本の年間行事　　ピーチとココナッツ　　日本とフランスの関係史	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
6	日本の国際関係史・異文化理解	アザリング（他者化）　日本にいる外国人との接し方　日本とドイツの関係史	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
7	日本の国際関係史・異文化理解	ステレオタイプ　　日本の国際関係史のまとめ・復習（1）	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習　N/A	プリントを復習する	
8	日本の国際関係史・異文化理解	ファッション　　低文脈・高文脈文化　　日本の国際関係史のまとめ・復習（2）	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する・課題を行う	
9	日本の国際関係・異文化理解	直訳・飾り英語　言語移転　個人主義・集団主義　日本とアメリカの関係(1)	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
10	日本の国際関係・異文化理解	M-Time / P-Time　　日本とアメリカの関係(2)	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
11	日本の国際関係・異文化理解	シンボル　　現代のアメリカ社会　　アメリカ人と日本人の性格の違い	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
12	宗教（授業中に課題を行う）	謙遜とコミュニケーション　　宗教	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する・課題を行う	
13	まとめ（授業中に課題を行う）	日本語の特徴　　日本の宗教　　性善説・性悪説	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する・課題を行う	
14	まとめ（授業中に課題を行う）	太陽は何色？　　青信号？　　カルチャーショック	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認	
	事後学習 60分	プリントを復習する・課題を行う	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
ボランティア論	共通	選択	1年 前学期	講義	2	中野（なかの） 都（みやこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	11,17

授業の概要

ボランティアの理念、目的、原則、意義、現状、課題を学ぶとともに、履修生がボランティア活動に参加する機会を作り、参加後にはディスカッションの場を設けボランティア活動に対する知見を広げる。また、社会的な活動を通して社会に貢献すること、コミュニケーション能力の向上及び自己実現に向けての機会を得ることとはどのようなことなのかについて共に考える。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)定期試験（筆記試験）(40%) (2)ボランティア体験の活動報告書・レポート(40%) (3)受講態度(20%)	再試験は(1)の筆記試験を実施し、点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目標とする。
1. ボランティアの理念、目的、基本原則を踏まえて自分で興味のあるボランティア活動に参加し、活動の意義について考えをまとめ、自身の表現で説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2. ボランティア活動を通じて自己、他者を知ることができ、コミュニケーション能力の向上及び自己実現の機会となることを理解し、活動の場を積極的に広げることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目標とする。
1. ボランティアの理念、目的、基本原則を踏まえて自分で興味のあるボランティア活動に参加し、活動の意義について考え、説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2. ボランティア活動を通じて自己、他者を知ることができ、コミュニケーション能力の向上及び自己実現の機会となることを理解し、活動の場を広げることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目標とする。
1. ボランティアの理念、目的、基本原則を踏まえて自分で興味のあるボランティア活動に参加し、活動の意義について考えることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2. ボランティア活動を通じて自己、他者を知り、コミュニケーション能力の向上に努め、活動の場を広げることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目標とする。
1. ボランティアの理念、目的、基本原則を踏まえて自分で興味のあるボランティア活動に参加し、活動の意義について論理的な理解には乏しいが考えることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2. ボランティア活動を通じて自己、他者を知り、活動の場を広げることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

授業中に資料・プリントを配布する。

参考書・資料

桜井政成、津止正敏編著：『ボランティア教育の新地平』ミネルヴァ書房￥3,080
岡本榮一、菅井直也他編：『学生のためのボランティア論』 社会福祉法人大阪ボランティア協会￥1,980

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題は添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

1. 講義を受けるだけでなく、日常生活の中でボランティア活動の実践に取り組む。
2. パソコン室では音楽や動画、ゲームの操作及び授業内容に関連のないインターネットの視聴を禁止する。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
ボランティア論	共通	選択	1年 前学期	講義	2	中野 都	単 独	11,17

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ボランティア活動について（1）	ボランティアの理念・目的	
	事前学習 15分	シラバスを読み、学習内容を把握する。	
	事後学習 30分	ボランティアの理念と目的について確認する。	
2	ボランティア活動について（2）	ボランティア活動の基本原則	
	事前学習 15分	ボランティア活動に参加するにはどのような姿勢で臨めばよいかを考える。	
	事後学習 30分	ボランティア活動の基本原則を確認する。	
3	ボランティア活動について（3）	実際のボランティア活動	
	事前学習 15分	ボランティア活動にはどのような種類があるか考える。	
	事後学習 30分	ボランティア活動の種類を理解する。	
4	ボランティア活動について（4）	ボランティア参加の意義	
	事前学習 15分	なぜボランティア活動に参加するのかについて考える。	
	事後学習 30分	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考える。	
5	ボランティア活動について（5）	ボランティア活動と公共	
	事前学習 15分	自分ができる地域貢献について考える。	
	事後学習 30分	社会参加としてのボランティア活動を捉える。	
6	ボランティア活動について（6）	ボランティア活動とNPO法人（特定非営利活動）	
	事前学習 15分	NPO法人の意味を調べておく。	
	事後学習 30分	NPO法人の活動について関心を持つ。	
7	ボランティア活動について（7）	NPO法人の種類とその具体的な活動	
	事前学習 15分	自分が興味ある分野のNPO法人の活動について情報を得る。	
	事後学習 30分	NPO法人の種類とその具体的な活動について理解を深める。	
8	ボランティア活動について（8）	ボランティアセンターの役割と機能	
	事前学習 15分	居住地のボランティアセンター設置の有無を知る。	
	事後学習 60分	居住地のボランティアセンターの活動内容をまとめる。	
9	ボランティア活動について（9）	自分にあったボランティア活動とは	
	事前学習 30分	自分がどんなボランティア活動ができるか、したいかを考える。	
	事後学習 60分	自分にあったボランティア活動を探す。	
10	ボランティア活動について（１０）	ボランティアの心構え	
	事前学習 15分	ボランティア活動に参加するにはどのような心構えで臨めばよいかを考える。	
	事後学習 30分	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考える。	
11	ボランティア活動の実践（1）	国際ボランティア活動とは	
	事前学習 15分	国際ボランティア活動について関心を持つ。	
	事後学習 30分	国際ボランティア活動について情報を収集する。	
12	ボランティア活動の実践（2）	JICA海外協力隊の出前講座	
	事前学習 30分	講師の派遣国について把握して出前講座に臨む。	
	事後学習 60分	出前講座内容をまとめる。	
13	ボランティア活動の実践（3）	学外ボランティア活動の実践	
	事前学習 30分	参加するボランティア活動について内容を把握する。	
	事後学習 60分	参加したボランティア活動内容をまとめ、レポートを完成させる。	
14	まとめ	学外ボランティア活動の報告会	
	事前学習 60分	ボランティア活動内容についてまとめる。前学期全体の学習内容を振り返る。	
	事後学習 60分	報告会の内容を振り返り、自分が関心興味あるボランティア活動について理解を深める。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
キャリア形成Ⅰ	共通	卒業必修	1年 前学期	講義	1	前田（まえだ）　康智（やすとも）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし		6・7,14

授業の概要

キャリアの形成とは、仕事の経歴を積むことだけで実現するものではなく、働くことの意味や人生をどう過ごしたいかという目標を明確にすることが必要であり、実現においては、社会で必要とされるための適応能力を身につけていくことが求められる。本授業では、そのために必要な心構えやマナー、身だしなみ、コミュニケーション、言葉遣いを学ぶ。また、就職活動の流れ、基礎知識、自己分析、企業研究の方法、履歴書の書き方を学び、就職活動に必要な事項を習得し、インターンシップ・オープンカンパニーへの早期参加へ結びつける。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(2)の項目の総合評価とする。 (1)授業内課題(70%) (2)授業への取り組み姿勢(30%)	再試験課題により、(1)の点数が更新される。 再評価は(1)(2)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

1.自分のキャリアデザインについて、具体的に示し、十分な説明ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.就職活動を行うための知識と心得を身につけられるようになる。【DP1：知識・技能】
3.自分を分析し、適切な自己表現ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4.就職活動に必要な企業の情報を目的に応じて得ることができるようになる。【DP1：知識・技能】
5.インターンシップ・オープンカンパニーへの参加登録書類の作成を適切かつプレゼン力を携えて準備できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価A）目標

1.自分のキャリアデザインについて、具体的に示し、説明ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.就職活動を行うための知識と心得を身につけられるようになる。【DP1：知識・技能】
3.自分を分析し、自己表現ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4.就職活動に必要な企業の情報を正しく得ることができるようになる。【DP1：知識・技能】
5.インターンシップ・オープンカンパニーへの参加登録書類を適切に作成できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価B）目標

1.自分のキャリアデザインについて、示すことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.就職活動を行うにあたり基本的な知識と心得がわかるようになる。【DP1：知識・技能】
3.自分を知り、自己表現ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4.企業研究の方法を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】
5.インターンシップ・オープンカンパニーへの参加登録書類を概ね作成できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

単位取得（成績評価C）目標

1.自分のキャリアデザインについて、概ね示すことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.就職活動を行うにあたり基本的な知識の概要と心得がわかるようになる。【DP1：知識・技能】
3.自分を知り、自己表現ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4.企業研究の方法を概ね説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】
5.インターンシップ・オープンカンパニーへの参加登録書類の主要部分を概ね作成できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

教科書

キャリタス就活『就職支援ブック　就職活動編』DISCO（最新版）￥1,320

参考書・資料

必要な資料は適宜配布する。

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし。

課題に対するフィードバック

提出課題は添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

1.やむを得ず欠席した場合は、次回までに連絡事項や提出物について聞きに来ること。
2.体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、スマートフォン使用禁止（活用する場合は指示する）。
3.進行や外部講師の都合により、授業内容が前後することがある。
4.外部講師によるセミナーの際には、制服もしくは就職活動にふさわしい服装で臨むこと。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
キャリア形成Ⅰ	共通	卒業必修	1年 前学期	講義	1	前田　康智	単独	6・7,14

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス、就職活動の流れ、自己分析1	授業について、今後の予定、就職活動の流れ、自分史の作成	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。教科書Lesson1,2を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
2	自己分析2	自分の長所と短所、自分の強み、自己PRへの準備1	
	事前学習 10分	教科書Lesson3、教科書Lesson14,15を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
3	現状確認・行動計画と自己PR（外部講師）	セミナー（株式会社リアセック様による解説講座）	
	事前学習 10分	PROGのリテラシーとコンピテンシーの成績を確認する。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
4	キャリアデザイン	生涯設計を考える（生活設計・職業と働き方など）	
	事前学習 10分	将来の生活設計について考えてくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
5	コミュニケーションスキル（外部講師）	セミナー（企業人としてのコミュニケーションスキルを身につける）	
	事前学習 10分	コミュニケーションについて考えてくる	
	事後学習 15分	セミナーの内容を復習する	
6	就職活動のマナー1	敬語と身だしなみ、メール文の書き方、自己PRへの準備2	
	事前学習 10分	教科書p.102～105とp.110～115を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
7	就職活動のマナー2	添え状、封筒の書き方、自己PRへの準備3	
	事前学習 10分	教科書p.106～107を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
8	就職活動のマナー3	電話のかけ方、訪問の仕方、自己PRへの準備4	
	事前学習 10分	教科書p.108～109を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
9	業界・企業研究、職種	企業研究、業界と業種、職種とは	
	事前学習 10分	教科書Lesson6,7,8,10を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
10	インターンシップ・オープンカンパニー	インターンシップ・オープンカンパニーについて	
	事前学習 10分	教科書Lesson12を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
11	マイナビ登録（外部講師）	セミナー（マイナビ登録と活用）	
	事前学習 10分	自分の興味ある企業、業界、業種、職種について調べる	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
12	キャリア支援講座（外部講師）	セミナー（複数企業による学内セミナー）	
	事前学習 10分	参加企業について調べてくる。	
	事後学習 15分	希望職種について考える。	
13	就職活動のマナー4	Web面接の方法、キャリア支援室の使い方	
	事前学習 15分	教科書Lesson16,17,18,19を読んでくる。	
	事後学習 10分	課題を完成させる。	
14	ＯＧセミナー（本学ＯＧ）	セミナー（ＯＧによる学内セミナー）	
	事前学習 15分	ＯＧへの質問について考えてくる	
	事後学習 10分	課題を完成させる。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
キャリア形成Ⅱ	共通	選択	1年 後学期	演習	1	前田（まえだ） 康智（やすとも）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
キャリア形成Ⅰを履修していること	該当なし	3,6・7,17

授業の概要

就職活動の流れに沿い、スケジュール確認、身だしなみ、立ち居振る舞いを含めた面接対応及び実践練習を行う。時事問題、時候の挨拶、敬語等会社訪問や面接の際に好感をもたれる言葉遣いやマナーも習得する。

成績評価方法

(1)受講態度（10%）
(2)学外活動の提出（10%）
(3)履歴書の提出（35%）
(4)模擬面接（40%）
(5)履歴書以外の課題提出(5%)の総合評価

再評価の成績評価方法

各自の提出状況に応じて、再試験課題により、(3)(4)(5)の点数が更新される。再評価は(1)～(5)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・身につけた知識や技能が必要な場面で最大限発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】
・実際の面接で的確な対応が総合的にきるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・就職活動において、適切な時期に適切な行動を自発的に行えるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・身につけた知識や技能が必要な場面で十分発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】
・実際の面接で的確な対応が十分できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・就職活動において、適切な時期に適切な行動をほぼ自発的に行えるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・身につけた知識や技能が必要な場面で大方発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】
・相手の求めに応じて実際の面接で大方的確な対応ができるようになる。【DP2：思考力・判断力、表現力等】
・就職活動において、適切な時期に適切な行動を心がけて実行することができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・身につけた知識や技能が必要な場面で基本的に発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】
・相手の求めに応じて実際の面接で的確な対応ができるようになる。【DP2：思考力・判断力、表現力等】
・就職活動において、適切な時期に適切な行動を心がけて実行することができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

なし（必要に応じて資料を配布する）

参考書・資料

なし（必要に応じて資料を配布する）

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

履歴書含めて提出課題（面接準備シート）は添削ののち、成績配布時に各自に返却する。模擬面接は最終授業にて面接官の評価（数値とコメント）を各自に配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・新聞やニュースなどを日常的に見聞きし、政治・経済を中心としたニュースに関心を持つこと。
・自らの今後の生き方を前向きに捉え、就職活動を主体的に行う心構えを持つこと。
・やむを得ず欠席した場合は、授業内容と連絡事項を必ず聞きに来て、資料を受け取りに来ること。
・授業の進捗やセミナーによっては、スケジュールを変更することがある。
・履歴書の提出期限（12月末頃）に間に合わない場合はその時点で再試験となるため十分注意すること。
・学外活動（オープンカンパニー・インターンシップ・ボランティア等）の体験を行った場合は、学外活動の提出により評価する。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
キャリア形成Ⅱ	共通	選択	1年 後学期	演習	1	前田 康智	単 独	3,6・7,17

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス、学外活動の提出について	授業の目的、内容、今後の予定、就職活動のスケジュール、学外活動の提出について	
	事前学習 15分	シラバスをよく読んでくる	
	事後学習 10分	自分の就職活動のスケジュールを考える	
2	就職活動にむけて（１）	就職セミナー(1)　「必ず聞かれる就活三大質問の処方箋」	
	事前学習 10分	履歴書の書き方を復習する	
	事後学習 20分	就職セミナー(1)で学んだことををまとめる	
3	就職活動にむけて（２）	適性検査・性格検査	
	事前学習 10分	適性検査や性格検査を実施する	
	事後学習 20分	適性検査や性格検査で出た結果を踏まえて自分の適性と性格を知る	
4	業界・企業研究（１）	企業・業界・職種とは、自分の希望する業種と職種を考える	
	事前学習 10分	履歴書の表面を書く	
	事後学習 20分	自分の希望する業種と職種を考え、履歴書の裏面を書く準備をする	
5	業界・企業研究（２）	就職セミナー(2)　社会人基礎力を養う	
	事前学習 10分	社会人に求められる能力について何があるかまずは自分で考える	
	事後学習 10分	就職セミナー(2)で学んだことをまとめる	
6	業界・企業研究（３）	学内企業研究会の事前学習	
	事前学習 10分	企業・業界・業種について復習する	
	事後学習 10分	企業説明を受ける企業の訪問シートを仕上げる	
7	業界・企業研究（４）	就職セミナー(3)　学内企業研究会参加	
	事前学習 10分	訪問順序について確認する、企業の訪問シートの質問事項を確認する	
	事後学習 20分	就職セミナー(3)で学んだことをまとめる	
8	履歴書の作成、SPI試験	履歴書の作成・SPI試験	
	事前学習 10分	自分の希望する業種と職種を考え、履歴書の裏面を書く準備をする	
	事後学習 30分	履歴書の裏面の書き方の例をよく読み、自分の文章で書く	
9	面接試験の研究（１）	面接試験の形式と心得・自己PRの見直し	
	事前学習 10分	履歴書の裏面に書く予定の自己PR・志望動機などをもう一度見直す	
	事後学習 30分	ビデオで見たアピール度の高い自己PR・志望動機を再度見直す	
10	面接試験の研究（２）	就職セミナー(4)　「面接の基本」	
	事前学習 10分	面接の手順（話し方、行動、態度など）を見直す	
	事後学習 20分	就職セミナー(4)で学んだことをまとめる	
11	模擬面接の実際（１）	模擬面接の準備、模擬面接のロールプレイ	
	事前学習 10分	就職セミナー(4)で学んだことをもう一度確認する	
	事後学習 10分	模擬面接の受け方をまとめる	
12	模擬面接の実際（２）	模擬面接(1)	
	事前学習 10分	模擬面接の準備をする	
	事後学習 10分	模擬面接の報告書を書く	
13	模擬面接の実際（３）	模擬面接(2)	
	事前学習 10分	反省点を生かした模擬面接の準備をする	
	事後学習 10分	模擬面接の報告書を書く	
14	模擬面接の実際（４）	模擬面接の反省と対策	
	事前学習 10分	模擬面接を振り返る	
	事後学習 20分	模擬面接の対策をまとめる	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
ビジネスマナー	共通	選択	1年 前学期	講義	2	大西（おおにし）　峰子（みねこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	8,14,16

授業の概要

社会人となるために必要な知識を備えていることの証明として有効な資格の一つが秘書検定である。本科目では、秘書検定の学修を通して、「社会について理解するとともに、社会における行動のための基礎的な知識及び能力を身につける」ことを目指す。就職活動においても、話し言葉や礼儀作法、話し相手へのマナーなどが評価されるため、ロールプレイングを実施し、実践的に身につける。秘書検定は、5つの章（マナー・接遇、技能、一般知識、必要とされる資質、職務知識）から出題されるため、章ごとに説明を行い、毎授業で振り返りの小テストを行う。また、授業内で模擬試験を実施し、その時点での実力を判定するとともに、検定試験に向けた学習意欲の向上につなげる。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(4)の項目の総合評価とする。 (1)課題(30%) (2)模擬試験(30%) (3)小テスト(30%) (4)授業への取り組み姿勢(10%)	再試験課題により、(1)(2)の点数が更新される。 再評価は(1)～(4)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

秘書検定2級に合格することを目標とする。
1.マナー・接遇について十分に理解し活用できるようになる。【DP1：知識・技能】
2.技能の知識について理解し、説明できるようになる。【DP1：知識・技能】
3.一般知識について修得し、説明できるようになる。【DP1：知識・技能】
4.必要とされる資質について理解し、応用力を備えて社会で実践できるようになる。【DP1：知識・技能】
5.職務知識について十分に理解できるようになる。【DP1：知識・技能】
6.社会人としてのマナーを自らすすんで実践できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価A）目標

秘書検定2級に合格することを目標とする。
1.マナー・接遇について理解できるようになる。【DP1：知識・技能】
2.技能の知識について理解できるようになる。【DP1：知識・技能】
3.一般知識について修得し、概ね説明できるようになる。【DP1：知識・技能】
4.必要とされる資質について理解できるようになる。【DP1：知識・技能】
5.職務知識について理解できるようになる。【DP1：知識・技能】
6.社会人としてのマナーを自らすすんで実践できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価B）目標

秘書検定3級に合格することを目標とする。
1.マナー・接遇についてわかるようになる。【DP1：知識・技能】
2.技能の知識についてわかるようになる。【DP1：知識・技能】
3.一般知識についてわかるようになる。【DP1：知識・技能】
4.必要をされる資質についてわかるようになる。【DP1：知識・技能】
5.職務知識についてわかるようになる。【DP1：知識・技能】
6.社会人としてのマナーを実践できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】

単位取得（成績評価C）目標

秘書検定3級に合格することを目標とする。
1.マナー・接遇について概ねわかるようになる。【DP1：知識・技能】
2.技能の知識について概ねわかるようになる。【DP1：知識・技能】
3.一般知識について概ねわかるようになる。【DP1：知識・技能】
4.必要をされる資質について概ねわかるようになる。【DP1：知識・技能】
5.職務知識について概ねわかるようになる。【DP1：知識・技能】
6.社会人としてのマナーを概ねわかるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】

教科書

西村この美:『現役審査委員が教える秘書検定2級・3級テキスト＆問題集』 成美堂出版 （最新版） ¥1,210

参考書・資料

必要な資料は適宜配布する。

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

提出課題は添削ののち、各自に返却する。
模擬試験および小テストは、実施後解説を行い、学習の定着を図る。

履修上の注意・備考・メッセージ

・進行の都合により、内容が前後することがある。
・秘書検定の積極的な受験を勧奨する。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
ビジネスマナー	共通	選択	1年 前学期	講義	2	大西　峰子	単独	8, 14, 16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス　マナー・接遇1	秘書技能検定について　敬語　接遇用語	
	事前学習 10分	シラバスを読んでくる。「マナー・接遇」の章を読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容の復習をする。	
2	マナー・接遇2	電話応対	
	事前学習 20分	「マナー・接遇」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容の復習をする。	
3	マナー・接遇3	来客応対	
	事前学習 20分	「マナー・接遇」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容の復習をする。	
4	マナー・接遇4	慶事・弔事のマナー	
	事前学習 20分	「マナー・接遇」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容の復習をする。	
5	技能1	会議の知識　社内文書	
	事前学習 20分	「技能」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容の復習をする。	
6	技能2	社外文書　社交文書	
	事前学習 20分	「技能」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容の復習をする。	
7	技能3	受信文書の取り扱い　「秘」扱い文書の取り扱い　郵便の知識	
	事前学習 20分	「技能」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容の復習をする。	
8	一般知識	企業の基礎知識　～　企業会計・債務・税務の知識	
	事前学習 20分	「一般知識」の章を読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容の復習をする。	
9	必要とされる資質	秘書としての心構え　～　求められる能力	
	事前学習 20分	「必要とされる資質」の章を読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容の復習をする。	
10	職務知識	秘書の役割と機能　秘書の業務	
	事前学習 20分	「職務知識」の章を読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容の復習をする。	
11	3級模擬試験演習　解答および解説	3級模擬試験演習	
	事前学習 60分	模擬試験に向けての試験対策を行う。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 30分	授業内容の復習をする。	
12	3級模擬試験演習　解答および解説	3級模擬試験演習	
	事前学習 60分	模擬試験に向けての試験対策を行う。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる	
	事後学習 30分	授業内容の復習をする。	
13	2級模擬試験演習　解答および解説	2級模擬試験演習	
	事前学習 60分	模擬試験に向けての試験対策を行う。	
	事後学習 30分	授業内容の復習をする。	
14	まとめ	全体の振り返り、秘書検定試験対策課題	
	事前学習 60分	苦手分野の復習をする。	
	事後学習 240分	課題および秘書検定試験対策に取り組む。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
運動と健康	共通	卒業必修	1年 後学期	講義・ 実技	1	佐藤久乃（さとうひさの）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	長年体育教師をしていることからその経験を活かして、運動が健康の保持増進に欠かせない役割を果たしていることを伝える。	6・7,9,11,12,16

授業の概要

様々な運動を通じてその大切さ、楽しさを知る。また、自分の体について知り、どのようにしたら保持増進できるかを考える。そして、どのように運動したらより効果的かを考え、実践できるようにする。また、人生100年時代における健康寿命を延ばすために必要となる運動について知識、技術を身につける。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(4)の項目の総合評価とする プレゼンテーション試験（70%） 取り組み姿勢（30%） の総合評価	再評価は行わない

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、生涯体育を意識し日常生活で実践することができるようになる。
【DP1：知識・技能】
・エアロビクスの技能を学び、正確に動くことができる。グループの皆と協働して豊かな表現力をもって独創性のあるダンスを表現する。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、生涯体育を意識し日常生活で実践することができるようになる。
【DP1：知識・技能】
・エアロビクスの技能を学び、グループの皆と協働して豊かな表現力をもって独創性のあるダンスを表現する。
【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、日常生活で実践することができるようになる。【DP1：知識・技能】
・エアロビクスの技能を学び、グループの皆と協働して独創性のあるダンスを表現する。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、日常生活で実践することができるようになる。【DP1：知識・技能】
・エアロビクスの技能を学び、グループで創作したダンスを表現する。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

なし

参考書・資料

なし

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

・欠席、遅刻をしないように体調管理をきちんとすること。
・髪は邪魔にならないようにまとめる。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
運動と健康	共通	卒業必修	1年 後学期	講義・ 実技	1	佐藤久乃	単 独	6・7,9, 11,12,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス、ストレッチ	授業の進め方、内容説明、生涯スポーツの考え方、スポーツライフについて	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
2	体つくり運動、エアロビクス(1)	ストレッチ、グループゲーム、基本ステップ	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
3	体つくり運動、エアロビクス(2)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
4	体つくり運動、エアロビクス(3)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
5	体つくり運動、エアロビクス(4)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
6	体つくり運動、エアロビクス(5)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
7	体つくり運動、エアロビクス(6)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
8	体つくり運動、エアロビクス(7)	ストレッチ、筋力トレーニング、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
9	体つくり運動、エアロビクス(8)	ストレッチ、筋力トレーニング、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
10	体つくり運動、エアロビクス(9)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
11	体つくり運動、エアロビクス(10)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
12	体つくり運動、エアロビクス(11)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 20分	プレゼンテーション試験に向けて練習をしておく。	
13	体つくり運動、エアロビクス(11)、まとめ	プレゼンテーション試験	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 20分	プレゼンテーション試験に向けて練習をしておく。	
14	体つくり運動、エアロビクス(12)、まとめ	プレゼンテーション試験	
	事前学習 20分	プレゼンテーション試験に向けて練習をしておく。	
	事後学習 10分	試験の反省とストレッチ	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
英語コミュニケーション	共通	卒業必修	1年 後学期	講義	1	オステン・リチャード	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	7,8,9,16

授業の概要

この授業の目標は、様々な場面において、履修者が自信をもって、怖がらずに英語でコミュニケーションを取れるようになることである。実際に英語を話す力を身につけるため、各回では日常生活や実用的な場面に役立つテーマについて学ぶ。授業は、スピーキングとコミュニケーション（40%）、リスニング（20%）、リーディング（20%）を中心に構成される。毎回の授業の最後には、学習内容を活用したロールプレーを行う。

成績評価方法

以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。
(1)定期試験（筆記試験）(40%)
(2)口頭試験(40%)
(3)授業中の態度 / ロールプレイ(20%)

再評価の成績評価方法

再試験は(1)の筆記試験を実施し、点数が更新される。
再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・第一回目の授業より、会話で実際に使える語彙とフレーズを増やす。（口頭テスト）。【DP1:知識・技能】
・授業のテーマごとに、自信を持ってコミュニケーションを取れる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・様々なトピックにおいて、自分の好みと意見を述べることができる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・英語でコミュニケーションを取ることを楽しみ、自分が思うこと、感ずることを英語で表現することができる。【DP4:関心・意欲・態度】

到達（成績評価A）目標

・第一回目の授業より、会話で実際に使える語彙とフレーズを増やす。（口頭テスト）。【DP1:知識・技能】
・授業のテーマごとに、ある程度自信を持って、コミュニケーションを取れる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・様々なトピックにおいて、自分の好みと意見を述べることができる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・英語でコミュニケーションを取ることを楽しみ、自分が思うこと、感ずることを英語で表現することができる。【DP4:関心・意欲・態度】

到達（成績評価B）目標

・第一回目の授業より、会話で実際に使える語彙とフレーズを増やす（口頭テスト）の授業より会話で実際に使える語彙とフレーズを増やす（口頭テスト）。【DP1:知識・技能】
・授業のテーマごとに、ある程度自信を持って、コミュニケーションを取れる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・様々なトピックにおいて基本的な質問に答えられる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・英語でコミュニケーションを取ることを楽しみ、自分が思うこと、感ずることを英語で表現することができる。【DP4:関心・意欲・態度】

単位取得（成績評価C）目標

・第一回目の授業より、会話で実際に使える語彙とフレーズを増やす（口頭テスト）。【DP1:知識・技能】
・毎回の宿題に積極的に取り組み授業では会話を楽しむことができる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・自己紹介ができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力】

教科書

なし

参考書・資料

授業毎にじてプリントを配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

なし

課題に対するフィードバック

・授業の最後にワークシートを確認し、フィードバックを提供する　　・授業毎にロールプレイを行い、英語コミュニケーション能力を築くため、個々にアドバイスを提供する　　・課題をチェックし、コメントや修正を付け、返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・積極的な発言が期待され、授業中の質問を歓迎する。
・授業中に遊びでの携帯電話の使用は、減点対象とする。
・欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること。
・意欲的に授業に取り組むこと ー　英語で話すことをチャレンジする気持ちで授業に参加すること。
・英語コミュニケーション能力を築き上げるため、「English Corner」に参加することを薦める。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
英語コミュニケーション	共通	卒業必修	1年 後学期	講義	1	オステン・リチャード	単独	7,8,9,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	Introduction Class	自己紹介を行う・授業の流れに慣れる	
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
2	Food and drink	飲食についての話し方を学ぶ（好みや味など）	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習および口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
3	Music	音楽の好みについての話し方を学ぶ	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習および口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
4	Jobs and Questions	職場で使える英語の単語やフレーズを学ぶ・様々な仕事について話す	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習および口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
5	Pets	自分のペットについて(He is / She is / They are)	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習および口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
6	Speaking Test Practice	口頭テストの練習	
	事前学習 15分	1～5までのワークシートの予習　・口頭テストの練習	
	事後学習 60分	口頭テストの練習	
7	Speaking Test	口頭テスト	
	事前学習 15分	1～5までのワークシートの予習　・口頭テストの準備	
	事後学習　N/A	なし	
8	Hospital	病気の説明や患者対応について学ぶ	
	事前学習 15分	病気に関する英単語を調べる	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
9	Shopping	数字及び顧客対応について学ぶ	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習および口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
10	Restaurants	注文の仕方・受け方及び顧客対応について学ぶ	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習および口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
11	Sightseeing	観光・観光客対応について学ぶ	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習および口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
12	Accidents and Injuries	緊急事態の対応について学ぶ	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題　・口頭テストの練習	
13	Review and practice (1)	以前の授業で学んだことを復習し練習する	
	事前学習 15分	ワークシートの復習　・筆記テストの練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題　・筆記テストの練習	
14	Review and practice (2)	以前の授業で学んだことを復習し練習する	
	事前学習 15分	ワークシートの復習　・筆記テストの練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・筆記テストの練習	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
標準英語スキルズ	共通	選択	1年 後学期	講義	1	オステン・リチャード	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	6・7,9,16

授業の概要

英語に対する一般的な理解度と関心・楽しさを高めることを目的とした授業である。コースを通して、仕事や旅行などの場面で実際に「使える英語」を学ぶ。必修科目の「英語コミュニケーション」と関連する内容を多く扱い、英語コミュニケーション能力を段階的に育成するとともに、「英語コミュニケーション」で学んだ内容の定着と補強を図る。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)定期試験（筆記試験）(40%) (2)口頭試験(40%) (3)授業中の態度 / ロールプレイ(20%)	再試験は(1)の筆記試験を実施し、点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・第一回目の授業と比べ、英語基礎力が定着し、英語を円滑に使える。【DP1:知識・技能】
・英語を読解し、英語を自然な日本語に翻訳ができる。【DP1:知識・技能】
・授業のテーマごとに、自信を持って、コミュニケーションを取れる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・英語でコミュニケーションを取ることを楽しみ、自分が思うこと、感ずることを英語で表現する【DP4:関心・意欲・態度】

到達（成績評価A）目標

・最初の授業と比べ、英語基礎力が定着し、英語を積極的に使える【DP1:知識・技能】
・英語を十分読解し、英語を日本語に翻訳できる【DP1:知識・技能】
・授業のテーマごとに、自信をもって、コミュニケーションを取れるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・英語でコミュニケーションをとることを楽しみ、ある程度自分が思うこと、感ずることを英語で表現する【DP4:関心・意欲・態度】

到達（成績評価B）目標

・最初の授業と比べ、英語基礎力が定着し、基本的な会話ができる【DP1:知識・技能】
・英語をある程度読解し、英語を日本語に翻訳できる【DP1:知識・技能】
・授業のテーマごとに、自信をもって、コミュニケーションを取れるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・英語でコミュニケーションをとることを楽しみ、ある程度自分が思うことを英語で表現する【DP4:関心・意欲・態度】

単位取得（成績評価C）目標

・最初の授業と比べ、英語能力が増える【DP1:知識・技能】
・英語をある程度読解し、簡単な英語を日本語に翻訳できる【DP1:知識・技能】
・授業のテーマごとに、コミュニケーションを取れるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・英語でコミュニケーションをとることを楽しみ、ある程度自分が思うことを英語で表現する【DP4:関心・意欲・態度】

教科書

なし

参考書・資料

授業ごとにワークシートを配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

なし

課題に対するフィードバック

・授業の最後にワークシートを確認し、フィードバックを提供する　　・授業毎にロールプレイを行い、英語コミュニケーション能力を築くため、個々にアドバイスを提供する　　・課題をチェックし、コメントや修正を付け、返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・積極的な発言が期待され、授業中の質問を歓迎する。
・授業中に遊びでの携帯電話の使用は、減点対象とする。
・欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること。
・意欲的に授業に取り組むこと ー　英語で話すことをチャレンジする気持ちで授業に参加すること。
・英語コミュニケーション能力を築き上げるため、「English Corner」に参加することを薦める。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
標準英語スキルズ	共通	選択	1年 後学期	講義	1	オステン・リチャード	単 独	6・7,9,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	Introduction Class	自己紹介を行う・挨拶の仕方を学ぶ・授業の流れに慣れる	
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	ワークシートの復習、次回のロールプレイに備え、練習をする	
2	Food and drink	飲食について詳しく話し、疑問文を作る	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習、次回のロールプレイに備え、練習をする	
3	Hobbies and Customs	自分の習慣について話し、疑問文を作る	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習、次回のロールプレイに備え、練習をする	
4	Questions and Reactions	疑問文、相槌およびリアクション	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習、次回のロールプレイに備え、練習をする	
5	Buildings and Directions	街について話し、道案内を行う	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習、次回のロールプレイに備え、練習をする	
6	Feelings and Offering	気持ちについて話し、物の提供の仕方を学ぶ	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習、次回のロールプレイに備え、練習をする	
7	Mid-term Review	口頭テストに向けて復習	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習　・　口頭練習	
	事後学習　N/A	ワークシートの復習	
8	Restaurants	注文の仕方や料理についての聞き方などを学ぶ	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習、次回のロールプレイに備え、練習をする	
9	Experiences	「Have you ever」を使い、経験に関する疑問文を作る	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習、次回のロールプレイに備え、練習をする	
10	Shopping	洋服を購入する際の疑問文など	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習、次回のロールプレイに備え、練習をする	
11	Inviting	カジュアルとフォーマルの招待の仕方	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
12	Speaking Test Practice	口頭テストに向けての練習・復習	
	事前学習 15分	前回のワークシートの予習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・口頭テストの準備	
13	Speaking Test	以前の授業で学んだことを復習し練習する	
	事前学習 15分	ワークシートの予習　・口頭テストの準備	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・筆記テストの準備	
14	Writing Test Practice	以前の授業で学んだことを復習し練習する	
	事前学習 15分	ワークシートの予習・筆記テストの準備	
	事後学習 60分	ワークシートをチェックする　・筆記テストの準備	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
応用英語スキルズ	共通	選択	2年 前学期	講義	1	オステン・リチャード	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
「英語標準スキルズ」を履修済みの者、または、英語でのコミュニケーションにある程度の自信を有する者	該当なし	6・7,8,16

授業の概要

「標準英語スキルズ」と同様に、英語に対する一般的な理解をさらに高めることを目的とした授業である。「標準英語スキルズ」および「英語コミュニケーション」などで学んだ知識を基盤とし、英語の総合的な運用能力の向上を目指す。授業のテーマは「標準英語スキルズ」と共通する場合もあるが、本授業ではより高度な内容を扱う。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)定期試験（筆記試験）(40%) (2)口頭試験(40%) (3)授業中の態度 / ロールプレイ(20%)	再試験は(1)の筆記試験を実施し、点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・第一回目の授業と比べ、英語基礎力が定着し、英語を円滑に使える。【DP1:知識・技能】
・英語を読解し、英語を自然な日本語に翻訳ができる。【DP1:知識・技能】
・授業のテーマごとに、自信を持って、コミュニケーションを取れる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・英語でコミュニケーションを取ることを楽しみ、自分が思うこと、感ずることを英語で表現する【DP4:関心・意欲・態度】

到達（成績評価A）目標

・最初の授業と比べ、英語基礎力が定着し、英語を積極的に使える【DP1:知識・技能】
・英語を十分読解し、英語を日本語に翻訳できる【DP1:知識・技能】
・授業のテーマごとに、自信をもって、コミュニケーションを取れるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・英語でコミュニケーションをとることを楽しみ、ある程度自分が思うこと、感ずることを英語で表現する【DP4:関心・意欲・態度】

到達（成績評価B）目標

・最初の授業と比べ、英語基礎力が定着し、基本的な会話ができる【DP1:知識・技能】
・英語をある程度読解し、英語を日本語に翻訳できる【DP1:知識・技能】
・授業のテーマごとに、自信をもって、コミュニケーションを取れるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・英語でコミュニケーションをとることを楽しみ、ある程度自分が思うことを英語で表現する【DP4:関心・意欲・態度】

単位取得（成績評価C）目標

・最初の授業と比べ、英語能力が増える【DP1:知識・技能】
・英語をある程度読解し、簡単な英語を日本語に翻訳できる【DP1:知識・技能】
・授業のテーマごとに、コミュニケーションを取れるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・英語でコミュニケーションをとることを楽しみ、ある程度自分が思うことを英語で表現する【DP4:関心・意欲・態度】

教科書

なし

参考書・資料

授業ごとにワークシートを配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

なし

課題に対するフィードバック

・授業の最後にワークシートを確認し、フィードバックを提供する　・授業毎にロールプレイを行い、英語コミュニケーション能力を築くため、個々にアドバイスを提供する　・課題をチェックし、コメントや修正を付け、返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・積極的な発言が期待され、授業中の質問を歓迎する。
・授業中に遊びでの携帯電話の使用は、減点対象とする。
・欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること。
・意欲的に授業に取り組むこと ー　英語で話すことをチャレンジする気持ちで授業に参加すること。
・英語コミュニケーション能力を築き上げるため、「English Corner」に申し込むのを薦める。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
応用英語スキルズ	共通	選択	2年 前学期	講義	1	オステン・リチャード	単 独	6・7,8,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	Introduction Class	自己紹介を行う・授業の流れに慣れる	
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・　次回のロールプレイに備え、練習する	
2	Food and drink	飲食について詳しく話し、疑問文を作る	
	事前学習 15分	前回のワークシートの復習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・　次回のロールプレイに備え、練習する	
3	Experiences and Travel	自分の経験や行きたい国などについて詳しく話す	
	事前学習 15分	前回のワークシートの復習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・　次回のロールプレイに備え、練習する	
4	Restaurants and Food	おすすめを聞き、好みを伝える(I prefer ～)	
	事前学習 15分	前回のワークシートの復習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・　次回のロールプレイに備え、練習する	
5	Pets and Animals	動物とペットについて話し、疑問文を作る	
	事前学習 15分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・　次回のロールプレイに備え、練習する	
6	Personality	性格について学ぶ（形容詞）	
	事前学習 15分	前回のワークシートの復習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・　次回のロールプレイに備え、練習する	
7	Mid-term Review	口頭テストに向けて復習	
	事前学習 15分	前回のワークシートの復習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習	
8	Japanese Food	日本料理を英語での説明の仕方	
	事前学習 15分	前回のワークシートの復習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・　次回のロールプレイに備え、練習する	
9	Weather	天気に関する語彙を学び、スケジューリングを練習する	
	事前学習 15分	前回のワークシートの復習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・　次回のロールプレイに備え、練習する	
10	Inviting	カジュアルとフォーマルの招待の仕方を学ぶ	
	事前学習 15分	前回のワークシートの復習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・　次回のロールプレイに備え、練習する	
11	Speaking Test Practice	口頭テストに向けて練習・復習	
	事前学習 15分	前回のワークシートの復習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
12	Speaking Test Practice	口頭テストに向けて練習・復習	
	事前学習 15分	前回のワークシートの復習　・　口頭練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・口頭テストの練習	
13	Speaking Test	以前の授業で学んだことを復習し練習する	
	事前学習 15分	ワークシートの復習　・口頭テストの練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・筆記テストの練習	
14	Writing Test Review	以前の授業で学んだことを復習し練習する	
	事前学習 15分	ワークシートの復習　・筆記テストの練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習　・筆記テストの練習	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
家政学概論	家政科コア（社主事）	卒業必修	1年 前学期	講義	2	木林（きはやし） 祥子（しょうこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	2,9,10,11

授業の概要

家族生活問題が多発している現在、家政学は対人サービス専門としての役割を持っている。家政学の全体像を把握して、現代社会における家政学の役割と可能性について考察し、社会に貢献する力を身に付ける。
少子高齢化への対応や男女共同参画社会の実現に向けた家庭生活の今日的課題について、家政学的視点から考察する（家庭経営学）。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(4)の総合評価とする。 (1)小レポート2回(20%＋20%) (2)授業内課題(45%) (3)小テスト(10%) (4)授業態度(5%)	再試験は(1)(2)の提出により点数が更新される。 再評価は(1)～(4)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・現代社会における家政学の役割と可能性について理解した上で、他人が気が付かない観点で自分にできる具体的な社会貢献について述べることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
・少子高齢化への対応や男女共同参画社会の実現に向けた家庭生活の今日的課題について、家政学的視点から考察し、自身の考えを自身の表現で説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・現代社会における家政学の役割と可能性について理解した上で、自分にできる具体的な社会貢献について述べることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
・少子高齢化への対応や男女共同参画社会の実現に向けた家庭生活の今日的課題について、家政学的視点から考察し、自身の考えを説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・家政学の役割と可能性について理解した上で、具体的な社会貢献について述べることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
・少子高齢化への対応や男女共同参画社会の実現に向けた家庭生活の課題について、家政学的視点から考察し説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・家政学の役割と可能性について理解した上で、具体的な社会貢献について調べることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
・少子高齢化への対応や男女共同参画社会の実現に向けた家庭生活の課題について説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

使用しない。資料を配布する。

参考書・資料

(一社)日本家政学会家政学原論部会編：『やさしい家政学原論』建帛社（2018）￥2,750
(一社)日本家政学会家政教育部会編：『家族生活の支援－理論と実践－』建帛社（2014）￥2,420

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題は添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業中のスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
家政学概論	家政科コア（社主事）	卒業必修	1年 前学期	講義	2	木林 祥子	単独	2, 9, 10, 11

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	家政学とは	家政学を学ぶ意義	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
2	家政学と家庭科教育	家庭科教育の変遷と昨今の家庭科教育を知る	
	事前学習 20分	これまで受けた家庭科教育について振り返る	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
3	世界の家政学	エレン・リチャーズのヒューマンエコロジー思想	
	事前学習 20分	家政学の歴史について調べる	
	事後学習 120分	小レポート①作成	
4	家政学と家族	家族生活問題の発生	
	事前学習 20分	家族生活問題発生の現状を調べる	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
5	人間関係とコミュニケーション	アサーショントレーニング	
	事前学習 20分	日常生活に起こる事例をもとに自らのコミュニケーションのあり方を振り返る	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
6	ライフサイクルと家族生活の課題	自分年表	
	事前学習 20分	自分の生活や人付き合いのパターンを振り返る	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
7	家庭生活とジェンダー	日本におけるジェンダー平等をめぐる状況	
	事前学習 20分	ジェンダー平等に関わる社会意識を調べる	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
8	セクシュアリティ	さまざまなセクシュアルマイノリティ	
	事前学習 20分	自分が住んでいる町に、どのようなLGBTQ+の取り組みがされているか調べる	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
9	パートナーの選択	結婚オークション・紙上ディベート	
	事前学習 20分	新聞やニュースで家庭生活に関する情報を収集する	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
10	妊娠・出産を考える	子どもを生む・生まない・生めない	
	事前学習 20分	新聞やニュースで家庭生活に関する情報を収集する	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
11	子どもの発達	乳幼児期の子どもと家族	
	事前学習 20分	自分の身近な生活環境を振り返る	
	事後学習 120分	レポート②作成	
12	高齢者の暮らし	高齢期をどう生きるか	
	事前学習 20分	新聞やニュースで高齢者に関する情報を収集する	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
13	地域・社会と家族	支え合う社会	
	事前学習 20分	新聞やニュースで地域社会に関する情報を収集する	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
14	家政学の社会的役割と可能性	小テスト、家政学の社会貢献	
	事前学習 20分	前学期の学習内容を振り返る	
	事後学習 20分	自分にできる具体的な社会貢献について考える	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
食生活論	家政科コア（FC）	卒業必修	1年 前学期	講義	2	佐藤（さとう）　清香（さやか）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	14、16

授業の概要

食生活とは、食に関わる生活全般を指し、心身の健康の維持・増進や生活の質の向上を支える重要な要素である。望ましい食生活の在り方を考えるため、本授業では栄養と健康、食文化への理解をはじめ、食品の機能や特性、ライフステージに応じた食生活について学ぶ。これらの学修を通して、日常生活において実践できる力を養うことを目的とする。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)定期試験(40%) (2)小テスト・課題(40%) (3)授業への取り組み姿勢(20%)	再試験は(1)の筆記試験及び(2)で不足のあった課題の再提出により点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

1. 食生活の意義について理解し、現代の食の問題点について論理的に説明できるようになる。【DP1：知識・技術】
2. 栄養素の種類とその働き、食品群、料理の組み合わせについて十分に理解し、バランスのよい献立を作成できるようになる。【DP1：知識・技術】
3. 食生活の歴史や文化について理解し、和食の特徴を説明できるようになる。【DP1：知識・技術】
4. ライフステージごとの栄養特性を理解することから自身の食習慣を見直し、健康的な食生活を営む知識と能力を実生活で活用できるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価A）目標

1. 食生活の意義について理解し、現代の食の問題点について説明できるようになる。【DP1：知識・技術】
2. 栄養素の種類とその働き、食品群、料理の組み合わせについて理解し、バランスのよい献立を作成できるようになる。【DP1：知識・技術】
3. 食生活の歴史や文化について理解し、和食の特徴を説明できるようになる。【DP1：知識・技術】
4. ライフステージごとの栄養特性を理解することから自身の食習慣を見直し、健康的な食生活を営む知識と能力を身につけ、説明できるようになるられるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価B）目標

1. 食生活の意義について理解し、現代の食の問題点について理解できるようになる。【DP1：知識・技術】
2. 栄養素の種類とその働き、食品群、料理の組み合わせがわかり、適切な献立を作成できるようになる。【DP1：知識・技術】
3. 食生活の歴史や文化について理解し、和食の特徴を説明できるようになる。【DP1：知識・技術】
4. ライフステージごとの栄養特性の基本的事項について理解し、健康的な食生活について自分の考えを説明できるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

単位取得（成績評価C）目標

1. 食生活の意義について理解し、現代の食の問題点について概ねわかるようになる。【DP1：知識・技術】
2. 栄養素の種類とその働き、食品群、料理の組み合わせがわかり、献立を作成できるようになる。【DP1：知識・技術】
3. 食生活の歴史や文化について理解し、和食の特徴がわかるようになる。【DP1：知識・技術】
4. ライフステージごとの栄養特性の基本的事項について理解し、健康的な食生活について自分の考えを説明できるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

教科書

吉澤みな子他著：『大学で学ぶ 食生活と健康のきほん』化学同人（最新版）￥2,640

参考書・資料

日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2026 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店　(2026)
￥3,520

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

提出課題は添削ののち、各自に返却する。
小テストは、実施後解説を行い、学習の定着を図る。

履修上の注意・備考・メッセージ

1.欠席した場合は、次の授業までに連絡事項や提出物について聞きに来ること。
2.授業中のスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。
3.授業の進捗状況によってはスケジュールを変更することがある。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
食生活論	家政科コア（FC）	卒業必修	1年 前学期	講義	2	佐藤　清香	単独	14、16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	オリエンテーション 私たちの食生活と健康	授業概要の説明、食べることの意味	
	事前学習 15分	シラバスを読む、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習	授業の復習と小テストに向けて対策を行う。	
2	栄養素の種類とその働き1	エネルギーを生産する栄養素（炭水化物、たんぱく質、脂質）1	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習	授業の復習と小テストに向けて対策を行う。	
3	栄養素の種類とその働き2	エネルギーを生産する栄養素（炭水化物、たんぱく質、脂質）2、ビタミン	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	授業の復習と小テストに向けて対策を行う。	
4	栄養素の種類とその働き3 健康と調理のサイエンス	ミネラル、水、	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	授業の復習および小テストで間違えた箇所の復習を行う。	
5	健康づくりと食生活	BMI算出、栄養素の指標、エネルギー産生栄養素バランス	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	授業の復習および小テストで間違えた箇所の復習を行う。	
6	食品群と食品構成、食事の構成	三色食品群、6つの基礎食品群、4つの食品群、食事バランスガイド	
	事前学習 15分	食事バランスガイドについて調べる。	
	事後学習 30分	授業の復習および小テストで間違えた箇所の復習を行う。	
7	季節の料理と盛り付けの基本	旬の食材、盛り付けの基本、献立作成	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	課題を完成させる。	
8	献立作成の実践	1日分の献立作成	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 50分	課題を完成させる。	
9	日本食のマナー 行事食と郷土料理	日本食のマナー、箸の使い方、さまざまな郷土料理	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 60分	課題を完成させる。	
10	日本の食文化	和食とその特徴、食事の歴史と献立形式、日本食のマナー	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	授業の復習を行う。	
11	ライフステージ別の食生活1	妊娠・授乳期、新生児・乳児期	
	事前学習 15分	妊娠期の食事、離乳食について調べる。	
	事後学習 30分	授業で学んだ事柄について、図書館や書店の本を読んでみる。	
12	ライフステージ別の食生活2	幼児期、学童期、思春期	
	事前学習 15分	高校生の頃の食事を振り返る。	
	事後学習 30分	ダイエットについてインターネット上での情報の偏りを含め調べてみる。	
13	ライフステージ別の食生活3	成人期、高齢期	
	事前学習 15分	現在の自分の食生活について考える。	
	事後学習 30分	生活習慣病、フレイルについてまとめる。	
14	食生活と安全	身の回りの食べ物と安全、食品の表示	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 240分	これまでの学習を振り返り、定期試験に向けた対策を行う。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
衣・住生活論	家政科コア	卒業必修	1年 前学期	講義	2	山村（やまむら） 美保里（みほり）・鈴木（すずき） 麻希子（まきこ）	オムニバス

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	3,6・7, 12,14,16

授業の概要

自らの人生を作り出し、社会に貢献する力を身につけるために、家庭を中心とした衣生活・住生活を総体的、科学的に認識し、衣生活・住生活の質の向上を目指す。住生活分野では、世界の伝統的住居にみられる風土に適した住まいや我が国の住まいの変遷を通して住宅の役割を学ぶ。更に、安全と防災、環境、ライフスタイル等の住まいの計画に必要な要素を学ぶ。衣生活分野では、人間にとって“衣”とはどのような存在かを、生活・社会・環境との関わりから理解する。被服の起源や文化的背景、アパレル産業の仕組み、快適性や健康性、環境への配慮までを扱い、日常の衣生活に適用できる基礎的な判断力を身につける。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1) 分野ごとの学修成果確認：住分野は筆記試験（30%）、衣分野は授業内課題（プレゼンテーションを含む）（30%） (2) 分野ごとの授業内課題（住10%＋衣10%＝20%） (3) 受講態度（20%）	再試験は、(1)の住分野の筆記試験の実施、衣分野のレポート課題再提出により点数が更新される。再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・風土と住まいの関係、住まいの機能と役割を論理的に理解し、事例を示して自分の言葉で住まいの意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・理解】
・学んだ知識を活かし、科目の目標である安全で健康な住まいを営むための提案を、主体的にできるようになる。【DP1：関心・意欲・態度】

到達（成績評価A）目標

・風土と住まいの関係、住まいの機能と役割を学び、事例を示して自分の言葉で住まいの意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・理解】
・学んだ知識を活かし、科目の目標である安全で健康な住まいを営むために必要な提案を思考することができるようになる。【DP1：関心・意欲・態度】

到達（成績評価B）目標

・風土と住まいの関係、住まいの機能と役割を学び、住まいの意義を理解することができるようになる。【DP1：知識・理解】
・学んだ知識を活かし、安全で健康的な住まいを営むための情報を収集し、思考することができるようになる【DP1：関心・意欲・態度】

単位取得（成績評価C）目標

・風土と住まいの関係、住まいの機能と役割を学び、住まいに関する用語の意味を理解することができるようになる。【DP1：知識・理解】
・学んだ知識を活かし、安全で健康的な住まいを営むための情報収集ができるようになる【DP1：関心・意欲・態度】

教科書

必要な資料は適宜配布する

参考書・資料

間瀬清美 他：『新版 衣生活の科学 テキスタイルから流通マーケットへ』 アイ・ケイコーポレーション（2017）¥2,860

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

レポート及び小課題は評価して返却する。衣分野のプレゼンテーションは内容・構成・表現力を評価し、フィードバックとして返す。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業中の携帯電話の操作禁止（指示のある場合は除く）
・私語厳禁

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
衣・住生活論	家政科コア	卒業必修	1年 前学期	講義	2	山村 美保里・鈴木 麻希子	オムニバス	3,6･7, 12,14,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス　風土と住まい	講義の目的及び方針、基礎事項の解説等　世界の伝統的住居	山村
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 10分	プリントを復習する	
2	日本の住まいの変遷Ⅰ	日本の気候風土と住まいの関係　前近代までの住まいの変遷	山村
	事前学習 30分	伝統的住居について参照しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
3	日本の住まいの変遷Ⅱ	住まいの近代化	山村
	事前学習 30分	日本の気候風土と伝統的住居の資料を参照しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
4	現代の住宅	住宅政策と課題	山村
	事前学習 30分	町を観察しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
5	住環境Ⅰ	住まいの危険と防災	山村
	事前学習 30分	自宅及び町を観察しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
6	住環境Ⅱ	まちづくりと関連法規	山村
	事前学習 30分	町を観察しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
7	住生活分野の復習	1～6回までの学修成果確認のための試験と総括	山村
	事前学習 30分	これまでのプリントを復習する	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
8	“衣”とは何か―装いの起源と衣の役割	“衣”とは何か、被服の役割、装いの起源（古代の被服例、宗教的背景など）	鈴木
	事前学習 30分	“衣”の役割や意味について考えておく	
	事後学習 30分	“衣”の生活に果たす役割について整理する	
9	民族衣装と衣文化1	世界の民族衣装、気候風土・地域性と衣生活の関係、日本の衣文化（近代以降）	鈴木
	事前学習 30分	世界の民族衣装について、興味のあるものを1つ選び概要を調べておく	
	事後学習 60分	自身が選んだ民族衣装について調査し、プレゼンテーションの準備を行う	
10	民族衣装と衣文化2（発表）	民族衣装に関する調査発表および講評	鈴木
	事前学習 60分	民族衣装について調査を進め、プレゼンテーションの準備を行う	
	事後学習 30分	他者の発表から衣文化の多様性を整理する	
11	アパレル産業と既製服	アパレル産業の仕組み、既製服（プレタポルテ）とオートクチュール、品質表示・取扱絵表示等	鈴木
	事前学習 30分	身近な衣服の品質表示および取扱絵表示を確認する	
	事後学習 30分	身近な衣服の品質表示および取扱絵表示を確認し、衣服選択に活かす	
12	TPOと衣生活・着心地のよい衣服	冠婚葬祭における服装マナー、体型と衣服、年齢や環境に応じた服の工夫	鈴木
	事前学習 30分	着心地のよい衣服の条件について考えておく	
	事後学習 30分	自身や家族の衣生活を振り返り、工夫や課題を整理する	
13	衣生活と環境	衣服の廃棄問題、環境配慮の取り組み、持続可能な衣生活	鈴木
	事前学習 30分	現代の衣生活や流行について調べる	
	事後学習 60分	自分にできる工夫を整理し、最終プレゼンテーションの準備を行う	
14	衣生活分野の学修成果の発表と共有	第8～13回の学修成果に関する最終発表および講評	鈴木
	事前学習 60分	最終プレゼンテーションの準備を進める	
	事後学習 30分	他者の発表を通して、衣生活分野の広がりを理解する	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
消費生活と環境	家政科コア	卒業必修	2年 後学期	講義	2	木林（きはやし） 祥子（しょうこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	2,8,9,11

授業の概要

本当の豊かさとは何かを考え、個人および社会の質の高いライフスタイルを実現するため、主体的に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解を深める。環境問題が日々の暮らしと直結していることを理解し、持続可能な社会の実現のために、消費者として、どのような消費行動をとるべきか考え実践できる力を身に付ける。
自分らしい人生を作り出すため、家庭を中心とした生活を総体的、科学的に認識し、各ライフステージにおける様々な課題を把握してライフプランを作成する（家族関係学）。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(4)の総合評価とする。 (1)小レポート2回(20%＋20%) (2)授業内課題(45%) (3)小テスト(10%) (4)授業態度(5%)	再試験は(1)(2)の提出により点数が更新される。 再評価は(1)～(4)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・消費者市民社会の形成に主体的に参画することの重要性について理解し、自身の表現で説明できる。【DP1：知識・技能】
・本当の豊かさとは何かを考え、持続可能な社会の実現のために、どのような消費行動をとるべきか、自身の考えを自身の表現で説明できる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・自分らしく生きることの大切さを認識し、その実現を目指し、社会的な課題も視野に入れて生涯発達の視点からライフプランを作成できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・消費者市民社会の形成に主体的に参画することの重要性について理解し説明できる。【DP1：知識・技能】
・本当の豊かさとは何かを考え、持続可能な社会の実現のために、どのような消費行動をとるべきか、自身の考えを説明できる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・自分らしく生きることの大切さを認識し、その実現を目指し、生涯発達の視点からライフプランを作成できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・消費者市民社会の形成に主体的に参画することの重要性について理解が不足するところもあるが概ね説明できる。【DP1：知識・技能】
・本当の豊かさとは何かを考え、どのような消費行動をとるべきか、自身の考えを説明できる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・自分らしく生きることの大切さを認識し、生涯発達の視点からライフプランを作成できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解が不足するところもあるが、関連する用語は述べることができる。【DP1：知識・技能】
・本当の豊かさとは何かを考え、どのような消費行動をとるべきか説明できる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・自分らしく生きることの大切さを認識し、ライフプランを作成できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

1年前学期「家政学概論」で使用した教科書を使用する。
※(一社)日本家政学会家政教育部会編：『家族生活の支援－理論と実践―』 建帛社（2014）￥2,420

参考書・資料

持続可能な生活研究会編：『持続可能な社会と人の暮らし』建帛社（2024）￥2,310

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題は添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業中のスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
消費生活と環境	家政科コア	卒業必修	2年 後学期	講義	2	木林 祥子	単 独	2, 8, 9, 11

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス	消費生活と環境、家族関係学について	
	事前学習 10分	シラバスをよく読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
2	価値判断と意思決定	価値観オークション	
	事前学習 20分	教科書P13～P22を読む	
	事後学習 120分	小レポート①作成	
3	生活時間のマネジメント	生活時間にみる家庭生活の課題、ワーク・ライフ・バランス	
	事前学習 20分	教科書P136～P142を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
4	生活経済のマネジメント	短期・中期・長期の経済管理	
	事前学習 20分	教科書P143～149を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
5	消費者と契約	契約と消費者トラブル	
	事前学習 20分	消費生活に関する事件を調べる	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
6	消費者の権利と責任	消費者運動	
	事前学習 20分	日頃の消費生活について振り返る	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
7	持続可能な食生活	地球の食卓・フォトランゲージ	
	事前学習 20分	教科書P124～130を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
8	持続可能な衣生活	ファッションの裏側	
	事前学習 20分	教科書P130～135を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
9	持続可能な住生活	世界と日本の住まい	
	事前学習 20分	教科書P130～135を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
10	暮らしと資源	消費と廃棄・貿易ゲーム	
	事前学習 20分	自分の消費行動について注意を払う	
	事後学習 120分	小レポート②作成	
11	気候変動	脱炭素社会と消費者	
	事前学習 20分	気候変動に関する新聞記事やニュースを調べておく	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
12	生活文化について	生活文化の伝承と創造	
	事前学習 20分	生活文化から想像することがらやイメージを挙げておく	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
13	ライフキャリアレインボー	ライフプランの作成	
	事前学習 20分	これまでの学習を振り返り自分らしい生き方について考えておく	
	事後学習 60分	ライフプランを完成させる	
14	持続可能な社会の構築	小テスト、持続可能な生活の創造に向けて	
	事前学習 20分	後学期の学習内容を振り返る	
	事後学習 20分	自分にできる具体的な社会貢献について考える	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
生活デザイン概論	生活デザイン専攻	卒業必修	1年 前学期	講義	2	本郷（ほんごう） 芳哉（よしや）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	3,14,15,16

授業の概要

生活に関する専門的な知識・技能を仕事や家庭での実践に活かせるようになるという目標に到達するために、この科目では、生活デザインの本質と意義を学び、創造と提案の技能を身につける。はじめに、生活とデザイン定義、デザインの考え方などデザインの本質について学ぶ。次に、デザインの誕生、現代に至るまでの変遷、流行の誕生など、歴史を学び、これからのデザインに活かせる知識を身につける。最後に、実際に物や事柄を創造するための造形理論とアイデア創出方法について学び、デザインのプロセスを辿る演習を行うことによって実践で活用できる力を養う。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)レポート提出(40%) (2)授業内課題(40%) (3)受講態度(20%)	再評価は行わない。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・デザインの本質について論理的に理解しており、自身の表現で説明できる。【DP1：知識・技能】
・デザインの歴史の流れについて論理的に理解しており、現代のデザインと関連付けて、自分の意見も交えて説明することができる。【DP1：知識・技能】
・造形理論を理解したうえで、独自性のある形態が創造でき、自身の考えを自身の表現で説明できる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・デザインのプロセスを応用して、自身の日常生活だけでなく家庭や地域も含めた広い視野を持って課題解決ができ、適切に提案ができた。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・デザインの本質について論理的に理解して説明できる。【DP1：知識・技能】
・デザインの歴史の流れについて論理的に理解しており、現代のデザインと関連付けて説明することができる。【DP1：知識・技能】
・造形理論をおおむね理解したうえで、形態が創造でき、自身の表現で説明できる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・デザインのプロセスを応用して、自身の日常生活だけでなく家庭や地域も含めた広い視野を持って課題解決ができた。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・デザインの本質について論理的な理解が不足するところもあるが、概ね説明できる【DP1：知識・技能】
・デザインの歴史の流れについて論理的な理解が不足するところもあるが、現代のデザインと関連付けることができる。【DP1：知識・技能】
・造形理論の理解が不足しているところもあるが、形態が創造でき、根拠は不十分ながらも自身の考えはおおむね説明できる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・デザインのプロセスを応用して、自身の日常生活における課題の発見ができた。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・デザインの本質について論理的な理解には乏しいが、関連する用語は述べられる。【DP1：知識・技能】
・デザインの歴史の流れについて論理的な理解には乏しいが、現代のデザインに関連する用語は述べられる。【DP1：知識・技能】
・造形理論の理解は不十分だが、形態が創造でき、自身の考えはおおむね説明できる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・デザインのプロセスを応用して、自身の日常生活における課題解決を学ぶことができた。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

伊藤紀之　編著　玉田真紀、宮武恵子、畑久美子：『生活デザインの体系』 三共出版（2012）¥2,916

参考書・資料

必要に応じてプリントを配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題は添削の後、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・筆記用具、定規、コンパスがない場合は用意すること。
・忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。
・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。
・講義は集中講義形式で行う。事前に教科書を読み、意味の分からない語句等を調べておく。
・集中講義の特質上、授業内容は進行に合わせて複合的に行い、内容が前後する場合がある。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
生活デザイン概論	生活デザイン専攻	卒業必修	1年 前学期	講義	2	本郷 芳哉	単独	3, 14, 15, 16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	生活デザインとは	生活とデザインの関係　デザインとは何か（アートと生活　生活をデザインする）	
	事前学習20分	シラバスと教科書p. 2～3を読む。意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習20分	様々なメディアにおける「デザイン」の語の用例を探す。	
2	デザインの本質1	感性とデザイン	
	事前学習20分	「デザイン」の意味について復習しておく。	
	事後学習20分	身の回りのデザインに目を向け、デザインの意図を考える。	
3	デザインの本質2	デザインのハードとソフト	
	事前学習20分	教科書p. 5～6を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習20分	身の回りのデザインに目を向け、ハードデザインとソフトデザインについて考える。	
4	デザインの本質3	デザインの領域と生活デザイン	
	事前学習20分	教科書p. 7～8を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習20分	学習した内容を実生活で活かすために自分にできることを考える。	
5	デザインの本質4	デザインと流行	
	事前学習20分	前回までの授業内容を復習し理解しておく。	
	事後学習20分	現在の流行現象に関心を持ち、情報を収集する。	
6	デザインの歴史1	産業革命とデザイン改革	
	事前学習20分	教科書p. 9～14を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習20分	学習した時代のデザインから影響を受けている現代のデザインの事例を調べてみる。	
7	デザインの歴史2	近世のデザイン様式	
	事前学習20分	教科書p. 15～17を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習20分	学習した時代のデザインから影響を受けている現代のデザインの事例を調べてみる。	
8	デザインの歴史3	近代デザインの成立	
	事前学習20分	教科書p. 18～23を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習20分	学習した時代のデザインから影響を受けている現代のデザインの事例を調べてみる。	
9	デザインの歴史4	日本の近代デザイン	
	事前学習20分	教科書p. 24～25を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習20分	学習した時代のデザインから影響を受けている現代のデザインの事例を調べてみる。	
10	造形の基礎理論1	点・線・面・立体	
	事前学習20分	教科書p. 70～85を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習20分	演習課題を振り返り、完成度を高めておく。	
11	造形の基礎理論2	錯視、バランス、シンメトリー、黄金比など	
	事前学習20分	教科書p. 70～85を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習20分	演習課題を振り返り、完成度を高めておく。	
12	造形の基礎理論3	デザインと色彩	
	事前学習20分	教科書p. 86～99を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習20分	身の回りの色彩に目を向け、学習内容をあてはめながら振り返る。	
13	デザインのプロセス	アイデア創出方法論、デザインの現場とデザイナー	
	事前学習20分	教科書p. 54～68を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習20分	演習課題を振り返り、完成度を高めておく。	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習20分	全体の学習内容を振り返り、生活デザインについて説明できるようにする。	
	事後学習20分	この授業で学習した内容を実生活で活かすために自分にできることを考える。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
マーケティング概論	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	講義	2	犬飼（いぬかい） 美穂子（みほこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	大手菓子メーカーにて研究開発を経て、マーケティング業務(戦略策定、商品開発、広告宣伝等)に従事。開発商品が日経トレンディ ヒット商品ラインキング6位を受賞。現職は食品メーカーにて乳酸菌飲料事業のマーケティング部門、取締役。	6・7,14

授業の概要

マーケティングとは私たちの生活の様々な場面に潜んでいるとても身近な学問です。例えば「就職活動で自分を売り込む」「SNSのフォロワーを増やす」「メルカリで高く売れる工夫をする」ことも立派なマーケティング活動です。この授業はマーケティングとは何かから始まり、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングといった基礎的な概念や戦略を学べます。そしてマーケティング活動を展開するための具体的な知識やフレームワークについて身近な企業の事例を通して理解を深め、実際に戦略を立てマーケティング視点を身につけることができます。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)受講態度(30%) (2)グループワーク及びプレゼンテーション(35%) (3)レポート(35%)	再評価は行わない

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・マーケティング理論について論理的に理解しており、自身の表現で説明できる。【DP1:知識・技能】
・実際のマーケティング活動を理論に関連付けて説明することができる。【DP1:知識・技能】
・実践的なマーケティング戦略を論理的に立て、自身の表現でプレゼンテーションし、相手を納得させることができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・授業において、積極的に発言し、クラスの学習のきっかけを作ることができる。【DP3:主体性・多様性・協働性】
・グループワークにおいて、主体的に行動し、リーダーシップをとって問題解決ができる。【DP3:主体性・多様性・協働性

到達（成績評価A）目標

・マーケティング理論について論理的に理解して説明できる。【DP1:知識・技能】
・実際のマーケティング活動の狙いを説明することができる。【DP1:知識・技能】
・実践的なマーケティング戦略を論理的に立て、自身の表現でプレゼンテーションすることができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・授業において、積極的に発言することができる。【DP3:主体性・多様性・協働性】
・グループワークにおいて、主体的に行動し、チームワークをもって問題解決ができる。【DP3:主体性・多様性・協働性】

到達（成績評価B）目標

・マーケティング理論について理解が不足するところもあるが、概ね説明できる。【DP1:知識・技能】
・実際のマーケティング活動の狙いを説明することができるが根拠が不十分。【DP1:知識・技能】
・基礎的なマーケティング戦略を立て、自身の表現でプレゼンテーションすることができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・グループワークにおいて、チームワークをもって課題解決ができる。【DP3:主体性・多様性・協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・マーケティングについての一般的な知識を習得し、関連する用語は述べられる。【DP1:知識・技能】
・実際のマーケティング活動の事例を述べられる。【DP1:知識・技能】
・基礎的なマーケティング戦略を立て、プレゼンテーションすることができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・グループワークにおいて、チームワークをもって取り組む事ができる。【DP3:主体性・多様性・協働性】

教科書

平野敦士カール監修：『大学4年間のマーケティング見るだけノート』、宝島社、最新版、1,210円(税込)

参考書・資料

特になし

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

主に授業内で講評します。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業の順番、内容が変更になる場合があります。
・受講態度(発言の質及び量)も評価します。積極的な発言をお願いします。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
マーケティング概論	生活デザイン専攻	選択	1年後学期	講義	2	犬飼 美穂子	単独	6・7,14

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	マーケティングとは	授業ガイダンス、マーケティングとは、オリエンテーション	
	事前学習 20分	マーケティングとは何か？あらかじめ調べておく。	
	事後学習 20分	教科書と講義内容を振り返り、次回の講義に活かすこと。	
2	3Cと4P	マーケティングの基本である3Cと4Pについて学ぶ	
	事前学習 20分	前回の講義内容を良く学習しておくこと。	
	事後学習 20分	教科書と講義内容を振り返り、次回の講義に活かすこと。	
3	4Pグループワーク	実際のブランド、商品の４Ｐを作成してみる	
	事前学習 20分	前回の講義内容を良く学習しておくこと。	
	事後学習 20分	教科書と講義内容を振り返り、次回の講義に活かすこと。	
4	4Pグループワーク	実際のブランド、商品の４Ｐを作成してみる	
	事前学習 20分	前回の講義内容を良く学習しておくこと。	
	事後学習 20分	教科書と講義内容を振り返り、次回の講義に活かすこと。	
5	ニーズとウォンツ	消費者心理について学ぶ。消費者心理についての簡単なグループワーク	
	事前学習 20分	前回の講義内容を良く学習しておくこと。	
	事後学習 20分	教科書と講義内容を振り返り、次回の講義に活かすこと。	
6	消費者セグメント、ペルソナマーケティング	ペルソナの作成と発表（グループワーク）	
	事前学習 20分	前回の講義内容を良く学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次の講義に活かすこと。	
7	ブランディング	ブランディング、LTVについて学ぶ	
	事前学習 20分	自分の好きなブランドと好きな理由を考えておく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次の講義に活かすこと。	
8	SWOT分析	強みと弱みがわかるSWOT分析について学ぶ	
	事前学習 20分	前回の講義内容を良く学習しておくこと。	
	事後学習 20分	教科書と講義内容を振り返り、次回の講義に活かすこと。	
9	マーケティング戦略について	様々なマーケティングの戦略と考え方を学ぶ	
	事前学習 20分	前回の講義内容を良く学習しておくこと。	
	事後学習 20分	教科書と講義内容を振り返り、次回の講義に活かすこと。	
10	マーケティング実践１/伝わるプレゼン	実際の商品のマーケティング戦略を立てる/伝わるプレゼンについて学ぶ	
	事前学習 20分	前回の講義内容を良く学習しておくこと。	
	事後学習 20分	教科書と講義内容を振り返り、次回の講義に活かすこと。	
11	マーケティング実践２	実際の商品のマーケティング戦略を立てる（ワークショップ）	
	事前学習 20分	前回の講義内容を良く学習しておくこと。	
	事後学習 20分	教科書と講義内容を振り返り、次回の講義に活かすこと。	
12	マーケティング実践３	実際の商品のマーケティング戦略を立てる（ワークショップ）	
	事前学習 20分	前回の講義内容を良く学習しておくこと。	
	事後学習 20分	教科書と講義内容を振り返り、次回の講義に活かすこと。	
13	マーケティング実践４	各自のマーケティング戦略をプレゼンテーションする	
	事前学習 20分	前回の講義内容を良く学習しておくこと。	
	事後学習 20分	教科書と講義内容を振り返り、次回の講義に活かすこと。	
14	マーケティング実践５	各自のマーケティング戦略をプレゼンテーションする	
	事前学習 20分	前回の講義内容を良く学習しておくこと。	
	事後学習 20分	教科書と講義内容を振り返り、次回の講義に活かすこと。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
グラフィックソフト実習	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	実習	1	鈴木（すずき） 麻希子（まきこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	アパレル小売業でのECサイト運営や販促コンテンツ制作の実務経験と、PC講師としてのデザイン指導経験を有する。	3,6・7, 12,16

授業の概要

オンラインデザインツール「Canva（無料版）」を使い、基本操作と制作の流れを学ぶ。テンプレートや素材を活用し、目的に応じたデザイン制作ができる力を身につけるとともに、情報の整理や見やすいレイアウト、文字・画像の配置の基本を理解する。また、素材利用や著作権に関する基礎知識を学び、制作物を安全かつ適切に扱える能力を養う。本授業はアプリケーション操作を中心とした制作実習により進め、Canvaを活用した基礎的なデザインスキルの習得を目指す。

成績評価方法

以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。
（1）制作物（50%）
（2）発表（30%）
（3）授業態度（20%）

再評価の成績評価方法

再試験は、制作物（1）および発表（2）を対象に実施し、得点に応じて成績を更新する。再評価は、制作物（1）から授業態度（3）までの総合評価に基づき行われる。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

授業内での発表や制作物を通して、内容・構成・表現力を的確に整理・表現できるようになる。【DP1：知識・技能】
制作物や発表を主体的に計画・実施し、自らの考えを論理的かつ魅力的に伝えられるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
授業内での活動を通して、自ら課題を発見・設定し、解決に向けて主体的に取り組めるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】

到達（成績評価A）目標

授業内での発表や制作物において、内容・構成・表現力を概ね整理・表現できるようになる。【DP1：知識・技能】
制作物や発表を主体的に計画・実施し、自らの考えを伝える力を発揮できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
授業内での活動を通して、課題の発見・設定や取り組みを主体的に行えるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】

到達（成績評価B）目標

授業内での発表や制作物において、内容・構成・表現力を整理・表現できるようになる。【DP1：知識・技能】
制作物や発表を計画・実施し、自らの考えを伝える力を身につけられるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
授業内での活動を通して、課題の設定や取り組みを自律的に行えるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】

単位取得（成績評価C）目標

授業内での発表や制作物において、内容・構成・表現力を整理して表現できるようになる。【DP1：知識・技能】
制作物や発表を計画・実施し、自らの考えを伝える力を養えるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
授業内での活動を通して、課題の設定や取り組みを行い、学びを深められるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】

教科書

特になし

参考書・資料

Canva公式ヘルプ・チュートリアル（オンライン）
佐久間明彦著：『図解即戦力 デジタル時代の著作権 基本と対策がこれ1冊でしっかりわかる本』¥2,860

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特に自己負担の備品は不要。データ保存用にUSBメモリを用意するとスムーズに作業できる。

課題に対するフィードバック

授業内での発表内容をもとに、内容・構成・表現力の観点から評価を行い、フィードバックとして返す。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業内でCanvaアカウントを作成するため、メール送受信可能なスマートフォンは必ず準備すること。授業内でスマートフォンを使用する。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
グラフィックソフト実習	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	実習	1	鈴木（すずき） 麻希子（まきこ）	単独	3,6・7, 12,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス・Canva概要	授業の進め方の説明、Canvaアカウント作成、無料版と有料版の違い、画面構成の基本説明	
	事前学習 10分	シラバスを読み、授業の流れを把握しておく	
	事後学習 20分	授業で扱った機能を再度操作し、理解を深める	
2	基本操作1	文字・画像の挿入と編集、テンプレートの選択	
	事前学習 20分	前回の授業で使用したツールや操作を復習しておく	
	事後学習 20分	授業で扱った機能を再度操作し、理解を深める	
3	基本操作2	素材の活用、色・フォント・配置の基礎	
	事前学習 20分	前回の授業で使用したツールや操作を復習しておく	
	事後学習 20分	授業で扱った機能を再度操作し、理解を深める	
4	基本操作3	著作権の基礎、データの保存方法と書き出し	
	事前学習 20分	前回の授業で使用したツールや操作を復習しておく	
	事後学習 30分	著作権を意識しながら素材を選び、保存・書き出しを再度試す	
5	SNS用画像作成1（作例）	作例に沿ったSNS用画像作成	
	事前学習 20分	制作テーマや用途を想定し、参考になりそうなSNS画像を探しておく	
	事後学習 30分	授業内で制作が完了しなかった場合は、作品を完成させ、操作を復習する	
6	SNS用画像作成2（オリジナル）	目的に応じたオリジナル制作を行い、作品を見直して必要に応じて修正し、提出する	
	事前学習 20分	これまでに作成した作品を見直し、改善したい点を整理しておく	
	事後学習 30分	制作過程や工夫点を振り返り、未完成の場合は作品を完成させて提出する	
7	講評	制作画像について意図や工夫点を発表し、教員による講評および意見交換を通して理解を深める	
	事前学習 20分	提出作品を見直し、制作意図や工夫した点を簡単に説明できるよう準備しておく	
	事後学習 20分	講評内容を踏まえ、自身の制作の課題や改善点を振り返る	
8	スライド制作1（作例）	作例に沿ったスライド作成	
	事前学習 20分	前回の講評内容を振り返り、スライドで伝えたい内容を簡単に考えておく	
	事後学習 30分	授業内で制作が完了しなかった場合は、作品を完成させ、操作を復習する	
9	スライド制作2（オリジナル）	目的に応じたスライド制作を行い、作品を見直して必要に応じて修正し、提出する	
	事前学習 20分	スライドで伝えたいテーマや内容を簡単に考えておく	
	事後学習 30分	制作過程や工夫点を振り返り、未完成の場合は作品を完成させて提出する	
10	講評	制作スライドについて意図や工夫点を発表し、教員による講評および意見交換を通し理解を深める	
	事前学習 20分	提出作品を見直し、制作意図や工夫した点を簡単に説明できるよう準備しておく	
	事後学習 20分	講評内容を踏まえ、自身の制作の課題や改善点を振り返る	
11	チラシ制作1（作例）	作例に沿ったチラシ作成	
	事前学習 20分	チラシの事例を見て、構成や表現のイメージを整理しておく	
	事後学習 40分	授業内で制作が完了しなかった場合は、作品を完成させ、操作を復習する	
12	チラシ制作2（オリジナル）	目的やターゲットを意識したチラシを制作する	
	事前学習 20分	制作するチラシの用途や想定する対象を簡単に考えておく	
	事後学習 40分	制作途中のチラシを見直し、修正点や改善点を整理しておく	
13	チラシ制作3（オリジナル）	作品を見直し、必要に応じて修正を行い、提出する	
	事前学習 20分	前回までに制作したチラシを見直し、修正点を整理しておく	
	事後学習 40分	制作過程や工夫点を振り返り、未完成の場合は作品を完成させて提出する	
14	講評・まとめ	制作画像について意図や工夫点を発表し、教員による講評および意見交換を通して理解を深める	
	事前学習 20分	前回の講評内容を振り返り、スライドで伝えたい内容を簡単に考えておく	
	事後学習 20分	講評を踏まえ、自身の制作の課題と改善点を振り返る	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
工芸実習	生活デザイン専攻	選択	1年後学期	実習	1	本郷(ほんごう) 芳哉(よしや)	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	6・7

授業の概要

手工芸や伝統工芸の種類と技法を知り、自分の手で作品を作ることの楽しさと完成した時の喜びを体験できることを目的としています。授業では特に七宝、金属素材による金工、ガラス工芸など立体的な工芸作品を制作し、実際に使えるかたち（アクセサリー等の装飾品やカテトラリーなど）にしていきます。
各々の作品のデザインをするところから始め、必要な道具や用品、材料などの基本的な選び方・扱い方を学びながら制作を行います。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下の項目の総合評価とする。 (1)作品　　(70%) (2)受講態度(30%)	再評価は行わない。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、様々な工芸があることを知る。【DP1:知識・技能】
・工芸の観点から自身の生活の周囲にあるものの考察を行い、手工芸で生活を豊かにするための工夫を自ら考え、優れたデザインを実践する。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・自国の文化である伝統工芸の片鱗に触れることで、その価値を理解し、自らも優れたデザインを行うことができる。【DP1:知識・技能】
・道具や用具の構造や仕組みを理解し、自分の作りたいものに合わせて工夫して使うことができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・自ら材料を選び、優れたデザインで制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価A）目標

・豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、様々な工芸があることを知る。【DP1:知識・技能】
・工芸の観点から自身の生活の周囲にあるものの考察を行い、手工芸で生活を豊かにするための工夫やデザインを実践する。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・自国の文化である伝統工芸の片鱗に触れることで、その価値を理解し、自らもデザインを行うことができる。【DP1:知識・技能】
・道具や用具の構造や仕組みを理解し、自分の作りたいものに合わせて工夫して使うことができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・材料を選び、デザインで自ら制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価B）目標

・豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、様々な工芸があることを知る。【DP1:知識・技能】
・工芸の観点から自身の生活の周囲にあるものの考察を行い、手工芸で生活を豊かにするために工夫やデザインをを考えることができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・自国の文化である伝統工芸の片鱗に触れることで、その価値を理解する。【DP1:知識・技能】
・道具や用具が使えるようになり、自ら制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】

単位取得（成績評価C）目標

・豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、様々な工芸があることを知る。【DP1:知識・技能】
・工芸の観点から自身の生活の周囲にあるものの考察を行う。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】
・自国の文化である伝統工芸の片鱗に触れることで、その価値を理解する。【DP1:知識・技能】
・道具や用具が使えるようになり、制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】

教科書

必要に応じてプリント配布

参考書・資料

授業内に適宜指示する

教科書以外にかかる費用(自己負担)

材料費として3,500円徴収します。

課題に対するフィードバック

課題は添削ののち、各自に返却する。（学内での展示に用いる場合は返却時期が遅くなる場合があります。）

履修上の注意・備考・メッセージ

・制作の行程によっては衣類を汚す可能性があるため、汚れてもいい服装で受講すること。
・作業に遅れが生じた場合は、授業外の時間を使って進めておくこと。
・各自で用意する材料については授業内に指示する。
・忘れ物厳禁。
・進行の都合により、内容が前後、変更することがある。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
工芸実習	生活デザイン専攻	選択	1年後学期	実習	1	本郷 芳哉	単独	6・7

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	工芸について／七宝焼き(1)	手で作ることと作品制作について／技法体験（サンプルの作成）と基礎デザイン	
	事前学習 5分	手工芸や伝統工芸の図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 30分	学んだ内容を念頭に置き、身の回りの手工芸に目を向ける	
2	七宝焼き(2)	基礎デザイン	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	
3	七宝焼き(3)	本制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
4	七宝焼き(4)	本制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げておく	
5	ガラス工芸(トンボ玉)及び紐を用いた制作（組紐等）(1)	技法説明及び制作	
	事前学習 20分	ガラス工芸の作品を調べる	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	
6	ガラス工芸(トンボ玉)及び紐を用いた制作（組紐等）(2)	制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
7	ガラス工芸(トンボ玉)及び紐を用いた制作（組紐等）(3)	制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
8	ガラス工芸(トンボ玉)及び紐を用いた制作（組紐等）(4)	制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げておく	
9	金工(アルミスプーン①)	技法体験（サンプルの作成）と基礎デザイン	
	事前学習 20分	普段の生活で使っている食器やカテトラリーに注目し、観察しておく	
	事後学習 30分	参考資料を読み、デザインのイメージをしておく	
10	金工(アルミスプーン②)（カトラリーやジュエリーなど)	基礎デザインおよび制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	
11	金工(アルミスプーン③)（カトラリーやジュエリーなど)	本制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
12	金工(シルバークレイ①)	デザイン	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
13	金工(シルバークレイ②)	本制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げておく	
14	金工(シルバークレイ③)・まとめ	制作と講評	
	事前学習 30分	発表の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作工程を振り返り、生活の中にある工芸を改めて観察する	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
店舗空間デザイン演習	生活デザイン専攻	選択	１年後学期	演習	2	山村（やまむら） 美保里（みほり）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	9,11,12

授業の概要

商業施設における店舗空間のデザインに関する基礎事項を、中世の屏風絵、江戸時代の浮世絵、近世移行の店舗や老舗などから店舗デザインの普遍性を学習する。さらに店舗における動線やゾーニング、陳列、照明などの店舗空間を構成する計画要素を学び、平面図の読み取りをし、POPや購買行動等の販売に関する基礎事項を習得する。最後に、店舗計画のプレゼンテーション課題に取り組み、発表する。自らの企画やアイデアをディスカッションを通して検討し、プレゼンテーションによって表現し、伝えることで、豊かなコミュニケーション力を醸成する。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)受講態度(20%) (2)小課題(40%) (3)プレゼンテーション課題(40%)	再試験は(3)のプレゼンテーション課題を作成して評価する。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

店舗空間デザインに関する基礎知識と、それらをデザインとして表す技能を習得し、自身のアイデアを論理的に説明し、提案できるようになる【DP1:知識・技能】。現代社会の市場を観察し、マーケティング力を用いて、ユニークな店舗コンセプトを創造することができる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に対して主体的に取り組み、様々な場面とターゲットとした顧客を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

店舗空間デザインに関する基礎知識と、それらをデザインとして表す技能を習得し、自身のアイデアを説明し、提案できるようになる【DP1:知識・技能】。現代社会の市場を観察し、マーケティング力を用いて、店舗コンセプトを創造することができる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に対して主体的に取り組み、様々な場面とターゲットとした顧客を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

店舗空間デザインに関する基礎知識と、それらをデザインとして表す技能を習得し、概ね説明できるようになる【DP1:知識・技能】。現代社会の市場を観察し、店舗コンセプトを考案することができる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に取り組み、様々な場面とターゲットとした顧客を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

店舗空間デザインに関する基礎知識を概ね説明できるようになる【DP1:知識・技能】。現代社会に応じた店舗コンセプトを考案することができる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に取り組み、ターゲットとした顧客を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

教科書

資料は適宜配布する

参考書・資料

特になし

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

小課題は教員のアドバイスとともに、クラス内で共有する。プレゼンテーション課題は、最終発表時に評価する

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業中の携帯電話の操作禁止（指示のある場合は除く）
・私語厳禁

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
店舗空間デザイン演習	生活デザイン専攻	選択	1年後学期	演習	2	山村 美保里	単独	9,11,12

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス	授業の目的及び方針の説明	
	事前学習 30分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 30分	授業方針を確認する	
2	店舗の歴史Ⅰ	「見せ」から始まった中世の店舗	
	事前学習 30分	中世から江戸期の絵図を見ておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
3	店舗の歴史Ⅱ	江戸の町民文化と移動販売、老舗店舗の特徴	
	事前学習 30分	前回の復習をする	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
4	店舗デザインの普遍性	近世以降の店舗とまとめ　店舗デザインの普遍性の確認	
	事前学習 30分	前回の復習をする	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
5	店舗計画Ⅰ	立地と商圏、ターゲットと世代	
	事前学習 30分	前回の復習をする	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
6	店舗計画Ⅱ	購買行動、店舗内の陳列、什器、動線とゾーニング	
	事前学習 30分	前回の復習をする	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
7	店舗計画Ⅲ	店舗の防災と関連法規、色彩、照明、売り場の演出、POP	
	事前学習 30分	前回の復習をする	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
8	業態と店舗計画　アパレルと物販	アパレルの売り場の特徴、平面計画	
	事前学習 30分	前回の復習をする	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
9	業態と店舗計画　カフェ・喫茶店	カフェと喫茶店の特徴、平面計画	
	事前学習 30分	前回の復習をする	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
10	課題発表	課題となった店のコンセプトを検討する	
	事前学習 30分	前回の復習をする	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
11	プレゼンテーションボードの作成	店舗の計画	
	事前学習 30分	前回の復習をする	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
12	プレゼンテーションボードの作成	店舗の計画	
	事前学習 30分	前回の復習をする	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
13	プレゼンテーションボードの作成	プレゼンテーションの準備	
	事前学習 30分	前回の復習をする	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
14	発表会と総括	発表会と振り返り	
	事前学習 30分	発表練習をする	
	事後学習 30分	他の発表者のアイデアを確認する	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
サービス英語コミュニケーション	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	演習	2	江口 眞由美（えぐち まゆみ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	8,9,16

授業の概要

本授業ではサービス業の現場（接客・案内等）で必要な実践的英語コミュニケーション能力を身につけることを目的とし外国語検定の合格を目指しビデオ演習を交えながら実践的な状況を交えて授業を進めていきます。実際の業務場面を想定した英語表現を学びます。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)授業で与えられた課題（ワークシート等）40% (2)授業受講態度、積極性(ロールプレイ等）30% (3)パフォーマンス評価(発表、検定試験等)30%	再試験は(1)の課題の再提出により点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・相手の要望を正確に聞き取り、的確な英語で応答できる【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】　・相手の話を十分に理解し、情報提供や提案ができる【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】　・問題発生時に背景を理解し英語で質問をしながらスムーズに解決できる【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】　・時間や期日を守り、積極的に授業に取り組む【DP3：主体性、多様性、協働性】　・外国語検定合格点に達する【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・単語や表現法の知識を使って応答できる【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】　・知識を活用して応答できる【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】　・背景を理解し、簡単な文章で問題解決に取り組む【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】　・時間や期日を守り、積極的に授業に取り組む【DP3：主体性、多様性、協働性】　・外国語検定合格点を目標に学習に取り組む【DP3：主体性、多様性、協働性】
・外国語検定合格点を目標に学習に取り組む【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・単語や表現法、ボディランゲージで応答できる【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】　・単語を並べるなどして応答できる【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】　・背景を理解し、ボディランゲージや単語で問題解決に取り組む【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】　・時間や期日を守り積極的に授業に取り組む【DP3：主体性、多様性、協働性】　・外国語検定合格点を目標に学習に取り組む【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・周りのサポートを得ながら単語やボディランゲージで応答できる【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】　・理解しようとする姿勢で周りの協力を得ながら応答できる【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】　・周りのサポートを得ながら問題解決に取り組む【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】　・時間や期日を守り積極的に授業に取り組む【DP3：主体性、多様性、協働性】　・外国語検定合格点を目標に学習に取り組む【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

必要に応じてプリントを配布

参考書・資料

必要に応じてプリントを配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

外国語英語検定費用　３，３００円　　外国語英語検定は2026年12月実施予定。

課題に対するフィードバック

授業では積極的にペアワークやグループワークに参加し、自分の考えや意見を表現し発信していく姿勢が大切である。

履修上の注意・備考・メッセージ

出席、遅刻、欠席について
・遅刻・欠席はなるべく避けること
・やむを得ず欠席する場合は必ず事務局へ連絡すること
・欠席が多い場合は成績評価に影響する場合がある
授業中のマナー
・他の学生や授業の進行の妨げになる行為は控えること

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
サービス英語コミュニケーション	生活デザイン専攻	選択	1年後学期	演習	2	江口 眞由美	単独	8,9,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	授業概要の説明と目的	英語の有用性に触れ英語学習のモチベーションを高める	
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 15分	課題ワーク	
2	コミュニケーションとは	コミュニケーションについて	
	事前学習 15分	コミュニケーションの必要性を考えてくる	
	事後学習 15分	課題ワーク	
3	接客英会話	ヒヤリング力を強化する	
	事前学習 15分	外国人に紹介したい日本文化を考えてくる	
	事後学習 15分	課題ワーク	
4	接客英会話	数字、金銭のやり取り	
	事前学習 15分	英語で1-100までの数字を予習	
	事後学習 15分	課題ワーク	
5	接客英会話	役立つ知識	
	事前学習 15分	復習	
	事後学習 15分	課題ワーク	
6	接客英会話	相手の要望を理解しながら対応する事を学ぶ	
	事前学習 15分	復習	
	事後学習 15分	課題ワーク	
7	ボディランゲージ	英語と日本語での表現方法の違いについて学ぶ	
	事前学習 15分	復習	
	事後学習 15分	課題ワーク	
8	ヒヤリング力強化	リズム、イントネーションを学ぶ	
	事前学習 15分	復習	
	事後学習 15分	課題ワーク	
9	接客英会話	地図の見方や道案内について学ぶ	
	事前学習 15分	復習	
	事後学習 15分	課題ワーク	
10	接客英会話	トラブルシューティング	
	事前学習 15分	復習	
	事後学習 15分	課題ワーク	
11	接客英会話	トラブルシューティング	
	事前学習 15分	復習	
	事後学習 15分	課題ワーク	
12	みんなの外国語検定試験まとめ	検定試験説明	
	事前学習 15分	復習	
	事後学習 15分	課題ワーク	
13	みんなの外国語検定試験まとめ	試験実施	
	事前学習 30分	復習	
	事後学習 15分	課題ワーク	
14	みんなの外国語検定	全体の振り返り	
	事前学習 30分	予習・復習	
	事後学習 10分	課題ワーク	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
カラーコーディネート演習	生活デザイン専攻	選択	2年 前学期	演習	2	山村（やまむら） 美保里（みほり）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	11,12,15

授業の概要

生活に関する専門的な知識・技能を仕事や家庭での実践に活かせるようになるという目標に到達するために、この科目では、色に関する知識と配色の技能を身に付ける。はじめに、色とは何か、色が見える仕組み、色の分類など色彩学の基本を学び色についての理解を深める。次に、色の三属性、色彩体系、配色理論を学び、仕事や家庭において応用できる実践力を養う。習得した知識により、色彩検定の試験合格を目指すこともできる。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)受講態度(20%) (2)小課題(40%) (3)プレゼンテーション課題(40%)	再試験は(3)のプレゼンテーション課題を作成して評価する。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・色とは何か、色が見える仕組み、色の三属性、色彩体系、などの色彩学の基本的理論について論理的に理解しており、自身の表現で説明できる。【DP1:知識・技能】
・配色理論の根拠に基づき、日常生活におけるＴＰＯや心理状態に応じた適切な色の組み合わせについて自身の考えを自身の表現で説明できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・実務の場を想定した演習において、商品やサービス等に配色理論を応用し独自性のある企画・提案ができ自身の表現で説明ができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・色とは何か、色が見える仕組み、色の三属性、色彩体系、などの色彩学の基本的理論について論理的に理解して説明できる。【DP1:知識・技能】
・配色理論の根拠に基づき、日常生活におけるＴＰＯや心理状態に応じた適切な色の組み合わせについてを自身の考えを説明できる【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・実務の場を想定した演習において、商品やサービス等に配色理論を応用し独自性のある企画・提案ができ説明ができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・色とは何か、色が見える仕組み、色の三属性、色彩体系、などの色彩学の基本的理論について論理的な理解が不足するところもあるが、概ね説明できる。【DP1:知識・技能】
・日常生活におけるＴＰＯや心理状態に応じた適切な色の組み合わせについて自身の考えはおおむね説明できるが、配色理論の根拠は不十分。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・実務の場を想定した演習において、商品やサービス等に配色理論に基づいた企画・提案ができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・色とは何か、色が見える仕組み、色の三属性、色彩体系、などの色彩学の基本的理論について論理的な理解には乏しいが、関連する用語は述べられる。【DP1:知識・技能】
・日常生活におけるＴＰＯや心理状態に応じた適切な色の組み合わせについて自身の考えを説明できるが不十分であり、配色理論の根拠に基づくことはできない。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・実務の場を想定した演習において、商品やサービス等に配色理論に関連する企画・提案ができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

教科書

『色彩検定　公式テキスト３級編』(最新版)¥2,970

参考書・資料

『色彩検定　公式テキスト２級編』(最新版)¥2,970

教科書以外にかかる費用(自己負担)

定試験受験希望者は，問題集代（1100円），受験料（3級7000円）

課題に対するフィードバック

授業内の小課題は評価したのち、返却する

履修上の注意・備考・メッセージ

・教科書は初回授業までに各自で購入しておく
・授業中の携帯電話の操作禁止（指示のある場合は除く）
・私語厳禁

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
カラーコーディネート演習	生活デザイン専攻	選択	2年 前学期	演習	2	山村 美保里	単独	11,12,15

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス	授業スケジュール，色のはたらき，色の心理的効果	
	事前学習 20分	シラバスに目を通しておく	
	事後学習 30分	生活の中の色彩に目を向け、理解を深める	
2	光と色	色の見えるしくみ	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく	
	事後学習 30分	授業で学んだ内容について理解を深める	
3	色の表示Ⅰ	色の分類，色の三属性	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく	
	事後学習 30分	授業で学んだ内容について理解を深める	
4	色の表示Ⅱ	ヒュー＆トーンとPCCS，色立体	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく	
	事後学習 30分	授業で学んだ内容について理解を深める	
5	色彩心理	印象と効果，配色イメージ，行動経済学と色彩	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく	
	事後学習 30分	授業で学んだ内容について理解を深める	
6	色彩調和	配色の基本	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく	
	事後学習 30分	授業で学んだ内容について理解を深める	
7	文化と色彩	文化による色の意味の違い，景観と色彩	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく	
	事後学習 30分	授業で学んだ内容について理解を深める	
8	色彩とビジネスデザイン	商品・店舗における色の役割，マーケティングとブランドカラー	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく	
	事後学習 30分	授業で学んだ内容について理解を深める	
9	メディアデザインと色彩	印刷とWEB，アナログとデジタル，AIが生成する色	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく	
	事後学習 30分	授業で学んだ内容について理解を深める	
10	暮らしの中の色彩	ファッション・インテリアと色彩	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく	
	事後学習 30分	授業で学んだ内容について理解を深める	
11	日本の伝統色	和の色の基礎，慣用色名	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく	
	事後学習 30分	授業で学んだ内容について理解を深める	
12	プレゼンテーション課題	配色計画	
	事前学習 30分	これまでに学んだ内容を課題に活かせるよう復習する	
	事後学習 30分	課題をすすめる	
13	プレゼンテーション課題	配色計画	
	事前学習 30分	これまでに学んだ内容を課題に活かせるよう復習する	
	事後学習 30分	課題をすすめる	
14	まとめ	プレゼンテーション，振り返り	
	事前学習 30分	発表の準備をする	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
デジタルデザイン演習	生活デザイン専攻	選択	2年 前学期	演習	2	李（り）　子木（ずむ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	1,3,4,8,9,12,14,16

授業の概要

自分の力でパンフレットやホームページのデザインを制作していきます。デザインはアートではありません。自分の好きな形を作ることではなく、常にユーザーのことを考え、「わかりやすい」「伝わりやすい」「使いやすい」といった要件を満たす必要があります。本授業では、FigmaやCanvaといったツールを活用し、ホームページなどの制作を通じて、皆さんの伝達力と創造力を養います。この授業を通じて、デザイン思考やユーザー視点を身につけ、社会で求められる人材となることを目指します。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1) 授業態度 (30%) (2) 制作物 (40%) (3) プレゼンテーション (30%) で評価します。	再試験は(3)のプレゼンテーションを実施し、点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

以下の1～3を到達目標とする。
1.適切なデザインとは何かを十分に理解し、説明できる。【DP1：知識・技能】
2.ツールを習熟し、オリジナルのデザインを制作し、それを魅力的にプレゼンテーションできる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
3.グループワークにおいて、リーダーシップやチームワークを活かし、問題解決能力を修得し、実際に活用できるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】

到達（成績評価A）目標

以下の1～3を到達目標とする。
1.適切なデザインとは何かを十分に理解し、説明できる。【DP1：知識・技能】
2.ツールを活用し、適切なデザインを制作し、それを魅力的にプレゼンテーションできる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
3.グループワークにおいて、リーダーシップやチームワークを活かし、問題解決能力を修得し、実際に活用できるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】

到達（成績評価B）目標

以下の1～3を到達目標とする。
1.デザインの基本を理解し、説明できる。【DP1：知識・技能】
2.ツールを使用してデザインを制作し、それをプレゼンテーションできる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
3.グループワークにおいて、リーダーシップやチームワークを活かし、問題解決能力を修得する。【DP3：主体性・多様性・協働性】

単位取得（成績評価C）目標

以下の1～3を到達目標とする。
1.デザインの基本を理解し、説明できる。【DP1：知識・技能】
2.ツールを用いてデザインを模倣し、それをプレゼンテーションできる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
3.グループワークにおいて、リーダーシップやチームワークを活かし、問題解決能力を修得する。【DP3：主体性・多様性・協働性】

教科書

特になし

参考書・資料

特になし

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

授業内で随時フィードバックを行う

履修上の注意・備考・メッセージ

レベルの高い制作を行う授業なので欠席が続くと授業に復帰するのが難しいと思います。前向きに技術を身につけたいという姿勢を持って受講してください。また初回授業までに各自googleのアカウントを取得し、Gmailを使えるような状態にしておいてください。※進行状況に応じて授業の順番あるいは内容を変更する場合があります。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
デジタルデザイン演習	生活デザイン専攻	選択	2年 前学期	演習	2	李　子木	単独	1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	トンマナとフォントの選び方	デザインの雰囲気を決める要素であるトンマナとフォントについて学ぶ。	
	事前学習 20分	既存のポスターのトンマナとフォントなどで検索して調べておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
2	レイアウトのルール	デザインの雰囲気を決める要素でレイアウトについて学ぶ。	
	事前学習 20分	既存のウェッブサイトのレイアウトなどで検索して調べておくこと。	
	事後学習 30分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
3	ロゴデザイン	デザインしたロゴが入った名刺のデザインを発表する。	
	事前学習 20分	アイデアスケッチを描いておく。	
	事後学習 30分	ロゴをデザインしておく。	
4	グラフィックにおける色の使い方	デザインの色選び方について学ぶ。	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 30分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
5	バナーのデザイン	商品のバナーを制作する。	
	事前学習 20分	アイデアスケッチを描いておく。	
	事後学習 30分	デザインを製作する。	
6	パンフレットのデザイン1	学校のオープンキャンパスのパンフレットのターゲットとコンセプトを決める。	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 30分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
7	パンフレットのデザイン2	学校のオープンキャンパスのパンフレットをデザインする。	
	事前学習 20分	アイデアスケッチを描いておく。	
	事後学習 30分	デザインを製作する。	
8	ホームページのコンセプト	既存のホームページを調べて分析する。	
	事前学習 20分	リサーチしたホームページをまとめておく。	
	事後学習 30分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
9	ホームページのデザイン1	ホームページのワイヤーフレームを作成する。	
	事前学習 20分	事前に参考になるデザインを調べておく。	
	事後学習 30分	ワイヤーフレームをブラッシュアップする。	
10	ホームページのデザイン2	ホームページのデザインカンプを作成する。	
	事前学習 20分	ワイヤーフレームを完成させておく。	
	事後学習 30分	デザインカンプを仕上げる。	
11	Canva　実践	Canvaの操作に慣れる	
	事前学習 20分	Canvaの基本操作をチュートリアルなどで学んでおく。	
	事後学習 30分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
12	ポスター制作1	イベントのコンセプトを決める。	
	事前学習 20分	リサーチを行い、参考デザインを集めておく。	
	事後学習 30分	アイデアスケッチを作成する。	
13	ポスター制作2	イベントポスターをデザインする。	
	事前学習 20分	アイデアスケッチを準備しておく。	
	事後学習 30分	デザインを仕上げる。	
14	最終発表	自身のデザインをプレゼンテーションし、講評を受ける。	
	事前学習 20分	プレゼン資料を作っておく。	
	事後学習 30分	講義の振り返りと、今後の成長に向けた計画を立てる。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
ユニバーサルデザイン概論	生活デザイン専攻	選択	2年後学期	講義	2	山村 美保里（やまむら みほり）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当しない	9,11,12

授業の概要

生活経営や仕事、社会活動に主体的に参画できる能力と豊かなコミュニケーション能力を身に付けるために、ユニバーサルデザインの意義と本質について学ぶ。発祥と変遷、意義、考え方、原則などから、現代社会における必要性を、また行動心理学、行動経済学とユニバーサルデザインとの関係に着目して人の性質と多様性から、これからのユニバーサルデザインを考えていく。身近な環境における課題の発見、とその解決について、利用者と提供者の両面から考え、意見を出し合い、多様な利用者の生活がより快適で安全になるよう利便性を考える。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)定期試験（筆記試験）(40%) (2)授業内課題(40%) (3)受講態度(20%)	再試験は(1)の筆記試験を実施し、点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・ユニバーサルデザインの意義、考え方、原則などについて論理的に理解しており、現代社会における必要性について具体例を挙げて自身の表現で説明できる。【DP1:知識・技能】
・人間の多様な個性への理解と広い視野を持つことの重要性について論理的に理解しており、具体例を挙げて自身の表現で説明できる。【DP2:思考力・判断力、表現力等】
・利用者と提供者の両面から日常生活の中の課題を見つけることができ、問題解決に向けて妥当な方法で能動的に取り組むことができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・ユニバーサルデザインの意義、考え方、原則などについて論理的に理解しており、現代社会における必要性について具体例を挙げて説明できるようになる。【DP1:知識・技能】
・人間の多様な個性への理解と広い視野を持つことの重要性について論理的に理解しており、具体例を挙げて説明できるようになる。【DP2:思考力・判断力、表現力等】
・利用者と提供者の両面から日常生活の中の課題を見つけることができ、問題解決に向けて能動的に取り組むことができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・ユニバーサルデザインの意義、考え方、原則などについて論理的な理解が不足するところもあるが、現代社会における必要性について概ね説明できる。【DP1:知識・技能】
・人間の多様な個性への理解と広い視野を持つことの重要性について論理的な理解が不足するところもあるが、概ね説明できる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・利用者と提供者の両面から日常生活の中の課題を見つけることができ、問題解決に向けて取り組むことができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・ユニバーサルデザインの意義、考え方、原則などについて、論理的な理解には乏しいが、現代社会における必要性について関連する用語は述べられる。【DP1:知識・技能】
・人間の多様な個性への理解と広い視野を持つことの重要性について論理的な理解には乏しいが、関連する用語は述べられる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・利用者と提供者の両面から日常生活の中の課題を見つけることができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

教科書

資料は適宜配布する。

参考書・資料

宮入賢一郎・実利用者研究機構著：『トコトンやさしいユニバーサルデザインの本 第3版』日刊工業新聞社（2022） ¥1,650

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

授業内の小課題は評価したのち、返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業中の携帯電話の操作禁止（指示のある場合は除く）
・私語厳禁

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
ユニバーサルデザイン概論	生活デザイン専攻	選択	2年後学期	講義	2	山村 美保里	単独	9,11,12

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ユニバーサルデザインとは何かⅠ	ガイダンス，ユニバーサルデザインとは何か，バリアフリーとの違い	
	事前学習 20分	シラバスに目を通しておく	
	事後学習 30分	生活の中のユニバーサルデザインに目を向け、理解を深める	
2	ユニバーサルデザインとは何かⅡ	ユニバーサルデザインの7原則	
	事前学習 30分	前回の内容を確認しておく	
	事後学習 30分	生活の中のユニバーサルデザインに目を向け、7原則について理解を深める	
3	人間の多様性Ⅰ	利用者の多様性 障害・マイノリティ・高齢者の理解	
	事前学習 30分	前回の内容を確認しておく	
	事後学習 30分	学習した内容の理解を深める	
4	人間の多様性Ⅱ	インクルーシブ・デザイン，カラーユニバーサルデザイン	
	事前学習 30分	前回の内容を確認しておく	
	事後学習 30分	学習した内容の理解を深める	
5	ユニバーサルデザインの調査と発想	生活調査と課題の発見	
	事前学習 30分	前回の内容を確認しておく	
	事後学習 30分	学習した内容の理解を深める	
6	行動心理学とユニバーサルデザイン	行動心理学の基礎　人間の特質とユニバーサルデザイン	
	事前学習 30分	前回の内容を確認しておく	
	事後学習 30分	生活の中で様々な利用者に目を向け、学習した内容の理解を深める	
7	行動経済学とユニバーサルデザイン１	行動経済学の基礎	
	事前学習 30分	前回の内容を確認しておく	
	事後学習 30分	生活の中で様々な利用者に目を向け、学習した内容の理解を深める	
8	行動経済学とユニバーサルデザインⅡ	人間の行動特性とユニバーサルデザイン	
	事前学習 30分	前回の内容を確認しておく	
	事後学習 30分	生活の中で様々な利用者に目を向け、学習した内容の理解を深める	
9	高齢社会とユニバーサルデザイン	認知、デジタルアクセシビリティ等の高齢者への配慮	
	事前学習 30分	前回の内容を確認しておく	
	事後学習 30分	生活の中で様々な利用者に目を向け、学習した内容の理解を深める	
10	ユニバーサルデザイン課題ワークⅠ	行動調査および学んだ基礎をもとに課題発見	
	事前学習 30分	これまでの内容を確認しておく	
	事後学習 30分	終わっていない作業は進めてくる	
11	ユニバーサルデザイン課題ワークⅡ	課題に関する具体例調査	
	事前学習 30分	終わっていない作業は進めてくる	
	事後学習 30分	終わっていない作業は進めてくる	
12	ユニバーサルデザイン課題ワークⅢ	課題に関する解決について	
	事前学習 30分	終わっていない作業は進めてくる	
	事後学習 30分	発表された案について理解を深める	
13	ユニバーサルデザインの今後	これからのユニバーサルデザイン	
	事前学習 30分	今後の可能性、自身との関わりについて考えてくる	
	事後学習 30分	理解を深める	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習 30分	１～13回で学んだことを復習しておく	
	事後学習 30分	授業で学んだことを暮らしの中で活かすことを考える	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
食べ・ストラテデザイン実習	生活デザイン専攻	選択	1年 前学期	実習	1	パッケ 伊東（いとう）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	広告代理業務にて、資生堂、味の素、明治、いなば食品、メルシャン等。 ★デザイン賞・受賞歴多数あり。※以上の経歴が活かされる	1,3,4,8,9,12,14,16

授業の概要

『【 ストラテジー 】 Strategyとは、 戦略・プロジェクトを導く計画。“ 商品開発デザイン ”の進め方と“ モノの見方 ”を学ぶ。』
●実際に自分のデザインで、マーケティング・リサーチ（ 市場調査 ）を体験。自分のデザインの改善方法を学ぶ。《孫子の兵法・ランチェスターの法則》
●“ 商品・特徴 ”のキーワードを見つけ出し、“ 特徴 ”づけけた、ネーミングを制作。ピーター・ドラッカーの《 売れるモノを創る 》を学ぶ。
●おもしろ・うきうき、シズル・心に訴えかけるコマーシャルを鑑賞し、《 食べたくなる、飲みたくなる、興味を引く、買いたくなる 》を学ぶ。
●やる気カードを使って、モチベーションをアップしながら授業を楽しく進めます。《 モチベーション効果 》を学ぶ。
●ゲーム・クイズ・テーマパーク感覚の楽しい癒しの授業内で、“たたかう・デザイん”を学ぶ。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
実習作品レポート提出物（50%）、やる気カード（50%）の総合評価。 ※特に、授業内での発言力と、提出物等の完成度が高く、アイデアのすばらしさが認められた場合には、A、又は、さらに上のSの評価が与えられます。	再評価は行わない

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

『《 戦略的 》商品開発のデザイン方法と、モノの見方を身につける。』1～4までを理解し、実行でき、完成されたものが素晴らしく感動的である。
1.デザインのパワー（ちから）を知るなどの応用的な知識を身につけ活用できるようになる。【DP1：知識・技能】
2.“グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワーク”などの問題解決等の能力を身につけ、実行。更に、自らの考えでチームを導き、助け合いの中から 信頼と親切を生むことが出来るようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
3.デザインの完成度の高め方と、良いアイデアの出し方の応用的知識を修得する。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4.“やる気”の出し方“プラスの心”の持ち方の基礎的な知識を修得し活用でき、楽し見ながらやる気を出すことが出来るようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

『《 戦略的 》商品開発のデザイン方法と、モノの見方を身につける。』1～4までを理解し、実行できるようになる。
1.デザインのパワー（ちから）を知るなどの応用的な知識を身につける。【DP1：知識・技能】
2.“グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワーク”などの問題解決等の能力を身につけ、実行し、自らの考えでチームを導くことが出来るようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
3.デザインの完成度の高め方と、良いアイデアの出し方の応用的知識を修得し活用できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4.“やる気”の出し方“プラスの心”の持ち方の基礎的な知識を修得し活用でき、自らやる気を出す方法見つけ出すことが出来るようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

『《 戦略的 》商品開発のデザイン方法と、モノの見方を身につける。』1～4までを理解し、具体的に説明できるようになる。
1.デザインのパワー（ちから）を知るなどの基礎的な知識を身につけ活用できるようになる。【DP1：知識・技能】
2.“グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワーク”などの問題解決等の能力を身につけ、実行出来るようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
3.デザインの完成度の高め方と、良いアイデアの出し方の基礎的知識を修得し活用できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4.“やる気”の出し方“プラスの心”の持ち方の基礎的な知識を修得し活用できる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

『《 戦略的 》商品開発のデザイン方法と、モノの見方を身につける。』1～4までを理解し、概ね説明できるようになる。
1.デザインのパワー（ちから）を知るなどの基礎的な知識を身につける。【DP1：知識・技能】
2.“グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワーク”などの問題解決等の能力を身につける。【DP3：主体性、多様性、協働性】
3.デザインの完成度の高め方と、おもしろいアイデアの出し方の基礎的知識を修得する。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4.“やる気”の出し方“プラスの心”の持ち方の基礎的な知識を身につける。【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

特になし

参考書・資料

授業内で、プリントを配布。

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題は、評価したのち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

モチベーション効果と、やる気を考える。ここでのやる気は、授業態度ではありません。
【やる気度の高い学生&モチベーション効果を理解した学生には“やる気 スタンプ”を差し上げます。】ゲーム感覚で取得してください。
この授業は、『商品と人』の、やる気の出し方、やる気のブランディング方の授業です。“やる気 カード・スタンプ”（ 活発な発言力&アイデアの良さ ）は、実習作品の評価をこえるカードです。
※授業の順番あるいは内容を変更する場合があります。※新しい授業内容のアイデアも、私と相談のうえ立案して頂く事も考えております。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
食べ・ストラテデザイン実習	生活デザイン専攻	選択	1年 前学期	実習	1	パッケ 伊東	単独	1,3,4,8,9,12,14,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ライン・スタンプを創るゾウ！『パ王』	おいしいぞぉお。まずいっぞぉお。ラインのタンプを企画制作。 実際のMILKのマーケティング・リサーチにて、デザインの良い悪いを見極める術を学ぶ。	
	事前学習 5分	ストラテジックの意味を、調べておく。	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。	
2	最強パワー・ドリンク　デザイン甲子園	超ドリンク企画＆調査～ランチェスターの法則／孫子の兵法	
	事前学習 12分	コンビニ or 薬局などで、オロナミンC、リポビタンDなどが、並んでいる様子を見ておく。	
	事後学習 12分	投影されたランチェスターの法則／孫子の兵法の意味を、メモし覚えておく。	
3	恐怖の意味！こんな感じ！こんな漢字！	漢字は、意味を表わす“ 表意文字 ”。ロゴマークと、コンセプトを考える。	
	事前学習 12分	自分の好きな漢字3つを選び、その意味を調べておく。実は怖い漢字の意味から ロゴマークの本質を考える	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。	
4	10秒でうまくなる。“ 趣きと 味わいの書 ”	楽・秘・伝。“ 売れる筆文字 ” ★ただ上手だけの筆文字を、趣きと味わいの書に変える。	
	事前学習 12分	好きな漢字orひらがな一文字、3候補を考えておく。	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。	
5	ベネチュバル仮面舞踏会	インバウンド（ 訪日外国人旅行者 ）お土産ブランド創り。現状手法とは違うデザイン発想。	
	事前学習 20分	歌舞伎、化粧、特殊メイク、レンジャーの変身、日本のお土産としての伝統仮面、コスプレ的コスチューム、面白い斬新なファッションイメージなど、考えておく。	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。	
6	“レジンで創る”うきうき ドリンクバー	おいしく、かわいいを、ドリンクカップに表現する。	
	事前学習 20分	レジンで、おいしそうな、インパクト・スーパーリアリズムをアートする。	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。	
7	“レジンで創る”楽しい ジュエリー	新しいコンセプト・アクセサリー。芸術・アートとして創作する。	
	事前学習 20分	レジンで、自然の一部を切り取り取って、テーマにしたジュエリーを創るので、アイデアをイメージする。	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。	
8	日帰り “べ・べ・る・る” バスツアー	どこいくそこいく。食べ！遊べ！ゆる！ゆる！旅行を包む企画を考える。	
	事前学習 12分	日帰のバスツアーについて、あらかじめ、調べておく。	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。	
9	インスタ映えする写真の撮り方。 『 何かに見立てる 』	広告・本の出版・ファッションのアイデア出しに最も必要な『 何かに見立てる 』を学ぶ。　立体感のある写真の撮影の方法をレクチャー致します。	
	事前学習 12分	夢のジオラマ創作。自分たちで演出しポーズをつける。超奇界アングルモードの撮影方法などを考えておく。	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。	
10	おとぎチョコッとチョコ物語＆12	販売中のチョコ“ DARS ”を、おとぎ話と、12（ダース）をイメージして新しくリニュアル。	
	事前学習 12分	おとぎ話、昔話、好きなストーリーを調べておく。12に関する何かを調べておく。	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。	
11	3D ART 切影絵	『 切り絵 』と『 影絵 』の融合。切り絵を使って影絵にすると“P！芸術”になる。	
	事前学習 12分	どんな素材をモチーフにするか考えておく。 素材コントラストの強い写真を用意しておく。	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。	
12	推しメンうちわ デザイン　　『 アイドル（ 実在の人物 ）』	『 人・物・写・真 』をモチーフに使い。“ 新発想のアピール・うちわ ”をデザインする。	
	事前学習 20分	『 アイドル or 俳優《 人物の写真 》 』を スマホ or 雑誌で、素材データを収集・用意する。 ※ 実在の人物をモチーフに、推し・アピール・応援を演出する。	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。	
13	『 レジンで創る 』ジェラート ネイル。	プチ・ファッションを、デザインする“ レジン・ネイル・サロン ”。	
	事前学習 12分	完成した付けヅメのネイルデザインを、自分の手につけて撮影します。なので、手のポーズを考えておく。背景の素材（布・和紙）と、ネイルを引き立てて手に持つ何か（デザインの良い化粧品瓶）などの持参を考えておく。	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。 ※ ジェルネールではありません。 レジンで創る 付けヅメデザイン = ★ジェラートネイル（私の創った造語）です。	
14	カフェプロ CHAちゃちゃっと！チャット	面白すぎる“ お茶カフェ ”の、 店 & 商品をプロデュースする。	
	事前学習 12分	おちゃの茶葉（ 緑茶・紅茶・ウーロン茶・杜仲茶など ）を、すこしだけ、持ってくる。	
	事後学習 12分	投影された内容を、ノートに書き取り、読み返し覚えておく。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
パティシエ実習Ⅰ （製菓製パン実習Ⅰ）	生活デザイン専攻	選択	1年 前学期	実習	1	米山（よねやま） 陽子（ようこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	6・7,9,12,15,16,17

授業の概要

食生活に関する専門的技能を仕事や家庭生活での実践に活かせるようになるために、製菓の実習を和菓子・洋菓子について基礎を理論とともに学ぶ。実習での素材の取り扱い方、器具類の扱い方、生地の作り方、焼成、仕上げなど、製菓のポイントをわかりやすく理論をもとに解説する。洋菓子では種々の生地の特徴と作り方を学ぶ。和菓子も餡の作り方から基本を学ぶ。習った項目の復習を計量から行い、1人で確実に作ることができるようにする。期間中に食品衛生責任者の資格を取得する。（調理師取得者は食品衛生責任者取得必要なし）

成績評価方法	再評価の成績評価方法
①プリントのまとめ方(40%)、 ②課題10%、 ③学修成果のための試験（実技テスト）20%、 ④平常点（学修意欲、履修態度、復習状況等）30%の総合評価。	再試験　①8回以上提出済みの場合、未提出分の再評価を行う 再評価　①および②～④の総合評価

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

1. パテシエ実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製菓の基礎知識と技術を論理的に理解し習得し、それを応用して実践できる。【DP1：知識・技能】
2. 安全・衛生面に配慮しながら、正確にスムーズに操作、行動ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. うまくいかないときに、原因を分析することができ、問題解決を論理的にできるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. 失敗することなくおいしく、一人で作ることが、計画立てて実行することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
5. メンバーを尊重・協力しながら役割に応じた責任を果たし、実習を進めることができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
6. ノートに全ての実習回・実習テストの内容を正確にまとめ、過程で生じた疑問点についてもまとめ提出できる。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価A）目標

1. パテシエ実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製菓の基礎知識と技術を習得し、それを応用して実践できる。【DP1：知識・技能】
2. 安全・衛生面に配慮しながら、スムーズに操作、行動ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. うまくいかないときに、原因を分析することができ、問題解決できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. 失敗することなくおいしく、一人で作ることが、実行することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
5. 役割に応じた責任を果たし、実習を進めることができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
6. ノートに全ての実習回・実習テストの内容を正確にまとめ提出できる。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価B）目標

1. パテシエ実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製菓の基礎知識と技術を習得し、実践できる。ノートに内容を概ねまとめることができ提出することができる。【DP1：知識・技能】
2. 安全・衛生面に配慮しながら、操作、行動ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. うまくいかないときに、原因を分析することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. おいしく、一人で作ることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
5. 役割に応じた責任を概ね果たし、実習を進めることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
6. ノートに全ての実習回・実習テストの内容をまとめ提出することができる。【DP1：知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

1. パテシエ実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製菓の基礎知識と基礎的技術を実践できるようになる。ノートをまとめ提出することができる。【DP1：知識・技能】
2. サポートを得ながら、衛生面・安全に注意しながら実習することができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. 実習する上で疑問に感じていることを指摘・発見することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. レシピを見て一人で作ることが出来るようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
5. 班員の協力または役割に応じた責任が不十分であり、グループ活動に積極的でない。【DP3：主体性、多様性、協働性】
6. ノートに全ての実習回・実習テストの内容を概ねまとめ提出できる。【DP1：知識・技能】

教科書

なし：毎回プリントを配布する。

参考書・資料

高橋節子、平尾和子編著：『調理学実習・実験－基礎から応用までー』 時事通信社（2021）購入済み
長尾慶子編：『調理を学ぶ（第3版）』 八千代出版（2021）￥2,592「調理学」で購入済
山崎清子・島田キミ江他共著『NEW調理と理論　第2版』　同文書院、2021　¥3,080

（資料）必要に応じて、プリントを配布する。

教科書以外にかかる費用(自己負担)

実習着（コックコート）、帽子、エプロン、上靴着用　1回目授業で説明

課題に対するフィードバック

課題プリントは添削後、各自に返却

履修上の注意・備考・メッセージ

・材料発注の都合で授業の順番が変更になる場合がある。
・実習着を着用する。
・授業開始前に身支度を整えて手洗いをしてから入室し、台の準備を行う。貴重品は責任をもって管理すること。
・欠席が事前にわかる場合、当日欠席する場合ともに連絡をすること。
・スマートフォン操作は実習結果撮影以外は原則禁止する。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
パティシエ実習Ⅰ （製菓製パン実習Ⅰ）	生活デザイン専攻	選択	1年 前学期	実習	1	米山 陽子	単独	7,9,12,15,16,

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	オリエンテーション	注意事項伝達、材料の取り扱い方、道具・オーブンの扱い方、スコーン	
	事前学習 10分	自分の家のオーブン・電動ミキサーを知る（メーカーおよび型番、全体を写真に記録してくる）	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。（初回授業で解説する）	
2	パータ・ジェノワーズ、生クリーム	スポンジ生地、共立て法：スポンジケーキ、生クリームの泡立て方	
	事前学習 10分	スポンジケーキの作り方を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。自分でスポンジ生地を作ってみる。	
3	パータビスキュイ、ゼラチン	スポンジ生地、別立て法：シフォンケーキ,卵白の泡立て ゼラチンの扱い方：オレンジゼリー	
	事前学習 10分	ゼラチンの使い方を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
4	パータ・ケック	バターケーキ生地：マフィン	
	事前学習 10分	バターケーキ生地の種類を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
5	パータ・シュー	シュークリーム、カスタードクリーム	
	事前学習 10分	シュークリームの作り方を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
6	パートシュクレ・サブレ	クッキー生地：絞りだし・型抜き・ラングドシャ・アイスボックス	
	事前学習 10分	クッキーの種類をしらべておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
7	パート・フィユテ	パイ生地：ラピッド法(リーフパイ・ジャムパイ)	
	事前学習 10分	パイ生地の種類を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
8	和菓子：あん、どら焼き	あんの作り方：粒あん、どら焼き	
	事前学習 10分	和菓子の種類を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
9	和菓子：もち生地	あんの作り方：こしあん、もち生地の扱い方：大福	
	事前学習 10分	餡について調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
10	チーズのお菓子・カラギーナン	チーズの扱い方：焼きチーズケーキ、 カラギーナンの扱い方：マンゴーゼリー	
	事前学習 10分	カラギーナンについて調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
11	チョコレート	チョコレートの扱い方,ブラウニー、	
	事前学習 10分	ココアとチョコレートの種類を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
12	寒天	寒天について、フルーツ羹，アイスボックスクッキー焼成	
	事前学習 10分	寒天について調べておく。ゼラチンとの違いは何か調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
13	和菓子：上生菓子	練りきり	
	事前学習 10分	練り切りについて調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
14	まとめ	学修成果確認のための試験（実技テスト）：スポンジケーキ	
	事前学習 10分	スポンジケーキを復習、練習しておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
パティシエ実習Ⅱ	生活デザイン専攻 食物栄養専攻	選択	2年 前学期	実習	1	森崎（もりさき） 繭香（まゆか）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
本科目は「パティシエ実習Ⅰ」で習得した基礎を土台とする、応用科目である。受講にあたっては、以下の条件を満たしている必要がある。 対象者:「パティシエ実習Ⅰ」の単位取得者、または調理師・製菓衛生師の免許を保有し、相応の基礎技術を有する者。 実技確認:第1回授業にて「スポンジケーキ(ジェノワーズ)」の実技試験を行い、現在の習得レベルを確認する。 受講の承認:本科目は高度な技術習得を目的とした上級クラスである。授業の質を維持し、かつ安全に実習を遂行するため、試験の結果、基礎技術が著しく不足していると判断された場合は、受講を承認しない。	フードコーディネーター1級の資格を有し、料理教室講師、パティシエを経て、フレンチ、イタリアンの厨房で経験を積み、独立。書籍・雑誌へのレシピ提供、テレビ・ラジオ出演など幅広く活動。「あんこのおやつ」、「焼かないケーキ」、「おうちおやつ」など、著書20冊以上手掛けた経験を有する教員より、高度な製菓技術を学ぶ。	6・7,9,12,15,16,17

授業の概要

製菓の材料の取り扱い方、混ぜ方や混合のタイミング、泡立て方などの基礎的な技術をもとに、さらに高度な製菓技術を用いた菓子を習得する。それぞれの製菓の特徴をより深く学ぶことで、一人で再現でき、自在に応用できる力を身につける。授業では一人一台、または二人一台で、計量から仕上げまでをおこなうことで、知識や技能のみならず、判断力や表現力を身につける。
授業スケジュールは材料手配の都合などにより前後することがある。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)実習レポート（40%）：毎回の実習成果（作品写真）と、それに対する自己分析（客観的評価）、改善策の記述。 (2)期末レポート（40%）：全11回を通じた技術の定着度と、応用知識に関する課題。 (3)授業態度（20%）： 準備、衛生管理、片付けの励行。	再評価は行わない

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

(1)実習に使用する食品材料の性質、加工特性を理解し、自分の言葉でわかりやすく説明できるようになる。【DP1:知識・技能】
(2)製菓に関する基礎知識と技術を身につける。失敗しないコツを学び、仕上がりの美しさに配慮しながら一人でオリジナリティのある菓子を作ることが出来るようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力】
(3)失敗してもあきらめずに原因を分析し、他者の優れた点や工夫を客観的に取り入れながら、制作過程を見直して再チャレンジできるようになる。PDCAを回すことで、根拠に基づいた技術向上と作品の改善を継続できる。
【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協調性】
(4)主体的に実習に取り組み、準備から片付けまで時間管理にも配慮し、効率よく作業を進められるよう段取りを工夫できるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協調性】

到達（成績評価A）目標

(1)実習に使用する食品材料の性質、加工特性を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。【DP1:知識・技能】
(2)製菓に関する基礎知識と技術を身につける。失敗しないコツを学び、仕上がりの美しさに配慮しながら一人で作ることが出来るようになる。【DP1:知識・技能】
(3)失敗しても、あきらめずに失敗の原因を分析し、仮説を立てながら制作過程を見直して再チャレンジできるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】
(4)主体的に実習に取り組み、準備から片付けまで効率よく作業を進められるよう段取りを工夫できるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協調性】(1)実習に使用する食品材料の性質、加工特性を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。【DP1:知識・技能】
(2)製菓に関する基礎知識と技術を身につける。失敗しないコツを学び、仕上がりの美しさに配慮しながら一人で作ることが出来るようになる。【DP1:知識・技能】
(3)失敗しても、あきらめずに失敗の原因を分析し、仮説を立てながら制作過程を見直して再チャレンジできるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】
(4)主体的に実習に取り組み、準備から片付けまで効率よく作業を進められるよう段取りを工夫できるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協調性】

到達（成績評価B）目標

(1)実習に使用する食品材料の性質、加工特性を理解できるようになる。【DP1:知識・技能】
(2)製菓に関する基礎知識と技術を身につける。失敗しないコツを学び、一人で作ることが出来るようになる。【DP1:知識・技能】
(3)失敗の原因を指摘されることで理解し、制作過程を見直すことができる。【DP2:思考力・判断力・表現力】
(4)主体的に実習に取り組み、効率よく作業を進められるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協調性】

単位取得（成績評価C）目標

(1)実習に使用する食品材料の性質、加工特性を概ね理解できるようになる。【DP1:知識・技能】
(2)製菓に関する基礎知識と技術を身につける。【DP1:知識・技能】
(3)失敗しても、あきらめずに最後まで制作できるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】
(4)主体的に実習に取り組めるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協調性】

教科書

なし

参考書・資料

毎回プリントを配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

材料費の徴収あり（詳細は授業内で説明する）

課題に対するフィードバック

課題は添削ののち、各自に返却（メールまたはSlackにてコメント）する。
授業冒頭で前回の共通課題を解説する。

履修上の注意・備考・メッセージ

①材料の発注の都合で授業内容の順番、内容を変更する場合がある。
②授業開始時間までに身支度を整えて入室し、実習の準備をおこなう。貴重品は責任を持って管理すること。
③配布プリントを整理し、ファイルに保管する。
④欠席が事前にわかる場合は欠席届を出し、当日欠席する場合は担当教員に連絡を入れる。
⑤毎回授業後、実習成果（作品写真）とそれに対する自己分析、改善策等をメールまたはSlackにて担当教員に送る。これを［実習レポート］とする。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
パティシエ実習Ⅱ	生活デザイン専攻 食物栄養専攻	選択	2年 前学期	実習	1	森崎　繭香	単独	6･7,9, 12,15,16,17

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	オリエンテーション／スポンジケーキ（スキルチェック）	注意事項伝達/製菓製パン実習Ⅰの復習：スポンジケーキ　（100分）　4月10日	
	事前学習 10分	スポンジケーキの作り方を調べておく。	
	事後学習 10分	実習内容をまとめる。（初回授業で解説する）	
2	チョコレートのお菓子	生チョコ、トリュフ　（200分）4月17日	
	事前学習 10分	生チョコ、トリュフの作り方を調べておく。	
	事後学習 10分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
3	フライパンで作れるケーキ	ミルクレープ　（200分）4月24日	
	事前学習 10分	ミルクレープの作り方を調べておく。	
	事後学習 10分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
4	ゼラチンを使ったケーキ❶	レアチーズケーキ／パイのタルト生地　（200分）5月8日	
	事前学習 10分	レアチーズケーキの作り方を調べておく。	
	事後学習 10分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
5	パイ生地を使ったタルト	アプリコットタルト／クッキーのタルト生地　（200分）5月15日	
	事前学習 10分	パイ生地を使ったタルトの作り方を調べておく。	
	事後学習 10分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
6	クッキー生地を使ったタルト	フルーツタルト　（200分）5月22日	
	事前学習 10分	クッキー生地を使ったタルトの作り方を調べておく。	
	事後学習 10分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
7	小さな焼菓子❶	フィナンシェ／ムースのスポンジ生地　（200分）5月29日	
	事前学習 10分	フィナンシェの作り方を調べておく。	
	事後学習 10分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
8	小さな焼菓子❷	レモンケーキ　（200分）6月12日	
	事前学習 10分	レモンケーキの作り方を調べておく。	
	事後学習 10分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
9	スポンジ生地（共立て）のデコレーション❶	ロールケーキ　　（200分）6月19日	
	事前学習 10分	ロールケーキの作り方を調べておく。	
	事後学習 10分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
10	スポンジ生地（共立て）のデコレーション❷	ショートケーキ　（200分）6月26日	
	事前学習 10分	ショートケーキの作り方を調べておく。	
	事後学習 10分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
11	ゼラチンを使ったケーキ❷	キャラメルムース　（200分）7月3日	
	事前学習 10分	ムースの作り方を調べておく。	
	事後学習 10分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
ベーカリー実習 （製菓製パン実習Ⅱ）	生活デザイン専攻 (FC)	選択	1年 後学期	実習	1	米山（よねやま） 陽子（ようこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	6・7,9,12,15,16,17

授業の概要

生活に関する専門的知識・技能を仕事や家庭での実践に活かす能力を習得するために、主に製パンの実習を基礎から理論と行う。製パン実習での素材の取り扱い方、こね方、発酵、焼成など、製パンのポイントをわかりやすく理論をもとに解説する。また種々のパンの特徴を学ぶ。習った項目の復習をし、1人で確実に作ることができるようにする。実技テストで確認をする。自分が作りたいパンを作る企画をたて、実行し発表する。
フードコーディネーター取得科目。

成績評価方法

①プリントのまとめ方(30%)、
②学修成果のための試験（実技テスト①②）50%
③平常点（学修意欲、履修態度、復習状況等）20%の総合評価。

再評価の成績評価方法

再試験　①5回以上提出済みの場合、未提出分の再評価を行う
再評価　①および②③の総合評価

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

1. 製菓実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製パンの基礎知識と技術を論理的に理解し習得し、それを応用して実践できる。ノートに内容をまとめ提出することができる。【DP1：知識・技能】
2. 安全・衛生面に配慮しながら、正確にスムーズに操作、行動ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. うまくいかないときに、原因を分析することができ、問題解決を論理的にできるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. 失敗することなくおいしく販売可能なパンを一人で作ることが、計画だてて出来るようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
5. 自分で作りたいパンを考え、販売するまでの計画を立て、発表することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
6. メンバーを尊重・協力しながら役割に応じた責任を果たし、実習を進めることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
7. ノートに全ての実習回・実習テストの内容を正確にまとめ、過程で生じた疑問点についてもまとめ提出できる。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価A）目標

1. パテシエ実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製菓の基礎知識と技術を習得し、それを応用して実践できる。ノートに内容をまとめ提出することができる。【DP1：知識・技能】
2. 安全・衛生面に配慮しながら、スムーズに操作、行動ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. うまくいかないときに、原因を分析することができ、問題解決できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. 失敗することなくおいしいパンを一人で作ることが、実行することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
5. 自分で作りたいパンを考え、販売するまでの企画を立て、発表することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
6. 役割に応じた責任を果たし、実習を進めることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
7. ノートに全ての実習回・実習テストの内容を正確にまとめ提出できる。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価B）目標

1. パテシエ実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製菓の基礎知識と技術を習得し、それを応用して実践できる。ノートに内容をまとめ提出することができる。【DP1：知識・技能】
2. 安全・衛生面に配慮しながら、スムーズに操作、行動ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. うまくいかないときに、原因を分析することができ、問題解決できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. 失敗することなくおいしいパンを一人で作ることが、実行することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
5. 自分で作りたいパンを考え、販売するまでの企画を立て、発表することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
6. 役割に応じた責任を果たし、実習を進めることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
7. ノートに全ての実習回・実習テストの内容を正確にまとめ提出できる。【DP1：知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

1. 製菓実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製パンの基礎知識と基礎的技術を実践できるようになる。【DP1：知識・技能】
2. サポートを得ながら、安全に実習することができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. 実習する上で疑問に感じていることを指摘・発見することができる。。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】
4. パンをレシピを見て一人で作ることが出来るようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
5. 班員との協力または役割に応じた責任が不十分であり、サポートを受けながら実習をすることができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
6. ノートに全ての実習回・実習テストの内容を概ねまとめ提出できる。【DP1：知識・技能】

教科書

日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2026 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店 (2026)¥3,520（購入済み）※1年生は2026、2年生は2025
授業内でプリントを配布

参考書・資料

長尾慶子編：『調理を学ぶ（第3版)』 八千代出版（2021）￥2,592「調理学」で購入済
山崎清子・島田キミ江他共著『NEW調理と理論　第2版』
竹谷 光司 著『新しい製パン基礎知識 再改訂版』パンニュース社（最新版）¥1980

教科書以外にかかる費用(自己負担)

実習着（コックコート、帽子、エプロン）初回授業で説明（ベーカリー実習で着用）
・課題作成時の基本材料以外は個人で準備・購入する

課題に対するフィードバック

課題プリントは添削後、各自に返却

履修上の注意・備考・メッセージ

・実習着を着用する
・材料発注の都合で授業の順番が変更になる場合がある。
・授業開始前に身支度を整えて手洗いをしてから入室し、台の準備を行う。貴重品は責任をもって管理すること。
・欠席が事前にわかる場合、当日欠席する場合ともに連絡をすること。
・スマートフォン操作は実習結果撮影以外は原則禁止する。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
ベーカリー実習 （製菓製パン実習Ⅱ）	生活デザイン専攻 (FC)	選択	1年 後学期	実習	1	米山 陽子	単独	6・7,9,12,15,16,17

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	オリエンテーション・掃除・実習	オリエンテーション・掃除・実習、（パン生地の扱い方）	
	事前学習 5分	パンの材料について調べておく	
	事後学習 15分	実習内容をまとめる(項目は初回授業で説明する)	
2	基本の生地	テーブルロール（3種）手ごね	
	事前学習 15分	パンの種類について調べておく	
	事後学習 30分	実習内容を作ってみる。うまく出来なかったところを記録しておく	
3	基本の生地　　ピザ	ピザ、フォカッチャ	
	事前学習 15分	パンの種類について調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
4	基本の生地【オーブンを使わず揚げる】	イーストドーナツ、カレーパン	
	事前学習 15分	揚げるパンの種類について調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
5	基本の生地　　包餡	アンパン、クリームパン	
	事前学習 15分	包餡の仕方、ポイントを調べる	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
6	基本の生地　　リッチなパン生地	シナモンロール	
	事前学習 15分	パン生地の種類について調べる	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
7	基本の生地　　発酵・焼成の違い	ベーグル　ケトリング　　焼成方法の違い	
	事前学習 15分	ベーグルの発酵・焼成について調べる。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
8	フランスパン生地	ミニバタール・ベーコンエピ　粉の種類について調べる	
	事前学習 15分	フランスパンの材料、他のパンとの違い、作り方を調べる	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
9	学修成果確認テスト	テーブルロールの実技テスト	
	事前学習 30分	実技テストの内容を練習する。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
10	飾りパン	メロンパン	
	事前学習 15分	菓子パンの種類を調べる。粉（全粒粉、ライ麦）について調べる	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
11	飾りパン	クリスマスのパン（大型パン）	
	事前学習 15分	成形の仕方の種類を調べる	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
12	パンの計画（課題）	自分のパンを考える	
	事前学習 15分	作る計画を立て準備する	
	事後学習 30分	計画表を作る	
13	パンの計画実践	パンの試作　ポップの作成、値段のつけ方	
	事前学習 15分	作る計画を立て準備する	
	事後学習 30分	作ってみて改善点をみつける。課題の練習行う。	
14	まとめ	学修成果確認のための試験（課題の作成と発表）　実習内容の振り返り	
	事前学習 15分	実技テストの内容を練習する。	
	事後学習 30分	実習テスト内容をレポートにまとめる。全体を振り返り不明点を解決しておく	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
調理学（生デ）	生活デザイン専攻(FC/RS)	卒業必修	1年 前学期	講義	2	平尾(ひらお) 和子(かずこ)	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	16

授業の概要

「生活に関する専門的知識・技能を仕事や家庭生活での実践できる人」になるためには、栄養性が豊かな食材や旬の食材を考慮して食事計画を立案し、衛生的な調理操作・調味操作を行い、嗜好を高めるように効果的に提供できるようにすることが必要である。本科目では、食事計画、おいしさの要因、食品の調理特性、調理・調味操作および調理器具・食器等についての基礎的な理論を学ぶことで、生活に関する専門的知識を得て、食に関わる仕事や家庭生活での実践に活かせるようになる。また、食文化を背景とした各国の食事様式や環境への配慮を理解することで、豊富な選択肢の中からおいしく持続可能な食事計画を立て、豊かな食生活を送ることができる。

成績評価方法

以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。
(1)定期試験（筆記試験）(70%)
(2)小テストの得点(10%)
(3)受講態度(20%)

再評価の成績評価方法

再試験は(1)を実施し、点数が更新される。
再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・調理の意義をすべて述べることができ、多くの環境への配慮方法を挙げ具体的に説明できる。【DP1：知識・技能】
・各種食品の調理特性の代表的なものすべてを、理論的に説明できる。【DP1：知識・技能】
・非加熱及び加熱操作とそれらの器具の原理・要点を理論的にほとんど説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・食品のおいしさの要因及びそれに関与する性質の主観的・客観的測定法をほとんど体系的に説明できる。【DP1：知識・技能】
・食事計画に関わることについて理論的に説明することができ、日常食の食事計画に繋げることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・多くの国の食文化や行事食などの特徴を説明することができる。【DP1：知識・技能】
・厨房設備、食器、容器、エネルギー源について、理論的に説明し、自分の意見を述べることができる。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価A）目標

・調理の意義をすべて述べることができ、1-2例の環境への配慮方法を具体的に説明できる。【DP1：知識・技能】
・各種食品の調理特性の代表的なもの2-3を、理論的に説明できる。【DP1：知識・技能】
・非加熱及び加熱操作とそれらの器具の原理・要点を理論的に説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・食品のおいしさの要因及びそれに関与する性質の主観的・客観的測定法をいくつか体系的に説明できる。【DP1：知識・技能】
・食事計画に関わることについて説明することができ、日常食の食事計画に繋げることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・代表的な国の食文化や行事食などの特徴を説明することができる。【DP1：知識・技能】
・厨房設備、食器、容器、エネルギー源について、理論的に説明することができる。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価B）目標

・調理の意義をいくつか述べることができ、1-2例の環境への配慮方法を具体的に説明できる。【DP1：知識・技能】
・各種食品の調理特性を概説できる。【DP1：知識・技能】
・非加熱及び加熱操作とそれらの器具の原理・要点を概説できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・食品のおいしさの要因及びそれに関与する性質の主観的・客観的測定法をいくつか説明できる。【DP1：知識・技能】
・食事計画に関わることについてまとめて説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・2-3の国の食文化や行事食などの特徴を説明することができる。【DP1：知識・技能】
・厨房設備、食器、容器、エネルギー源について、主要な内容を概説することができる。【DP1：知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

・調理の意義をいくつか述べることができ、環境への配慮方法が概説できる。【DP1：知識・技能】
・各種食品の調理特性を概説できる。【DP1：知識・技能】
・非加熱及び加熱操作とそれらの器具の原理・要点を理解でき、いくつかの調理例を挙げることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・食品のおいしさの要因及びそれに関与する性質の主観的・客観的測定法を2つ以上説明できる。【DP1：知識・技能】
・食事計画に関わることについて、いくつか説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・各国の食文化や行事食に関することをいくつか説明することができる。【DP1：知識・技能】
・厨房設備、食器、容器、エネルギー源について、略述することができる。【DP1：知識・技能】

教科書

・長尾慶子編：『調理を学ぶ（第4版)』 八千代出版（2025）￥2,750(著者割あり)
・日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本 2026』 柴田書店（2026）（購入済） ※1年生は2026、2年生は2025

参考書・資料

・必要に応じてプリントを配布する。
・日本ホテル・レストランサービス技能協会　監修：『西洋料理飲料接遇サービス技法(3級)』職業訓練教材研究会（2022）（履修者のみ購入）

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

・毎回の小テストなどの解答および説明は、その都度行う。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業進行上、講義項目の順番を変更する場合がある。
・授業中指示がない限り、私語やスマートフォンの操作を禁じる。
・授業中に講義内容が把握できたかどうか、毎回小テストで確認を行う。
・定期試験のための準備では、小テストの問題や授業中に指摘された所を確認するようにする。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
調理学（生デ）	生活デザイン専攻(FC/RS)	卒業必修	1年 前学期	講義	2	平尾 和子	単独	16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	調理の意義、調理と環境	調理学の意義・目的、環境問題と食生活	
	事前学習 15分	該当部分の教科書を読む。	
	事後学習 120分	調理における環境問題ではどのような点に配慮すべきか、また調理の意義・目的について復習する。次回小テストの準備	
2	植物性食品の調理特性 1	米、米粉、いも類	
	事前学習 60分	該当部分の教科書を読む。うるち米の炊飯過程を予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	米・米粉・いも類の調理特性 について復習する。次回小テストの準備	
3	植物性食品の調理特性　2	小麦粉、その他の穀類・雑穀	
	事前学習 60分	該当部分の教科書を読む。小麦粉の種類と調理法の予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	小麦粉、他の穀類・雑穀の調理特性について復習する。次回小テストの準備	
4	植物性食品の調理特性　3	豆・豆製品、野菜、果実	
	事前学習 60分	該当部分の教科書を読む。野菜・果実の調理特性について予習する。小テスト準備	
	事後学習 120分	豆・豆製品、野菜・果実の調理特性について復習する。次回小テストの準備	
5	植物性食品の調理特性　4	種実類、きのこ、藻類、山菜	
	事前学習 60分	該当部分の教科書を読む。藻類の種類について予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	種実類、きのこ、山菜の調理特性を復習する。次回小テストの準備	
6	動物性食品の調理特性　1	肉類	
	事前学習 60分	該当部分の教科書を読む。小テストの準備	
	事後学習 120分	肉類をやわらかく調理する方法について復習する。次回小テストの準備	
7	動物性食品の調理特性　2	魚介類	
	事前学習 60分	該当部分の教科書を読む。小テストの準備	
	事後学習 120分	魚介類の魚臭を取り除く方法について復習する。次回小テストの準備	
8	動物性食品の調理特性　3	卵類、乳・乳製品	
	事前学習 60分	該当部分の教科書を読む。鶏卵の調理特性について予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	卵類、乳・乳製品の調理特性について復習する。次回小テストの準備	
9	成分抽出素材の調理特性	でんぷん・ゼリー形成素材(寒天・カラギーナン他)、砂糖、油脂、嗜好飲料、うま味調味料など	
	事前学習 60分	該当部分の教科書を読む。でんぷん、油脂の調理特性について予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	各種ゲル化剤の調理特性について復習する。次回小テストの準備	
10	調理と嗜好性、調味操作	おいしさの要因、機器測定と官能評価、調味操作	
	事前学習 60分	該当部分の教科書を読む。小テストの準備	
	事後学習 120分	味の相互作用について復習する。次回小テストの準備	
11	調理操作と調理器具 1	非加熱操作・加熱操作	
	事前学習 60分	該当部分の教科書を読む。冷却・凍結、解凍について予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	非加熱操作、加熱操作にはどのようにものがあるか、復習する。次回小テストの準備	
12	調理操作と調理器具 2	加熱操作、加熱機器、食器、鍋	
	事前学習 60分	該当部分の教科書を読む。加熱操作について復習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	誘電加熱、誘導加熱、真空加熱、鍋、食器について復習する。次回小テストの準備	
13	食文化と食生活	日本と外国の食文化、行事食	
	事前学習 60分	該当部分の教科書を読む。小テストの準備	
	事後学習 120分	各時代の食文化、世界の食文化について復習する。次回小テストの準備	
14	食事計画/全体の振り返り	献立作成の条件・食事バランスガイド / 全体の振り返り	
	事前学習 20分	該当部分の教科書を読む。献立作成の手順について予習する。小テストの準備	
	事後学習 160分	食事摂取基準、食事バランスガイドなどを含む全体の内容を復習する。定期試験の準備	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
調理学実習	生活デザイン専攻(FC/RS)	選択	1年後学期	実習	1	米山（よねやま） 陽子（ようこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	6・7,9,15,1

授業の概要

調理理論に基づいた調理操作を科学的視野で学び、安全で衛生的に実習を行う。さまざまな調理素材、器具の特徴を理解し、素材の組み合わせや基本的な器具の扱い方を学ぶ。実習を通し、家庭調理の基本となる知識と技術を身につける。また伝統料理の意義や調理法を理解し、行事食の実習を行う。包丁技術を上達させるために、きゅうりの輪切りを5㎜以下に切ること、りんごの皮むきがきれいにできるようになる。到達度を評価するため、テーマに応じた献立の立案および実習を行い、その内容をレポートにまとめる。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
①実習ノート40% ②学修成果確認のための試験（実技テスト（包丁テスト・実習テスト・レポート））40% ③平常点（学習意欲、履修態度、予習復習状況等）20%の総合評価	再試験は⑴実習ノートが未完成の場合のみ再試験を行う.再試験を行う条件として、①の実習ノートを10回以上書いてあること②学習成果確認のための試験を終了していることとする。 再評価は再試験①の点数を②③に加えて総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

1.調理学で学んだ食品の調理性に関する理論を土台として基礎的な調理手法の要点を科学的に学び、調理操作と理論の結びつきを、論理的に理解して説明できる。【DP1：知識・技能】
2.様々な食材や調味材料の特徴、組み合わせ及び調理法を学び、効率的な調理・調味操作ができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3.日本・西洋・中国料理及び行事食の特徴を具体的に説明でき、日常の家庭調理における献立作成が総合的にできる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4.安全で衛生的な調理をするための総合的な知識を論理的に理解し、正確にスムーズにで実行できる。【DP1：知識・技能】
5.包丁テストに時間内に正確に合格することができる【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
6.班員を尊重・協力しながら役割に応じた責任を果たし、実習することができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
7.実習ノート・レポートに指定項目・内容の抜けがなく、実習と調理理論を結びつけて考えられている。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価A）目標

1.調理学で学んだ食品の調理性に関する理論を土台として基礎的な調理手法の要点を科学的に学び、調理操作と理論の結びつきを理解して説明できる。【DP1：知識・技能】
2.様々な食材や調味材料の特徴、組み合わせ及び調理法を学び、調理・調味操作ができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3.日本・西洋・中国料理及び行事食の特徴を説明でき、日常の家庭調理における献立作成ができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4.安全で衛生的な調理をするための知識を論理的に理解し、正確に実行できる。【DP1：知識・技能】
5.包丁テストに時間内に合格することができる【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
6.役割に応じた責任を果たし、実習することができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
7.実習ノート・レポートに指定項目・内容の抜けがなく、すべての実習回が具体的に列記できる【DP1：知識・技能】

到達（成績評価Ｂ）目標

1.調理学で学んだ食品の調理性に関する理論を土台として基礎的な調理手法の要点を科学的に学び、概ね理解して説明できる。【DP1：知識・技能】
2.様々な食材や調味材料の特徴、組み合わせ及び調理法を概ね把握し、調理・調味操作ができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3.日本・西洋・中国料理及び行事食の特徴を概ね把握し、日常の家庭調理における献立作成が概ねできる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4.安全で衛生的な調理をするための知識を概ね把握し、ゆっくりだが実行できる。【DP1：知識・技能】
5.包丁テストに合格することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
6.役割に応じた責任を概ね果たし、実習することができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
7.実習ノート・レポートに指定項目・内容の抜けがなく、すべての実習回が記載できる。【DP1：知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

1.調理学で学んだ食品の調理性に関する理論を土台として基礎的な調理手法について、概ね理解できる。【DP1：知識・技能　】
2.様々な食材や調味材料の特徴、組み合わせ及び調理法をサポートを得ながら、調理・調味操作ができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3.日本・西洋・中国料理及び行事食について概ね把握し、日常の家庭調理における調理がサポートを得ながらできる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4.安全で衛生的な調理をするためにサポートを得ながら実行できる。【DP1：知識・技能】
5.包丁テストに合格できるよう練習することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
6.班員との協力・役割に応じた責任が不十分ではあるが、サポートを得ながら進めることができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
7.実習ノート・レポートに指定項目について、すべての実習回のものを記載できる【DP1：知識・技能】

教科書

高橋節子、平尾和子編著：『新　調理学実習・実験－基礎から応用まで－』 時事通信社 ¥3,630(著者割りあり)
長尾慶子編：『調理を学ぶ（第3版)』 八千代出版 2021）￥2,640　「調理学」で購入済

参考書・資料

参考書：日本ホテル・レストランサービス技能協会監修:『西洋料理飲料接遇サービス技法』(4版）職業訓練教材研究会「レストランサービス論」で購入済
資　料：必要に応じてプリントを配布する

教科書以外にかかる費用(自己負担)

実習テストの際に、調味料以外の食材を各自で準備する。
コックコートもしくはエプロン・三角巾・上靴を着用して実習する

課題に対するフィードバック

提出物は添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・実習ノートは次の実習までに書き提出する1。
・材料発注の都合で授業の順番が変更になる場合がある。
・授業開始前に身支度を整えて手洗いをしてから入室し、台の準備を行う。貴重品は責任をもって管理すること。
・欠席が事前にわかる場合、当日欠席する場合ともに連絡をすること。
・スマートフォン操作は実習結果撮影以外は原則禁止する。
・包丁技術を上達させるために、普段から調理するように心がける

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
調理学実習	生活デザイン専攻(FC/RS)	選択	1年後学期	実習	1	米山 陽子	単独	6・7,9,15,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	オリエンテーション、計量・包丁操作、実習	オリエンテーション、計量と包丁の操作について、りんごの皮むき、ハムライス、スクランブルエッグ	
	事前学習10 分	シラバスを読んでくる。リンゴの皮むきの練習をしてくる。	
	事後学習30 分	ハムライス、スクランブルエッグの練習をし、実習内容をまとめる。できないところを記録する。	
2	中国料理①　中国料理について	麻婆豆腐　玉米湯	
	事前学習 分	教科書、中国料理について、該当する作り方を読んで予習してくる。調理法：炒める、スープ	
	事後学習 分	実習内容についてまとめる。実習の復習：自分の弁当を作る	
3	日本料理① 炊飯、出汁（かつお）の取り方 魚,・酢の物の調理	白飯、清汁、鯖の味噌煮、きゅうりの酢の物	
	分	教科書、炊飯の方法、出汁の取り方について読んでくる。胡瓜の輪切りの練習をしておく。	
	事後学習30 分	実習内容についてまとめる。実習の復習：出汁をとる	
4	日本料理② 味付け飯、魚・和え物調理	炊き込みご飯、鯵の塩焼き　味噌汁　青菜の胡麻和え	
	事前学習20 分	味付け飯、1匹魚の扱い方、青菜について調べてくる	
	事後学習30 分	実習内容についてまとめる。実習の復習：味付け飯を作る	
5	西洋料理① 麺類、ゼラチンの調理	スパゲティーミートソース、サラダ(温野菜)、ヨーグルトゼリー	
	事前学習20 分	麺の種類、ゼラチンについて調べてくる	
	事後学習30 分	実習内容についてまとめる。実習の復習：ゼラチンを使ってゼリーを作る	
6	西洋料理②出汁の取り方(野菜、肉など) 魚・野菜、ルウの調理①、	コンソメジュリエンヌ、鮭のムニエル（粉ふき芋、いんげんのソティ）	
	事前学習20 分	コンソメスープ、ムニエル、ベシャメルソース、粉ふき芋について調べてくる	
	事後学習30 分	実習内容についてまとめる。実習の復習：ムニエルを作る	
7	日本料理③ もち米、揚げ物調理、 乾物の扱い方	赤飯、天ぷら(天つゆ)、切り干し大根の煮物	
	事前学習20 分	餅米の料理や特徴、揚げ物調理、乾物の扱い方について調べてくる	
	事後学習30 分	実習内容についてまとめる。実習の復習：乾物を使った調理をする	
8	日本料理④ すし飯、卵・蒸し物調理	ちらし寿司（信田巻）　かきたま汁	
	事前学習20 分	すし飯、かきたま汁（澱粉を使ったとろみ）について調べてくる	
	事後学習30 分	実習内容についてまとめる。実習の復習：かきたま汁を作る	
9	西洋料理③ ひき肉、米、油脂、ルウの調理②	ハンバーグステーキ、ピラフ、マセドワーヌサラダ	
	事前学習20 分	ひき肉の調理、トマトソース、マヨネーズについて調べてくる	
	事後学習30 分	実習内容についてまとめる。実習の復習：ハンバーグステーキを作る	
10	西洋料理④ 煮込み調理	ポークシチュー、サラダ(ヴィネグレットソース)	
	事前学習20 分	肉の軟化方法、ドレッシングソースについて、卵の凝固性について調べてくる	
	事後学習30 分	実習内容についてまとめる。実習の復習：きゅうりの輪切りの練習をしサラダを造る	
11	行事食① クリスマス料理	若鶏の蒸し焼き、トマトサラダ、りんごの皮むきテスト	
	事前学習20 分	クリスマス料理について調べてくる。りんごの皮むきの練習をする	
	事後学習30 分	実習内容についてまとめる。実習の復習：りんごの皮むきの練習	
12	行事食② 正月料理	煎鶏、紅白なます、雑煮、※栗金団、田作り	
	事前学習20 分	自分の家の正月料理、雑煮について調べてくる	
	事後学習30 分	実習内容についてまとめる。実習テストの試作をする	
13	中国料理②　小麦粉、肉、貝類、寒天の調理	鍋貼餃子、蛤蜊湯、杏仁豆腐	
	事前学習20 分	中国料理、調理法：炒める、小麦粉の調理、貝類の扱い方について調べてくる	
	事後学習30 分	実習内容についてまとめる。実習の復習：炒飯をつくる	
14	全体の振り返りと試験	後期全体の学習内容を振り返り、学修成果の確認のための実習テスト。実技テスト（きゅうりテスト）を行う	
	事前学習30 分	実習テストの試作、きゅうりの輪切り、りんごの皮むきの練習をしておく	
	事後学習20 分	実習を振り返り、今後調理することにいかせるようにする	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
食品衛生学(生デ)	生活デザイン専攻(FC/RS)	選択	2年前学期	講義	2	三星(みつぼし) 沙織(さおり)	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	16

授業の概要

「生活に関する専門的知識・技能を仕事や家庭生活での実践に活かせるようになる」ために、本科目では、食品の安全性の現状と食品衛生の正しい知識、個人衛生と公衆衛生 、環境衛生、日常の食生活および飲食業界における飲食の衛生管理と疾病の予防方法について学ぶ。さらに、食品衛生に関する一般的な知識として、食中毒、寄生虫 ねずみ、ゴキブリ、はえ、化学物質等による食品汚染や腐敗、変敗、輸入食品、遺伝子組み換え食品、食品添加物やアレルギー食品及び調理器具の取扱、洗浄について学ぶ。フードコーディネート、レストランサービスなどの仕事や家庭生活での実践に活かすことができる。

成績評価方法

以下(1)～(4)の項目の総合評価とする。
(1)定期試験(筆記試験)(50%)
(2)小テスト(30%)
(3)課題(10%)
(4)受講態度(10%)

再評価の成績評価方法

再試験は(1)の筆記試験を実施し、点数が更新される。
再評価は(1)～(4)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・飲食物を介して人に悪影響を与えるものとは何か、具体例を挙げて自分の言葉で説明できる。【DP1：知識・技能】
・食品に関係する病原性微生物、化学物質、有害物質などによる健康被害を未然に防ぐ方法を具体的・科学的に説明できる。【DP1：知識・技能】
・日常生活における食の衛生管理を実践するための要点が説明でき、日常的に実践できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・フードコーディネートやレストランサービス等の業務に関連付けて食の衛生管理の要点が具体的に説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価A）目標

・飲食物を介して人に悪影響を与えるものとは何か、具体例を挙げて説明できる。【DP1：知識・技能】
・食品に関係する病原性微生物、化学物質、有害物質などによる健康被害を未然に防ぐ方法を具体的に説明できる。【DP1：知識・技能】
・日常生活における食の衛生管理を実践するための要点が説明でき、いくつかを実践できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・フードコーディネートやレストランサービス等の業務に関連付けて食の衛生管理の要点が説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価B）目標

・飲食物を介して人に悪影響を与えるものとは何か具体例を挙げて説明できる。【DP1：知識・技能】
・食品に関係する病原性微生物、化学物質、有害物質などによる健康被害を未然に防ぐ方法を説明できる。【DP1：知識・技能】
・日常生活における食の衛生管理を実践するための要点が説明でき、一つ以上実践できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・フードコーディネートやレストランサービス等の業務に関連付けて食の衛生管理について説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

単位取得（成績評価C）目標

・飲食物を介して人に悪影響を与えるものとは何か概説できる。【DP1：知識・技能】
・食品に関係する病原性微生物、化学物質、有害物質などによる健康被害を未然に防ぐ方法を概説できる。【DP1：知識・技能】
・日常生活における食の衛生管理を実践するための要点が概説でき、一つ以上実践できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・フードコーディネートやレストランサービス等の業務に関連付けて食の衛生管理の要点が概説できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

教科書

小塚諭編著：『イラスト 食品の安全性 〈第4版〉』東京教学社(2024)￥2,750
日本ﾌｰﾄﾞｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ協会編：『新・フードコーディネーター教本2025』 柴田書店 (2025) (FC科目履修者購入済)
必要に応じて適宜補足資料を配布する

参考書・資料

参考書　、日本ホテル・レストランサービス技能協会監修：『西洋料理 料飲接遇サービス技法 3版』職業訓練教材研究会 (2022) (RS科目履修者購入済)

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

小テストは採点後、解説・返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業中の私語やスマートフォン操作を禁じる。
・授業の進捗状況によってはスケジュールを変更することがある

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
食品衛生学(生デ)	生活デザイン専攻(FC/RS)	選択	2年前学期	講義	2	三星　沙織	単独	16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	食品衛生学と目的	我が国の食品衛生の現状、個人衛生と公衆衛生、法規	
	事前学習 10分	シラバスと教科書p. 1～22を読んでくる。	
	事後学習 30分	食品衛生とは何か、確認してノートにまとめる。	
2	食品の変質	微生物について、食品の腐敗、油脂の酸化、調理による変化	
	事前学習 10分	教科書p. 25～40を読んでくる。	
	事後学習 30分	食品の変質防止法を意識的に日常生活に取り入れるようにする。	
3	食中毒について1	食中毒の定義・分類・発生状況	
	事前学習 10分	教科書p. 44～50 を読んでくる。	
	事後学習 30分	食中毒の定義と病因物質別の分類を覚える。	
4	食中毒について2	細菌性食中毒	
	事前学習 30分	教科書p. 67～86を読んでくる。細菌が原因でおこる食中毒の事例を調べてくる。	
	事後学習 40分	細菌性食中毒のタイプと原因菌、主な原因食品、症状等を整理しておく。	
5	食中毒について3	ウイルス性食中毒	
	事前学習 30分	教科書p. 86～97を読んでくる。ウイルスが原因でおこる食中毒の事例を調べてくる。	
	事後学習 30分	ウイルス性食中毒のタイプと原因ウイルス、主な原因食品、症状等を整理しておく。	
6	食中毒について4	自然毒・化学性食中毒	
	事前学習 30分	教科書p. 50～65を読んでくる。自然毒が原因でおこる食中毒の事例を調べてくる。	
	事後学習 30分	自然毒、化学毒による食中毒の原因物質、主な原因食品、症状等を整理しておく。	
7	食中毒について5、食品による感染症	寄生虫、消化器系感染症	
	事前学習 30分	教科書ｐ.63～ｐ74を読んでくる。寄生虫、ねずみ、ゴキブリ、はえが原因でおこる食中毒の事例を調べてくる。	
	事後学習 40分	寄生虫による食中毒の原因物質、主な原因食品、症状等を整理しておく。	
8	食品衛生管理	一般衛生管理、HACCAPシステム、厨房の設計・図面・厨房計画、家庭における衛生管理	
	事前学習 15分	教科書p. 122～140を読んでくる。	
	事後学習 40分	家庭における衛生管理について意識して実践してみる。	
9	食品汚染1	カビ毒・農薬・抗生剤・抗菌剤・内分泌かく乱物質・容器・洗剤	
	事前学習 10分	教科書p. 143～155、174～185を読んでくる。	
	事後学習 30分	教科書、配布資料を参考にしながら内容を整理しておく。	
10	食品汚染2	ダイオキシン・有害金属・異物混入・害虫・放射線物質	
	事前学習 10分	教科書p. 156～170、p. 227～229を読んでくる。	
	事後学習 30分	教科書、配布資料を参考にしながら内容を整理しておく。	
11	食品添加物について	食品添加物の目的	
	事前学習 10分	教科書ｐ.187～196を読んでくる。	
	事後学習 30分	添加物のメリットデメリットについて考える。	
12	食品添加物と食品表示	おもな食品添加物、表示の読み方	
	事前学習 10分	教科書p. 196～214を読んでくる。身の回りの食品に添加されている食品添加物にはどのようなものがあるか5つ探してくる。	
	事後学習 20分	事前学習で見つけた添加物の添加目的と表示を確認する。	
13	食品の表示	食品表示制度、健康や栄養に関する表示の制度、アレルギー物質	
	事前学習 10分	教科書p. 231～250を読んでくる。特定保健用食品や遺伝子組み換え食品の表示がある食品にはどのようなものがあるか探してみる。	
	事後学習 30分	提示する資料を基に、身の回りの食品について、表示を確認する。	
14	厨房設備・まとめ	厨房設備の実際、まとめ	
	事前学習 30分	厨房設備にはどんなものがあるか関連することを2つ調べてくる。	
	事後学習 270分	定期試験に向けて、これまでの学習内容を振り返り、食品衛生・食品の安全性確保に関する内容がわかるようにする。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
食文化論	生デ専攻(FC/RS) 食栄専攻(FC)	選択	1年 前学期	講義	2	米山（よねやま） 陽子（ようこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	16

授業の概要

フードコーディネート3級・レストランサービス技能士3級養成課程の規定科目である。
食生活に関する専門的知識を仕事や家庭生活での実践に活かせるようになるために、本科目では食文化の基本的な考え方を学ぶ。食をコーディネートするには、食に関する文化的要素も欠かすことが出来ない。食は単に生命維持のためだけでなく、食事が文化的、社会的な役割を担うことを理解する。食の歴史、文化、風土について日本だけでなく世界の国々の食文化を学ぶ。自分で1つテーマを決めてプレゼンテーションを行う。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
①定期試験（筆記試験）40% ②学修成果のための試験（小テスト、プレゼンテーション）40%, ③受講態度・取組み姿勢 20% の総合評価とする	再試験は①の筆記試験を実施し、点数が更新される。 再評価①～③の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

1.食の歴史、文化、風土について日本だけでなく世界の国々の食文化を論理的に理解し、自分の表現で説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.食文化についての知識を実生活に活用し、食品や料理を食文化と結びつけて総合的に説明することができ、食生活を豊かにすることに結びつけができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
3.世界各地の食事のマナー、宗教的タブーの知識を身につけ、特徴を具体的に説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
4. プレゼンテーションを課題を十分理解し、テーマを選んだ理由、背景が明確であり、調査内容が十分にまとめて発表ができている。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
5.レストランサービス技能検定過去問題（該当箇所）を間違えずに解答することができる【DP1：知識・技能】

到達（成績評価A）目標

1.食の歴史、文化、風土について日本だけでなく世界の国々の食文化を総合的に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.食文化についての知識を実生活に活用し、食品や料理を食文化と結びつけて総合的に説明することができ、食生活を豊かにすることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
3.世界各地の食事のマナー、宗教的タブーの知識を身につけ、特徴を説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
4.プレゼンテーションを課題を理解し、テーマを選んだ理由、背景が明確であり、調査内容をまとめて発表ができている。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
5.レストランサービス技能検定過去問題（該当箇所）に80%間違えずに解答することができる【DP1：知識・技能】

到達（成績評価B）目標

1.食の歴史、文化、風土について日本だけでなく世界の国々の食文化を説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.食文化についての知識を実生活に活用し、食品や料理を食文化と結びつけて説明することができ、食生活を豊かにすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
3.世界各地の食事のマナー、宗教的タブーの知識を身につけ、説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
4.プレゼンテーションを課題を理解し、テーマを選んだ理由、背景が明確であるが、調査内容が不十分であるが発表ができている。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
5.レストランサービス技能検定過去問題（該当箇所）に70%間違えずに解答することができる【DP1：知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

1.食の歴史、文化、風土について日本だけでなく世界の国々の食文化の基本的事項について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.食文化についての知識を実生活に活用し、食品や料理を食文化と結びつけて基本的事項について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
3.世界各地の食事のマナー、宗教的タブーの知識を身につけ、基本的事項について説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. プレゼンテーションの課題を十分理解せず、テーマを選んだ理由、背景が不十分であり、発表内容が十分ではない。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

教科書

日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2026 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店（2026)¥3,520 （購入済み）※1年生は2026、2年生は2025
授業内でプリントを配布

参考書・資料

※RS取得希望者のみ　日本ホテル・レストランサービス技能協会　監修：『西洋料理飲料接遇サービス技法(4版）』 職業訓練教材研究会（2026）（購入済み）

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

小テストは確認後返却する

履修上の注意・備考・メッセージ

1.単元ごとに小テストを行う
2.授業中のスマートフォン操作を禁ずる
3.私語厳禁

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
食文化論	生デ専攻(FC/RS) 食栄専攻(FC)	選択	1年 前学期	講義	2	米山 陽子	単独	16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	食文化とは何か	食文化とは何か	
	事前学習 ５分	食文化とは何か調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
2	日本食文化の歴史①	古代から室町時代まで	
	事前学習 20分	室町時代がどのような時代だったか理解しておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
3	日本食文化の歴史2	安土桃山時代から現代まで	
	事前学習 20分	安土桃山時代から現代がどのような時代だったか理解しておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
4	西洋料理の食文化①	西洋料理の食文化	
	事前学習 20分	西洋料理の食文化について調べる	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
5	西洋料理の食文化②	西洋料理の食文化	
	事前学習 20分	西洋料理の食文化について調べる	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
6	中国の食文化の歴史	中国の食文化についてしらべておく	
	事前学習 20分	自分の知っている中国料理について調べてみる	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
7	中国の食文化	中国料理の特徴、各地域の料理の特徴nado	
	事前学習 20分	自分の知っている中国料理について,まとめておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
8	日本料理①	行事食	
	事前学習 20分	行事食について調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
9	日本料理②	本膳料理　　懐石料理　　会席料理	
	事前学習 20分	教科書、日本料理について調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
10	日本料理③	精進料理　卓袱料理　　普茶料理　袱紗料理	
	事前学習 20分	教科書、日本料理について調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
11	色々な外国の食事	世界各地の食文化を学ぶ　　食のタブー	
	事前学習 20分	世界各地の食文化を学ぶ　　食のタブー	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
12	食環境の現状	国際化の中の食事形態の多様性からみる食文化の現状	
	事前学習 20分	食についての現状、ニュースを調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
13	和菓子・洋菓子・パンの歴史	洋菓子・パンの歴史を学ぶ。発表のテーマをリサーチし、発表の準備をする	
	事前学習 20分	興味のあるお菓子について、背景を調べてみる。	
	事後学習 20分	発表の準備をする	
14	発表　授業の振り返り	授業のまとめ、学修成果のための試験（プレゼンテーション）、レポートにまとめ発表する	
	事前学習 20分	発表パワーポイント、レポート作成	
	事後学習 20分	全体を振り返り、疑問点を解決しておく。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
フードデザイン・マネジメント論	生デ専攻(FC/RS) 食栄専攻(FC)	選択	1年 後学期	講義	2	米山（よねやま） 陽子（ようこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	16

授業の概要

フードコーディネート3級・レストランサービス技能士3級養成課程の規定科目である。
豊かで持続可能な食生活をデザインし、適切な食生活を提案できるようになるための科目である。フードサービスビジネスに必要な食空間と内装デザインや施設管理、現代の食事形態と食市場を学び、フードマネジメントの基本を飲食店の経営にフォーカスし、マーケティングや計数管理についての基礎的知識や手法を学習する。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
①定期試験（筆記試験）(50%) ②小テスト（30%） ③平常点（学習意欲・履修態度等）(20%)の総合評価	再試験は①の筆記試験を実施し、点数が更新される。 再評価①～③の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

1.経営的立場に立って、フードサービス事業の立ち上げから運営までのマネジメントを総合的に理解することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.施設管理の知識を総合的に理解し説明できる。【DP1：知識・技能】
3.食空間のデザイン、空間プランニングを総合的に説明できる。【DP1：知識・技能】
4.マーケティングや計数管理についての基礎的知識や手法を論理的に理解し、説明できる。
5.レストランサービス技能検定過去問題（該当箇所）を90%間違えずに解答できる【DP1：知識・技能】
6.フードコーディネーター3級過去問題を間違えずに解答できる。【　DP1：知識・技能】

到達（成績評価A）目標

1.経営的立場に立って、フードサービス事業の立ち上げから運営までのマネジメントを理解することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.施設管理の知識を理解し説明できる。【DP1：知識・技能】
3.食空間のデザイン、空間プランニングを説明できる。【DP1：知識・技能】
4.マーケティングや計数管理についての基礎的知識や手法を理解し、説明することができる。
5.レストランサービス技能検定過去問題（該当箇所）を80%間違えずに解答することができる【DP1：知識・技能】
6.フードコーディネーター3級過去問題を間違えずに解答することができる。【　DP1：知識・技能】

到達（成績評価B）目標

1.経営的立場に立って、フードサービス事業について概ね説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.施設管理の知識を概ね説明できる。【DP1：知識・技能】
3.食空間のデザイン、空間プランニングを概ね説明できる。【DP1：知識・技能】
4.マーケティングや計数管理についての基礎的知識を概ね説明することができる。
5.レストランサービス技能検定過去問題（該当箇所）を70%間違えずに解答することができる【DP1：知識・技能】
6.フードコーディネーター3級過去問題を70%間違えずに解答することができる。【　DP1：知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

1.経営的立場に立ってのフードサービス事業について論理的な理解は乏しいが、関連する用語は述べられる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.施設管理の基本的知識について関連する用語は述べられる。【DP1：知識・技能】
3.食空間のデザイン、空間プランニングの関連する用語は述べられる。【DP1：知識・技能】
4.フードコーディネーター３級の過去問題の該当箇所を解答することができる。　【DP1：知識・技能】

教科書

日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2026 3級資格認定試験対応テキスト』 柴田書店 (2026)¥3,520（購入済み）※1年生は2026、2年生は2025

参考書・資料

※RS資格取得希望者のみ　日本ホテル・レストランサービス技能協会　監修：『西洋料理 飲料接遇サービス技法(4版)』 職業訓練教材研究会 (2026)（レストランサービス論購入済み)
※必用に応じてプリントを配布する

教科書以外にかかる費用(自己負担)

なし

課題に対するフィードバック

小テストは添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

1.単元ごとに小テストを行う
2.教員の指示なしでのスマートフォン操作を禁ずる（許可時以外の電卓、検索機能及び記録のための撮影機能は不可）
3.私語厳禁

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
フードデザイン・マネジメント論	生デ専攻(FC/RS) 食栄専攻(FC)	選択	1年 後学期	講義	2	米山 陽子	単独	16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	食空間のあり方	食空間とは、食空間の分類、家庭の食空間	
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 15分	授業の復習をノートにまとめておく	
2	食空間と内装デザイン（１）	食空間の意義、外食産業の歴史に見る食空間の歴史	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる	
	事後学習 30分	食空間についてノートにまとめ、復習しておく教科書を読んでくる	
3	食空間と内装デザイン（２）	今後の食空間、レストランの空間の設計実務	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	
4	食空間と内装デザイン（3）	レストランの空間の設計実務、防災、施設の維持管理	
	事前学習 15分	教科書該当箇所を読んでくる	
	事後学習 30分	施設の知識をまとめ、わからないところ等をまとめておく	
5	苦情対応と遺失物の取扱い（1）	料飲サービスにおける不満・苦情　　好ましくないお客への対応	
	事前学習 15分	苦情対応についてい調べておく	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	
6	苦情対応と遺失物の取扱い（2）	遺失物の取扱い	
	事前学習 15分	遺失物の取扱いについて調べておく	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	
7	フード・マネジメント（1）	フードコーディネーターとフードマネージメント、現代の食事形態と食市場	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	
8	フード・マネジメント（2）	内食と内食市場の動向、中食と中食市場の動向、外食と外食市場の動向	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる	
	事後学習 30分	内食、中食、外食についてまとめておく	
9	フード・マネジメント（3）	食市場全体、飲食業の特性	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	
10	フード・マネジメント（4）	マーケティングの基礎知識	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	
11	フード・マネジメント（5）	経営の基礎知識、業態開発と出店計画	
	事前学習 15分	教科書を読み、課題の内容を考える	
	事後学習 30分	授業の復習し、自分の出店計画を考え、レポートにまとめておく	
12	フード・マネジメント（6）	経営の計数管理	
	事前学習 15分	教科書を読み、課題の内容を考える	
	事後学習 30分	授業の復習し、自分の出店にかかわる事業計画を考えレポートにまとめておく	
13	フード・マネジメント（7）	開店業務と販売促進	
	事前学習 15分	教科書を読み、課題の内容を考える	
	事後学習 30分	授業の復習し、自分の出店にかかわる開店業務と販売促進を考えレポートにまとめておく。発表用パワーポイントの作成をする	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果の確認	
	事前学習 15分	全体の学習内容を振り返り、学修成果の発表を行う	
	事後学習 30分	全体を見直し、学修成果を定着させる。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
フードプランニング論	生活デザイン専攻 食物栄養専攻	選択	2年 前学期	講義	2	森崎（もりさき） 繭香（まゆか）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	フードコーディネーター1級の資格を有し、料理教室講師、パティシエを経て、フレンチ、イタリアンの厨房で経験を積み、独立。書籍・雑誌へのレシピ提供、テレビ・ラジオ出演など幅広く活動。「あんこのおやつ」、「焼かないケーキ」、「おうちおやつ」など、著書20冊以上手掛けた経験を有する教員より、フードプランニングについて学ぶ。	3,6・7,16

授業の概要

レストランサービスやフードプランニングに不可欠な基礎知識を体系的に修得し、それらを企画として具現化するためのスキルを学ぶ。将来、レストラン経営、ケータリング、商品開発などの現場で必要とされる「伝える力」と「形にする力」を養うことを目的とする。ケーススタディを通じて、「食」に関するさまざまなシーンにおける複雑な条件を調整し、他者にその魅力を論理的に伝えるためのプランニングシートを作成する。実習等で培った感性を、ビジネスやサービスに活用するための「思考の言語化」を重点的に行う。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)期末レポート（40%）：講義全体の集大成として作成する総合企画書。最終回でのプレゼンテーションへの取り組みも含む。 (2)授業内課題（40%）：授業内レポート、ケーススタディの提出内容。 (3)授業態度（20%）：ワークショップや議論への積極的な参加意欲	再評価は行わない

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

C

到達（成績評価S）目標

・フードプランニングに必要な知識を深く理解し、その歴史的背景や根拠を含めて他者に分かりやすく解説できる。【DP1：知識・技能】
・ケーススタディにおいて、提示された条件を的確に調整し、独自の創意工夫と説得力のある根拠を盛り込んだ実効性の高いプランニングシートを完成させることができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
・自らの企画に対し、プロの視点から客観的な自己分析を行い、論理的なプレゼンテーションができる。また、他者の意見を柔軟に取り入れ、企画の質を向上させることができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協調性】
・ワークショップや議論にリーダーシップを持って積極的に参画し、クラス全体の学びを深めるような受講姿勢を維持できる。【DP3：主体性・多様性・協調性】

到達（成績評価A）目標

・フードプランニングに関する基本的な知識を習得し、自らの言葉で説明できる。【DP1：知識・技能】
・ケーススタディにおいて、提示された条件を的確に調整し、必要な条件を満たした上で、自分の考えを反映させた内容のプランニングシートを期限内に作成できる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
・自らの企画の意図を明確に言語化し、他者に伝えることができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
・ワークショップや議論に主体的に取り組み、周囲と協力しながら課題を遂行できる。【DP3：主体性・多様性・協調性】

到達（成績評価B）目標

・フードプランニングにおいて、講義で扱った基本的な専門用語や概念を理解し、適切に用いることができる。【DP1：知識・技能】
・ケーススタディにおいて、基本的な企画書の構成に従い、指示された内容をまとめたシートを作成できる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
・自らの企画について、概ね論理的な文章で企画内容を記述し、提出できる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
・ワークショップや議論に参加し、真摯な態度で受講できる。【DP3：主体性・多様性・協調性】

単位取得（成績評価C）目標

・フードプランニングに関する最低限の知識を習得している。【DP1：知識・技能】
・ケーススタディにおいて、基本的な項目を埋め、最低限の内容が記述されたシートを提出できる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
・指定された形式に従って、企画内容を文章にまとめることができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】
・講義を継続的に受講し、期限内に指定されたフォーマットで課題を提出できる。【DP3：主体性・多様性・協調性】

教科書

以下2冊を参考書とするが、購入は必須ではない。
①日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2026 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店（2025）￥3,520
②日本ホテル・レストランサービス技能協会　監修：『西洋料理料飲接遇サービス技法 4版』　職業訓練教材研究会（2025）　￥4,840

参考書・資料

必要に応じてプリントを配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題は各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

①授業内容の順番、内容を変更する場合がある。
②欠席が事前にわかる場合は欠席届を出し、当日欠席する場合は担当教員に連絡を入れる。
③授業中の私語を禁ずる（スマートフォンを活用する場合は指示する）。
④他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
フードプランニング論	生活デザイン専攻 食物栄養専攻	選択	2年 前学期	講義	2	森崎 繭香	単独	3,6・7,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	オリエンテーション／教科書② 第1章 第5節：メニュー	注意事項伝達/プランニングの世界:実際の仕事内容／メニューの歴史、作成、構成	
	事前学習 10分	教科書②P. 62～P. 73を読んでおく	
	事後学習 10分	授業の復習	
2	教科書② 第1章 第5節：メニュー	メニューの歴史、作成、構成	
	事前学習 10分	教科書②P. 62～P. 73を読んでおく	
	事後学習 10分	授業の復習	
3	教科書② 第3章 第12節:食事の国際習慣	プロトコールについて(1)	
	事前学習 10分	教科書②P. 148～P. 156を読んでおく	
	事後学習 10分	授業の復習	
4	教科書② 第3章 第12節:食事の国際習慣	プロトコールについて(2)	
	事前学習 10分	教科書②P. 148～P. 156を読んでおく	
	事後学習 10分	授業の復習	
5	教科書① 12章:メニュープランニング	第1～4節	
	事前学習 10分	教科書① P. 280～P. 284を読んでおく	
	事後学習 10分	授業の復習	
6	教科書① 12章:メニュープランニング	第5～7節	
	事前学習 10分	教科書① P. 284～P. 286を読んでおく	
	事後学習 10分	授業の復習	
7	教科書① 12章:メニュープランニング	プランニングシート作成(1)	
	事前学習 10分	教科書① 12章を復習しておく	
	事後学習 10分	授業の復習	
8	教科書① 12章:メニュープランニング	プランニングシート作成(2)	
	事前学習 10分	教科書① 12章を復習しておく	
	事後学習 10分	授業の復習	
9	教科書① 12章:メニュープランニング	プランニングシート作成(3)	
	事前学習 10分	教科書① 12章を復習しておく	
	事後学習 10分	授業の復習	
10	教科書①13章:食の企画・構成・演出の流れ	第1～2節	
	事前学習 10分	教科書① P. 288～P. 293を読んでおく	
	事後学習 10分	授業の復習	
11	教科書①13章:食の企画・構成・演出の流れ	第3～6節	
	事前学習 10分	教科書① P. 294～P. 299を読んでおく	
	事後学習 10分	授業の復習	
12	教科書①13章:食の企画・構成・演出の流れ	期末レポート（企画書）作成(1)：全体構成とターゲット選定	
	事前学習 10分	今までの復習をしておく	
	事後学習 10分	授業の復習	
13	教科書①13章:食の企画・構成・演出の流れ	期末レポート（企画書）作成(2)：内容のブラッシュアップと仕上げ	
	事前学習 10分	今までの復習をしておく	
	事後学習 10分	授業の復習	
14	まとめ	最終プレゼンテーションおよび全体の振り返り	
	事前学習 10分	今までの復習をしておく	
	事後学習 なし	授業の復習	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
フードコーディネート実習	生デ専攻(FC/RS) 食栄専攻(FC)	選択	2年 前学期	実習	1	真島（まじま） 久美（くみ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	ホテル・レストランでのサービスマン、シニアソムリエ、バリスタ、3級レストランサービス技能士、フードコーディネーター3級	3,6・7,9,16

授業の概要

フードコーディネーター３級資格取得に必要な基礎知識を習得していきます。コーディネートのための資料収集の仕方、プレゼンテーションについて考察し、実践していきます。合わせて、レストランサービスに必要な知識やマナーについて学び、サービス技能士として基本的な接客ができるよう知識と技能を身につけていきます。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
授業内課題・レポート（60%） 授業の取り組み姿勢（40%）の総合評価	再評価は行わない

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

1.フードコーディネーターとして必要な食空間とテーブルコーディネートを総合的に結びつけて考え、他者にわかりやすく自身の表現で説明できる。テーブルマナーとサービスについて積極的に学び、様々な状況や場面を充分に考慮し、主体的に実践できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2.レストランサービス技能士として必要なサービスとマナーについて積極的に学び、正しい接客を身につけ、主体的にかつ率先し業務に携わることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
3.フードコーディネートやレストランサービスを通じ、食についてより一層興味を深め、周囲と協力しながらグループワークを率先して進めることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

1.フードコーディネーターとして必要な食空間とテーブルコーディネートを総合的に結びつけて考え、他者に説明することができる。テーブルマナーとサービスについて学び、様々な状況や場面を考慮し、実践できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2.レストランサービス技能士として必要なサービスとマナーについて学び、正しい接客を身につけ、主体的に業務に携わることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
3.フードコーディネートやレストランサービスを通じ、食についてより一層興味を深め、周囲と協力しながらグループワークを進めることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

1.フードコーディネーターとして必要な食空間とテーブルコーディネートについて理解し、概ね説明することができる。テーブルマナーとサービスについて学び、状況や場面を考慮し、概ね実践できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2.レストランサービス技能士として必要なサービスとマナーについて学び、正しい接客を身につけ、概ね業務に携わることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
3,フードコーディネートやレストランサービスを通じ、食について一層興味を深め、グループワークを概ね進めることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

1.フードコーディネーターとして必要な食空間とテーブルコーディネートについて概ね理解し、説明することができるようになる。テーブルマナーとサービスについて学び、状況や場面を考慮し、概ね実践できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2.レストランサービス技能士として必要なサービスとマナーについて学び、正しい接客を身につけ、業務に携わろうという心構えができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
3.フードコーディネートやレストランサービスを通じ、食について興味を深め、グループワークに参加できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

日本フードコーディネーター協会 『2026 新・フードコーディネーター教本 3級資格認定試験対応テキスト』　柴田書店
3,520円（本体価格3,200+税）　※1年生は2026、2年生は2025

参考書・資料

『3級レストランサービス技能検定実技試験　課題と解説ＤＶＤ』監修：日本ホテル・レストランサービス技能協会 ¥5,500

教科書以外にかかる費用(自己負担)

白手袋、テープのり

課題に対するフィードバック

課題は添削の後、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

1.授業中のスマートフォン操作は指定するときのみとする。（電卓、検索機能及び記録のための撮影機能は可とする。）
2.私語は慎しむ。
3.授業の順番、内容が進行により変わることがある。
4.授業は200分/2コマ。
5.他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
フードコーディネート実習	生デ専攻(FC/RS) 食栄専攻(FC)	選択	2年 前学期	実習	1	真島 久美	単独	3,6・7,9,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	第７章：食空間のあり方	食空間とは / 食空間の分類 / 家庭の食空間	
	事前学習 15分	シラバスを読んでおく。教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
2	第１０章：テーブルマナーとサービス①	マナーの基本/西洋料理・日本料理・中華料理/席次、パーティー/サービス実習	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
3	第１０章：テーブルマナーとサービス②	マナーの基本/西洋料理・日本料理・中華料理/席次、パーティー/サービス実習	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
4	第１０章：テーブルマナーとサービス③	マナーの基本/西洋料理・日本料理・中華料理/席次、パーティー/サービス実習	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
5	第９章：食空間とテーブルコーディネート①	食空間の構成～テーブルセッティングの基本～（洋・和・中）カラー・器・デザインなど	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
6	第９章：食空間とテーブルコーディネート②	食空間の構成～テーブルセッティングの基本～（洋・和・中）カラー・器・デザインなど	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
7	第９章：食空間とテーブルコーディネート③	食空間の構成～テーブルセッティングの基本～（洋・和・中）カラー・器・デザインなど	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
8	第９章：食空間とテーブルコーディネート④	食空間の構成～テーブルセッティングの基本～（洋・和・中）カラー・器・デザインなど	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
9	第９章：食空間とテーブルコーディネート⑤	食空間の構成～テーブルセッティングの基本～（洋・和・中）カラー・器・デザインなど	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
10	第９章：食空間とテーブルコーディネート⑥	テーブルコーディネート企画と実習　企画立案	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
11	第９章：食空間とテーブルコーディネート⑦	テーブルコーディネート企画と実習　企画書・資料作成/プレゼン準備	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
12	第９章：食空間とテーブルコーディネート⑧	テーブルコーディネート企画と実習　企画書・資料作成/プレゼン準備	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
13	第９章：食空間とテーブルコーディネート⑨	テーブルコーディネート企画と実習　企画書・資料作成/プレゼン準備	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
14	全体の振り返り	学習成果確認のためのプレゼンテーション/総評	
	事前学習 30分	実習内容をまとめておく。	
	事後学習 30分	授業への取り組みが今後の社会生活に活かせるよう、自己評価をきちんと行う。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
レストランサービス論	生活デザイン専攻(RS)	選択	1年後学期	講義	2	真島(まじま) 久美(くみ)	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
3級レストランサービス技能士の資格取得を目指す人	ホテル・レストランでのサービスマン、シニアソムリエ、バリスタ、3級レストランサービス技能士、フードコーディネーター3級	16,17

授業の概要

レストランやホテルの現場で用いられるメニュー、食材、飲料、食事用具、マナーなどの基礎知識を、レストランサービス技能検定３級の学科問題をベースに学習していきます。料飲サービスに携わる上で必要な「食にまつわる文化」「接客の基本」「おもてなしの心」を学びながら、豊かで穏やかな社会生活をおくるための心構えなどをお伝えしていきます。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
(1)定期試験（筆記試験）(60%) (2)授業の取り組み姿勢（40%）の総合評価	再試験は(1)の再実施により点数が更新される。 再評価は(1)、(2)の総合評価。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

レストランサービスの知識を積極的に身につけ、「サービスとは何か」を学ぶことで、サービスをする側とされる側（お客様）の両方の立場を総合的に理解することができる。おもてなしを学ぶことで、他者への配慮を覚え、社会生活に役立つコミュニケーション力を豊かにし、自身の表現で周囲に説明できる。レストランサービス技能検定３級試験に合格するための基礎対策に、主体的に取り組むことができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

レストランサービスの知識を身につけ、「サービスとは何か」を学ぶことで、サービスをする側とされる側（お客様）の両方の立場を理解することができる。おもてなしを学ぶことで、社会生活に役立つコミュニケーション力を豊かにし、表現することができる。レストランサービス技能検定３級試験に合格するための基礎対策に主体的に取り組むことができる。
【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

レストランサービスの知識を身につけ、「サービスとは何か」を学ぶことで、サービスをする側とされる側（お客様）の両方の立場を概ね理解することができる。おもてなしを学ぶことで、社会生活に役立つコミュニケーション力を豊かにしようと努めることができる。レストランサービス技能検定３級試験に合格するための基礎対策に取り組むことができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

レストランサービスの知識を身につけ、「サービスとは何か」を学ぶことで、サービスをする側とされる側（お客様）の両方の立場を理解しようと努めることできる。おもてなしを学ぶことで、社会生活に役立つコミュニケーション力を豊かにしようと概ね努めることができる。レストランサービス技能検定３級試験に合格するための基礎対策に概ね取り組むことができる。
【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

『西洋料理 料飲接遇サービス技法 改訂 4版』（2026）　監修：一般社団法人 日本ホテル・レストランサービス技能協会　発行：一般財団法人 職業訓練教材研究会　 4,840円（本体価格 4,400 +税）

参考書・資料

『レストランサービス技能検定　学科試験問題と解答集　3級』発行：日本ホテル・レストランサービス技能協会 1,800円（本体価格 1,637 +税）
『3級レストランサービス技能検定実技試験　課題と解説ＤＶＤ』監修：日本ホテル・レストランサービス技能協会 ¥5,500

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題は添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

1.授業中の携帯電話の操作は指定するときのみとする。
2.私語、居眠り厳禁。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
レストランサービス論	生活デザイン専攻(RS)	選択	1年後学期	講義	2	真島 久美	単独	16,17

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	レストランサービスに関する一般的な知識	・接客の基本・食事のサービスマナー・DVD鑑賞	
	事前学習 15分	シラバスの確認。教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習	
2	レストランサービスに関する一般的な知識	・客席案内・注文の取り方・テーブルサービス・サービス上での事故対処①	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく。）	
	事後学習 30分	授業の復習	
3	レストランサービスに関する一般的な知識	・客席案内・注文の取り方・テーブルサービス・サービス上での事故対処②	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく。）	
	事後学習 30分	授業の復習	
4	レストランサービスに関する一般的な知識	メニュー、料理名、メニュー構成	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく。）	
	事後学習 30分	授業の復習	
5	レストランサービスの種類、準備および方法	サービスの準備に関する概略の知識　1)フランス式サービス 2）ロシア式サービス、3）イギリス式サービス、４）アメリカ式サービス	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく。）	
	事後学習 30分	授業の復習	
6	レストランサービスの種類、準備および方法	サービスの準備に関する概略の知識・レストラン部門の組織・レストランの準備・客席のセッティング	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく。）	
	事後学習 30分	授業の復習	
7	飲料の種類および特徴	飲料の種類および特徴の概略の知識①	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく。）	
	事後学習 30分	授業の復習	
8	飲料の種類および特徴	飲料の種類および特徴の概略の知識②	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく。）	
	事後学習 30分	授業の復習	
9	飲料の種類および特徴	飲料の種類および特徴の概略の知識③	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく。）	
	事後学習 30分	授業の復習	
10	飲料の種類および特徴	飲料の種類および特徴の概略の知識④	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく。）	
	事後学習 30分	授業の復習	
11	レストランサービスに関する一般的な知識	西洋料理の食事用具、備品	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく。）	
	事後学習 30分	授業の復習	
12	安全衛生に関する詳細	レストランサービスにおける安全衛生に関する知識、労働安全衛生関連法規①	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく。）	
	事後学習 30分	授業の復習	
13	安全衛生に関する詳細	レストランサービスにおける安全衛生に関する知識、労働安全衛生関連法規②	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく。）	
	事後学習 30分	授業の復習	
14	全体の振り返りと定期試験対策小テスト	学習内容の振り返り / 成果確認のための小テスト	
	事前学習 30分	今までの学習内容を復習しておく	
	事後学習 30分	小テストで出来なかった所を見直し、定期試験に備える。翌年のレストランサービス技能士3級筆記試験へ向け学習を定着させる。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
レストランサービス実習	生活デザイン専攻(RS)	選択	2年 前学期	実習	1	真島（まじま） 久美（くみ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
3級レストランサービス技能士の資格取得を目指す人	ホテル・レストランでのサービスマン、シニアソムリエ、バリスタ、3級レストランサービス技能士、フードコーディネーター3級	6・7

授業の概要

レストランサービスに必要な基礎知識（メニュー、テーブルセッティング、食事用具、言葉遣いや表情、マナーなど接客の心得を学習し、実践力を身につけます。接客力を身につけることにより、社会生活に役立つコミュニケーション力を豊かにします。料飲サービスの知識と技術が身に付いていることを証明する料飲サービス唯一の国家検定『レストランサービス技能士3級』取得を目指すことを目標とします。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
(1)学修成果確認のための実技試験(60%) (2)課題および取り組み姿勢（40%）の総合評価	再試験は(1)実技試験の再実施により点数が更新される。 再評価は(1)、(2)の総合評価

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

1.サービスマンとしての知識と技術を積極的に身につけるだけでなく、テーブルマナーを学習・体験することにより、サービスを受ける側を理解した接客が実践できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2.サービスマンとして、積極的に実習を学んだことで、実践的な接客（おもてなし）が表現できる。
【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】
3.周りに配慮しつつ、コミュニケーションをとりながらグループワークを主体的に進めることができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
4.レストランサービス技能士検定3級を受験できる。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価A）目標

1.サービスマンとしての知識と技術を身につけるだけでなく、テーブルマナーを学習・体験することにより、サービスを受ける側を理解した接客を実践することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2.サービスマンとして、実習を学んだことで、実践的な接客（おもてなし）が表現できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】
3.周りに配慮しつつ、コミュニケーションをとりながらグループワークを進めることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
4.レストランサービス技能士検定3級を受験できる。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価B）目標

1.サービスマンとしての知識と技術を身につけ、テーブルマナーを学習・体験することにより、サービスを受ける側を理解した接客を概ね実践することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2.サービスマンとして、実習を学んだことで、実践的な接客（おもてなし）が概ね表現できる。【DP1：知識・技能】
【DP2：思考力・判断力、表現力等】
3.周りに配慮しつつ、コミュニケーションをとりながらグループワークを進めることが概ねできる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
4.レストランサービス技能士検定3級を受験できるようになる。【DP1：知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

1.サービスマンとしての知識と技術を身につけ、テーブルマナーを学習・体験することにより、サービスを受ける側を理解した接客を概ね実践することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2.サービスマンとして、実習を学んだことで、実践的な接客（おもてなし）が概ね表現できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】
3.周りに配慮しつつ、コミュニケーションをとりながらグループワークを進めることが概ねできるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
4.レストランサービス技能士検定3級を受験できるようになる。【DP1：知識・技能】

教科書

『西洋料理 料飲接遇サービス技法 改訂 4版』（2026）　監修：一般社団法人 日本ホテル・レストランサービス技能協会
発行：一般財団法人 職業訓練教材研究会（レストランサービス論で購入済み）　4,840円（本体価格 4,400 +税）

参考書・資料

『3級レストランサービス技能検定実技試験　課題と解説ＤＶＤ』監修：日本ホテル・レストランサービス技能協会 ¥5,500

教科書以外にかかる費用(自己負担)

学外研修：テーブルマナー（¥3,000～¥5,000）

課題に対するフィードバック

実践力を身につけるため、実習中に各自指導、繰り返し練習します。

履修上の注意・備考・メッセージ

1.授業中のスマートフォン操作は指定するときのみとする。（電卓、検索機能及び記録のための撮影機能は可とする。）
2.実習前のセッティング、後片付けを授業の取り組み姿勢として加味する。
3.授業の順番が進行により変わることがある。
4.授業は200分/2コマ。
5.筆記試験前（3級レストランサービス技能士受験）に対策講座を開くので参加する。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
レストランサービス実習	生活デザイン専攻(RS)	選択	2年 前学期	実習	1	真島 久美	単独	6･7

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	接客マナー・テーブルサービス1.	正しい接客案内ができること	
	事前学習15 分	接客マナーについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
2	接客マナー・テーブルサービス2.	客席での販売促進ができること	
	事前学習15 分	テーブルサービス、客席での販売促進について教科書を読み調べておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
3	接客マナー・テーブルサービス3.	正しく注文が取れること	
	事前学習15 分	テーブルサービスについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
4	接客マナー・テーブルサービス4.	正しくオーダーを通せること	
	事前学習15 分	オーダーの通し方について教科書を読み調べておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
5	接客マナー・テーブルサービス5.	伝票処理ができること	
	事前学習15 分	伝票処理の方法について教科書を読み調べておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
6	接客マナー・テーブルサービス6.	パーティー、テーブル等の種類に応じた正しいセッティングができること	
	事前学習15 分	パーティー、テーブル等の種類に応じた正しいセッティングについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
7	接客マナー・テーブルサービス7.	料理、飲料の種類に応じた正しいテーブルセットができること	
	事前学習15 分	料理、飲料の種類に応じた正しいテーブルセットについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
8	接客マナー・テーブルサービス8.	料理、飲料の正しい運搬が出来ること	
	事前学習15 分	料理、飲料の正しい運搬について教科書を読み調べておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
9	接客マナー・テーブルサービス9.	料理、飲料の種類に応じた正しいサービスができること	
	事前学習15 分	料理、飲料の種類に応じた正しいサービスについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
10	接客マナー・テーブルサービス10.	食器類の後片付けが正しくできること	
	事前学習15 分	食器類の後片付けについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
11	接客マナー・テーブルサービス11.	料理をこぼすなどの突発事態に正しく対処できること	
	事前学習15 分	料理をこぼすなどの突発事態についての対応について教科書を読み調べておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
12	接客マナー・テーブルサービス12.	テーブルの後片づけが正しくできること	
	事前学習15 分	テーブルの後片づけについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
13	テーブルマナー研修	学外研修	
	事前学習30 分	テーブルサービス、テーブルマナーについて復習しておく。	
	事後学習30 分	授業の復習。	
14	全体の振り返りと実技試験	前期全体の学習内容の振り返り / 学修成果の確認のための実技試験	
	事前学習30 分	今までの実習の復習をしておく。確認テストの準備をする。	
	事後学習30 分	授業の復習。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
アパレル素材・管理学	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	講義	2	木林（きばやし）　祥子（しょうこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	5,6・7,15

授業の概要

快適で豊かな衣生活を営むために、また、アパレル関連の業務で活用できる能力を育成するために、アパレル製品を取り扱う際に必要となる、繊維素材と衣類の取り扱いについて学ぶ。繊維から糸、布、製品となるプロセスをたどりながら、各々の種類、構造・特性、加工法、文化的背景などを学んでいく。次に、衣服を長く大切に管理するために、洗浄理論や、乾燥・仕上げ、保管方法を学ぶ。授業は講義だけでなく実験や実習を行い、理解を実践的なものとする。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)授業内レポート・課題(60%) (2)小テスト（30%） (3)受講態度(10%)	再試験は(1)の提出によって点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・アパレル製品の素材特性と管理について論理的に理解し自身の表現で説明できる。【DP1:知識・技能】
・繊維素材や被服管理に関する実験・実習の目的と方法を正しく理解し、実験班員の多様性を考慮しつつ行動して結果を導き出し、論理的に考察して自身の表現でレポートの作成ができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協調性】

到達（成績評価A）目標

・アパレル製品の素材特性と管理について論理的に理解し説明できる。【DP1:知識・技能】
・繊維素材や被服管理に関する実験・実習の目的と方法を理解し、実験班員の多様性を考慮しつつ行動して結果を導き出し、論理的に考察してレポートの作成ができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協調性】

到達（成績評価B）目標

・アパレル製品の素材特性と管理について論理的な理解が不足するところもあるが概ね説明できる。【DP1:知識・技能】
・繊維素材や被服管理に関する実験・実習の目的と方法を概ね理解し、実験班員と協働して結果を導き出し、考察してレポートの作成ができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協調性】

単位取得（成績評価C）目標

・アパレル製品の素材特性と管理について論理的な理解には乏しいが関連する用語は述べることができる。【DP1:知識・技能】
・繊維素材や被服管理に関する実験・実習の目的と方法を理解していない部分もあるが、実験班員と協働でき、レポートの作成ができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協調性】

教科書

なし（授業内でプリントを配布する）

参考書・資料

文化服装学院編『文化ファッション大系　服飾関連専門講座①アパレル素材論』文化出版局（2000）￥1,870

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

レポートと課題は添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業中のスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
アパレル素材・管理学	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	講義	2	木林（きばやし）　祥子（しょうこ）	単独	5,6・7,15

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	アパレル素材	布の成り立ちを理解する	
	事前学習 10分	シラバスを読む	
	事後学習 30分	手持ちの衣類の素材と形態を観察する	
2	繊維の種類	繊維の歴史	
	事前学習 20分	手持ちの衣類のタグを見て素材の繊維を調べる	
	事後学習 30分	繊維の種類を手持ちの衣類と関連付けて確認する	
3	繊維の性質	繊維の鑑別	
	事前学習 20分	手持ちの衣類のタグを見て素材の繊維や手触りを確認する	
	事後学習 30分	繊維の特徴を手持ちの衣類と関連付けて確認する	
4	糸の種類と性質	繊維から糸製造、糸のより・太さ	
	事前学習 20分	身近にある糸を観察する	
	事後学習 30分	販売されている糸にも目を向け理解を深める	
5	布地の種類	織物・編物の組織	
	事前学習 20分	身の回りにある布製品を観察する	
	事後学習 30分	身の回りにある布製品から織物と編物を見つけ組織を確認する	
6	布地の性能	布の物性試験	
	事前学習 20分	販売されている衣類にどのような機能があるか調べる	
	事後学習 30分	布地の性能を身の回りの衣類と関連付けて確認する	
7	非繊維素材	皮革・毛皮・芯地・レース・リボン、小テスト	
	事前学習 120分	1～6の内容を復習する	
	事後学習 30分	販売されているアパレル製品の非繊維素材にも目を向け理解を深める	
8	衣服の汚れ	汚れの種類、汚れの検出	
	事前学習 20分	衣服の汚れの要因は何か予想を立てる	
	事後学習 30分	衣類に付着する汚れや衣服内環境に関心を寄せ理解を深める	
9	洗剤	洗剤の種類	
	事前学習 20分	自宅にある洗濯洗剤を調べてくる	
	事後学習 30分	販売されている洗剤にも目を向け理解を深める	
10	洗濯	洗濯の歴史、界面活性剤の働き	
	事前学習 20分	自宅にある漂白剤の成分を調べてくる	
	事後学習 30分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる	
11	商業洗濯	ドライクリーニング、しみ抜き	
	事前学習 20分	クリーニング店に依頼する衣服の特徴をまとめてくる。	
	事後学習 30分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる	
12	洗濯後の仕上げ	柔軟剤と糊の働き、アイロンの温度設定	
	事前学習 20分	自宅にある柔軟剤の成分を調べてくる	
	事後学習 30分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる	
13	アパレル製品と環境	衣類の廃棄とリサイクル・小テスト	
	事前学習 120分	8～12の内容を復習する	
	事後学習 30分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習 20分	1～13回の学習内容を振り返り復習しておく	
	事後学習 30分	授業で学んだことを自身の生活の中でどのように活かせるか考える	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
テキスタイルデザイン実習Ⅰ	生活デザイン専攻	選択	1年 前学期	実習	1	木林（きばやし）　祥子（しょうこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	6・7

授業の概要

豊かで持続可能な生活をデザインし、提案できるようになるために、この科目では、刺し子・刺しゅうの基礎的な知識や技術を学び、生活に活かす力を身につける。「刺し子」の技法では、模様刺しと一目刺しの技法を学び、作品を制作する。「刺しゅう」の技法では、リボン刺しゅう、自由刺しゅう、区限刺繍の技法を学び、作品を制作する。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(2)の項目の総合評価とする。 (1)作品・課題(80%) (2)受講態度(20%)	再評価は行わない

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・刺し子・刺しゅうの基礎的な知識と技術を十分に習得し、妥当な方法で、優れた作品を完成させることができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・作品制作の趣旨を十分に理解し、自ら問題を解決しながら作業を行い、積極的に制作に取り組むことができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・刺し子・刺しゅうの基礎的な知識と技術を十分に習得し、妥当な方法で、作品を完成させることができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・作品制作の趣旨を十分に理解し、自ら問題を解決しながら作業を行い、制作に取り組むことができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・刺し子・刺しゅうの基礎的な知識と技術を習得し、概ね妥当な方法で、作品を完成させることができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・作品制作の趣旨を理解し、多少のサポートを得ながら、制作に取り組むことができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・刺し子・刺しゅうの基礎的な知識と技術を概ね習得し、部分的には妥当な方法で、作品を完成させることができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・作品制作の趣旨を概ね理解し、手厚いサポートを得ながら、制作に取り組むことができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】

教科書

特になし

参考書・資料

適宜プリントを配布する

教科書以外にかかる費用(自己負担)

〈材料費〉約2、500円位

課題に対するフィードバック

作品は評価ののち、各自に返却する

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業中のスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。
・材料については授業内に指示する。
・忘れ物をしないこと。
・進行の都合により、内容が前後することがある。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
テキスタイルデザイン実習Ⅰ	生活デザイン専攻	選択	1年 前学期	実習	1	木林　祥子	単独	6･7

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス・リボン刺しゅう	授業概要の説明、世界の手芸品の鑑賞、リボン刺しゅうの小物制作	
	事前学習 10分	刺し子・刺しゅうの図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
2	「刺し子」の技法の習得	刺し子の基礎（模様刺し）	
	事前学習 10分	刺し子ついて調べ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
3	「刺し子」の技法の習得	刺し子の基礎（一目刺し）	
	事前学習 10分	一目刺しについて調べ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
4	「刺し子」の技法の習得	刺し子の基礎（一目刺し）	
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
5	「刺し子」の技法の習得	刺し子布を用いた作品制作	
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
6	「刺し子」の技法の習得	刺し子布を用いた作品制作	
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 60分	作品を仕上げておく	
7	「刺しゅう」の技法の習得	刺しゅうの基礎（道具の使い方、図案の写し方、布の裁断、端の始末など）	
	事前学習 10分	刺しゅうについて調べ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
8	「刺しゅう」の技法の習得	刺しゅうの基礎（線を表すステッチ）	
	事前学習 10分	線を表すステッチについて調べ関心を高める	
	事後学習 60分	ステッチについて復習をする、授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
9	「刺しゅう」の技法の習得	刺しゅうの基礎（面を埋めるステッチ）	
	事前学習 10分	面を埋めるステッチについて調べ関心を高める	
	事後学習 60分	ステッチについて復習をする、授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
10	「刺しゅう」の技法の習得	刺しゅうの基礎（区限刺しゅう）	
	事前学習 10分	区限刺しゅうについて調べておく	
	事後学習 60分	ステッチについて復習をする、授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
11	「刺しゅう」の技法の習得	刺しゅう布を用いた作品制作	
	事前学習 10分	刺しゅうの活用法について調べておく	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
12	「刺し子」または「刺しゅう」の作品制作	各自制作する作品についての指導	
	事前学習 60分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
13	「刺し子」または「刺しゅう」の作品制作	各自作品制作	
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
14	「刺し子」または「刺しゅう」の作品制作	作品仕上げ	
	事前学習 10分	作品を仕上げられるように準備しておく	
	事後学習 30分	学んだことを実生活で生かせるように、授業全体を振り返る	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
テキスタイルデザイン実習Ⅱ	生活デザイン専攻	選択	2年 前学期	実習	1	木林（きばやし）　祥子（しょうこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	6・7

授業の概要

豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、伝統工芸や手芸など手作業によるものづくりの現代社会における意義と重要性や日本伝統の古布再生の文化を学び、技法の種類と特徴についての知識・技術を身に付ける。この科目では、草木染めと織りの技法を学ぶ。必要な道具や用品、材料などの選び方・使い方を習得し、図案の制作、準備工程、加工工程と進み、手作業で作品をつくることの難しさと楽しさ、大量生産品と違い制作時間がかかることなどを体験的に習得する。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(2)の項目の総合評価とする。 （1）作品・課題（80%） （2）受講態度（20%）	再評価は行わない

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・適切な道具、用具、材料を自ら選んで正しく使いながら、正しい手順で作業工程を進めることができ、手作業ならではの特徴を活かした独自性のあるデザインが考案できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・現代社会における手工芸の意義と重要性や日本伝統の古布再生の文化について理解し、自分の考えを含めて独自性のある作品制作ができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・適切な道具、用具、材料を選んで正しく使いながら、正しい手順で作業工程を進めることができ、手作業ならではの特徴を活かしたデザインが考案できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・現代社会における手工芸の意義と重要性や日本伝統の古布再生の文化について理解し、自分の考えを含めて作品制作ができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・適切な資料を参照して道具、用具、材料を選んで正しく使い、正しい手順を確認しながら作業工程を進めることができ、手作業ならではの特徴を理解してデザインが考案できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・現代社会における手工芸の意義と重要性や日本伝統の古布再生の文化について概ね理解し、作品制作ができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・適切な資料を参照して道具、用具、材料を選び、正しい手順を確認しながら作業工程を進めデザインが考案できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・現代社会における手工芸の意義と重要性や日本伝統の古布再生の文化と関連付けて作品制作ができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

なし（授業内でプリントを配布する）

参考書・資料

授業内で適宜指示する

教科書以外にかかる費用(自己負担)

材料費（糸、部品、ビーズなど）約2,000円位※個々のデザインによって前後する。各自で用意する材料については授業内で指示する。

課題に対するフィードバック

作品は評価ののち各自に返却する

履修上の注意・備考・メッセージ

・進行の都合により内容が前後することがある。
・予定進度より遅れている場合は、授業以外の時間に各自で実習し追いつくこと。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
テキスタイルデザイン実習Ⅱ	生活デザイン専攻	選択	2年前学期	実習	1	木林　祥子	単独	6･7

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス、制作計画	作品制作について	
	事前学習 10分	手工芸や伝統工芸の図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 20分	学んだ内容を念頭に置き、身の回りの手工芸に目を向ける	
2	「織り」技法の習得	裂き織り	
	事前学習 10分	裂き織りについて調べておく	
	事後学習 20分	不要衣類で裂き織りに使えそうな材料を調べる	
3	「織り」技法の習得	平織り、うね織り	
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 20分	身の回りの布を意識的にみる	
4	「織り」技法の習得	平織り応用	
	事前学習 10分	色糸効果を考えておく	
	事後学習 20分	身の回りの布を意識的にみる	
5	「織り」技法の習得	透かし織り、ノット織り	
	事前学習 10分	身の回りの布の組織を調べる	
	事後学習 20分	学んだ技法を用いた製品を見つける	
6	「織り」技法の習得	綾織り	
	事前学習 10分	身の回りの布で、綾織りの生地を探す	
	事後学習 60分	作業の遅れがあれば進めておく	
7	「織り」技法の習得	織布を用いた作品制作	
	事前学習 10分	作品制作に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 60分	作品を仕上げておく	
8	「織り」技法の習得	ビーズ織り	
	事前学習 10分	ビーズ織りについての図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 60分	作業の遅れがあれば進めておく	
9	「織り」技法の習得	ビーズ織りを用いた作品制作	
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
10	「染め」技法の習得	草木染	
	事前学習 10分	染めに関する図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 20分	身の回りの染織材料を調べる	
11	「織り」の作品制作	織りの技法を用いたバッグの制作	
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 60分	次回までにデザインをまとめておく	
12	「織り」の作品制作	各自作品制作	
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 40分	作業の遅れがあれば進めておく	
13	「織り」の作品制作	各自作品制作	
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 60分	作業の遅れがあれば進めておく	
14	まとめ、作品提出	作品仕上げ	
	事前学習 10分	作品を仕上げられるように準備しておく	
	事後学習 20分	これまでの作品制作を振り返る	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
ファッション造形実習	生活デザイン専攻	選択	2年 前学期	実習	1	秋山（あきやま） 敦子（あつこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
テキスタイルデザイン実習Ⅰの単位修得者推奨。（修得していない方は、初回授業に出席しご相談ください。）	作品の委託販売、委託による製品製作の経験を活かし、実践的な観点から基本的な製作技術を指導する。	6・7

授業の概要

豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、被服がどのように構成されているかを、帽子とスカートの製作を通して学ぶ。帽子は毛糸を手編みの棒針編みの技法で、スカートは型紙を用いて布をミシンで縫製して製作し、それぞれの特性に応じた製作技術や知識を習得する。異なる素材・製作技法を経験することで、被服に対する理解を深める。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)作品　　(70%) (2)レポート (20%) (3)受講態度 (10%)	再評価は行わない

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・被服に関する知識と製作技術を正しく習得し、妥当な方法で、デザインの目的や意図にあった優れた作品を完成できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・製作した作品のデザインの目的や意図、構成、材料について、自身の表現で正しく明確に説明ができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・作品の製作方法を十分に理解し、自ら問題解決をしながら作業を行い、積極的に製作に取り組むことができる。【DP1:知識・技能】【DP3:主体性・多様性・協働性】

到達（成績評価A）目標

・被服に関する知識と製作技術を正しく習得し、妥当な方法で、デザインの目的や意図にあった作品を完成できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・製作した作品のデザインの目的や意図、構成、材料について、自身の表現で説明できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・作品の製作方法を十分に理解し、自ら問題解決をしながら作業を行い、製作に取り組むことができる。【DP1:知識・技能】【DP3:主体性・多様性・協働性】

到達（成績評価B）目標

・被服に関する知識と製作技術を習得し、概ね妥当な方法で、デザインの目的や意図にあった作品を完成できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・製作した作品のデザインの目的や意図、構成、材料について、概ね説明できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・作品の製作方法を理解し、多少のサポートを得ながら、製作に取り組むことができる。【DP1:知識・技能】【DP3:主体性・多様性・協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・被服に関する知識と製作技術を部分的に習得し、不適当な方法で製作している部分が多くあるが、デザインの目的や意図にあった作品を完成できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・製作した作品のデザインの目的や意図、構成、材料について、不十分であるが説明できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・作品の製作方法を概ね理解し、手厚いサポートを得ながら、製作に取り組むことができる。【DP1:知識・技能】【DP3:主体性・多様性・協働性】

教科書

特になし（授業内でプリントを配布する）

参考書・資料

授業内に適宜指示する

教科書以外にかかる費用(自己負担)

帽子：練習糸（350円位）、毛糸（1,500円位）　スカート：型紙　(1,100円）、布・付属品等の材料（各自で用意する。おおむね3,000円位～）　※各自で用意する材料については、授業内に指示する

課題に対するフィードバック

作品は評価ののち、各自に返却する

履修上の注意・備考・メッセージ

・実習なので、欠席や遅刻のないようにしましょう。
・忘れ物をしないこと。
・授業中のスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。
・進行の都合により、授業の内容が前後する場合がある。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
ファッション造形実習	生活デザイン専攻	選択	2年 前学期	実習	1	秋山 敦子	単独	6･7

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス・帽子製作1	授業概要の説明、棒針編みの練習、記号図の読み方	
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 30分	編み方の復習をする	
2	帽子製作2	棒針編みの練習	
	事前学習 10分	習得した編み方を確認しておく	
	事後学習 30分	編み方の復習をする	
3	帽子製作3・スカート製作1	＜帽子＞頭の採寸、ゲージを編む、作り目数の割り出し ＜スカート＞採寸、用尺を見積もる	
	事前学習 10分	習得した編み方を確認しておく	
	事後学習 120分	進度が遅れている場合は追いつくようにする、スカートの材料を準備する	
4	帽子製作4	帽子を編み始める	
	事前学習 10分	習得した編み方を確認しておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
5	帽子製作5	帽子を編み進める	
	事前学習 10分	習得した編み方を確認しておく	
	事後学習 120分	任意の深さまで編み進めておく	
6	スカート製作2	ミシン縫い、手縫いの基礎練習、型紙の作成、地直し	
	事前学習 60分	布地の水通しをしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
7	帽子製作6	目数を減らして綴じる、糸始末、仕上げ	
	事前学習 5分	任意の深さまで編めているか確認する	
	事後学習 60分	レポート作成のために、帽子製作についてまとめておく	
8	スカート製作3	布地の裁断	
	事前学習 30分	型紙の作成を終わらせておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
9	スカート製作4	布地の裁断	
	事前学習 30分	型紙の作成を終わらせておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
10	スカート製作5	縫製（表スカート・裏スカートの脇を縫う、縫い代の始末）	
	事前学習 10分	ミシンの使用法を復習しておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
11	スカート製作6	縫製（表スカートと裏スカートを縫い合わせる、ウエストベルトを作る）	
	事前学習 10分	縫製仕様書で次の作業内容を確認しておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
12	スカート製作7	縫製（スカートにウエストベルトをつける、ウエストにゴムを通す）	
	事前学習 10分	縫製仕様書で次の作業内容を確認しておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
13	スカート製作8	縫製（裾の始末、糸ループをつける）	
	事前学習 10分	縫製仕様書で次の作業内容を確認しておく	
	事後学習 120分	進度が遅れている場合は追いつくようにする、レポートを作成する	
14	仕上げ	仕上げ、着装、作品とレポートの提出	
	事前学習 30分	作品とレポートが提出できるように準備する	
	事後学習 30分	学んだことを実生活で活かせるように、授業全体を振り返る	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
ファッション販売演習	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	演習	2	鈴木（すずき） 麻希子（まきこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	アパレル業界での実務経験を活かし、品質管理や流通、ECサイト運営・商品ページ作成などの知識を授業に反映する。	4,8,9, 14,16

授業の概要

ファッション販売の現場で求められる接客スキル、商品知識、コーディネート提案力および販売戦略について、演習を通して実践的に学ぶ。教科書『ファッション販売3』（日本ファッション教育振興協会）を基に、ロールプレイや販売シミュレーション、市場調査の発表を行い、理論と実践の結びつきを理解する。演習中心の授業を通して、学生が主体的に課題へ取り組み、提案力・対応力・問題解決力を養い、現場を意識した実践力を身につける。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)授業内課題(40%) (2)授業内小テスト（筆記試験）(40%) (3)受講態度(20%)	再試験では、授業内小テストと同じ範囲の筆記試験を実施し、得点に応じて成績を更新する。再評価は、授業内課題（1）から受講態度（3）までの総合評価に基づき行われる。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・市場に存在する多様なファッション商品について分類や特徴を理解し、自分の言葉で具体的に説明できるようになる。【DP1:知識・技能】
・アパレル販売の現場を観察し、提供者と生活者の双方の視点から課題を見つけ、改善策を提案できるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・ファッション業界の仕組みや小売業態、商品流通の流れを深く理解し、販売スタッフの役割を踏まえた上で、サービス業務の質向上について具体的かつ実践的に考え、論理的に述べられるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・ファッション商品の特徴や分類を理解し、基本的な内容を自分の言葉で説明できるようになる。【DP1:知識・技能】
・現場観察を通して課題を見つけ、簡単な改善策を提案できるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・ファッション業界の仕組みや小売業態、商品流通の流れを理解し、販売スタッフの役割を踏まえた上で、サービス業務の質向上について具体的に考え、述べられるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・ファッション商品の特徴や分類について理解し、簡単な説明ができるようになる。【DP1:知識・技能】
・現場で見つけた課題について指摘し、基本的な改善案を示すことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・ファッション業界や小売業態、商品流通の基本的な仕組みを理解し、販売スタッフの役割を述べられるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・ファッション商品の特徴や分類について一部理解して説明できるようになる。【DP1:知識・技能】
・現場で課題を見つけることや改善策の提案に取り組むことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・ファッション業界や小売業態、商品流通の基本的な流れや販売スタッフの役割を理解することができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

教科書

一般財団法人 日本ファッション教育振興協会:『ファッション販売3』（改訂版）¥2,750

参考書・資料

一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：『ファッション販売3-ファッション販売能力検定試験3級公式問題集-』¥1,980
各種ファッション雑誌

教科書以外にかかる費用(自己負担)

ファッション販売能力検定試験を希望する場合は、各自で申込む必要がある。3級：7,150円（税込）　2級：7,700円（税込）
授業内で接客販売体験などのイベントに参加することがある場合、参加料や交通費は履修者負担となることがある。

課題に対するフィードバック

・課題、ワークシート、小テストなどは添削後、各自に返却する。
・小テストは実施後に解説を行い、学習内容の定着を図る。

履修上の注意・備考・メッセージ

・初回授業までに、教科書『ファッション販売3』（一般財団法人 日本ファッション教育振興教会・改訂版、¥2,750）を各自で購入しておく。
・初回授業時に、ファッション販売能力検定試験の申込方法について説明する。
・検定試験の日程に合わせて、授業スケジュールを変更する場合がある。
・忘れ物により授業が円滑に進まない場合は、受講態度の評価を減点することがある。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
ファッション販売演習	生活デザイン専攻	選択	1年後学期	演習	2	鈴木（すずき） 麻希子（まきこ）	単独	4,8,9,14,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ファッション業界と職種・検定試験概要	検定概要とファッション業界・職種の基礎を知る	
	事前学習 30分	教科書『ファッション販売3』を通読しておく（全体の流れを把握する程度で構わない）	
	事後学習 30分	授業で学んだ内容を復習し、理解と定着を図る	
2	ファッション販売技術	販売スタッフとして必要な基本マナーや接客応対、適切な言葉遣いを学ぶ	
	事前学習 30分	前回の授業で指示した部分を読んでおく	
	事後学習 30分	授業で学んだ内容を復習し、実践で活用できるよう練習する	
3	購買心理・包装	お客様の購買心理や包装・贈答マナーについて学ぶ	
	事前学習 30分	前回の授業で指示した部分を読んでおく	
	事後学習 30分	学んだ購買心理や包装・贈答マナーを整理し、理解の定着を図る	
4	商品知識1	アイテム名などのファッション用語について学ぶ	
	事前学習 30分	前回の授業で指示した部分を読んでおく	
	事後学習 30分	学んだファッション用語やアイテム名を、実際のアイテムや雑誌等で確認し理解を深める	
5	商品知識2	素材・加工・スタイルなどの服飾・ファッション用語について学ぶ	
	事前学習 30分	前回の授業で指示した部分を読んでおく	
	事後学習 30分	学んだ服飾・ファッション用語を、実際のアイテムや雑誌等で確認し理解を深める	
6	小テスト1・色彩	前回までの内容の理解度を確認する小テストを行った後、色彩や配色の基礎について学ぶ	
	事前学習 30分	前回の授業で指示した部分を読んでおく	
	事後学習 30分	小テスト1の内容を振り返り、わからなかった点を確認する。学んだ色彩や配色を整理し、理解の定着を図る	
7	小テスト1フィードバック・サイズ表記	小テスト1結果のフィードバックを授業冒頭で行った後、服や服飾雑貨のサイズ表記について学ぶ	
	事前学習 30分	前回の授業で指示した部分を読んでおく	
	事後学習 30分	服や服飾雑貨のサイズ表記を実際のアイテムやカタログで確認し、理解を深める	
8	品質管理・副資材	良品・不良品の判断基準や取扱絵表示、副資材について学ぶ	
	事前学習 30分	前回の授業で指示した部分を読んでおく	
	事後学習 30分	学んだ良品・不良品の判定基準や取扱絵表示、副資材について整理し、理解を定着させる	
9	売り場づくり1	店舗の環境づくりや商品陳列、販売用器具の活用方法について学ぶ	
	事前学習 30分	前回の授業で指示した部分を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を整理し、各自で店舗を観察して市場調査を行う	
10	売り場づくり2	各自が行った市場調査の結果を発表し、考察を共有する	
	事前学習 30分	市場調査内容を整理し、発表の準備をしておく	
	事後学習 30分	発表内容や他者の意見を整理し、学んだことを振り返る	
11	マーケティング	マーケティングの基礎とファッション店舗における実践的なマーケティングについて学ぶ	
	事前学習 30分	前回の授業で指示した部分を読んでおく	
	事後学習 30分	授業で学んだマーケティングの基礎や店舗での活用方法を整理し、理解を定着させる	
12	情報収集、販売スタッフの業務	情報収集の目的と必要性、販売スタッフの業務について学ぶ	
	事前学習 30分	前回の授業で指示した部分を読んでおく	
	事後学習 30分	販売スタッフに求められる情報収集の目的・必要性と、日常業務について学ぶ	
13	小テスト2、ロールプレイ	7回目以降の内容の理解度を確認する小テスト2を行った後、これまで学んだ接客マナー、販売技術、購買心理などを活かしてロールプレイを行う	
	事前学習 30分	前回までの授業内容を整理し、演習で使えるように確認しておく	
	事後学習 30分	小テスト2の内容を振り返り、わからなかった点を確認しておく。ロールプレイで気づいたことや改善点を整理し、次回以降の授業や実務に活かす	
14	ECサイト	小テスト2結果のフィードバックを授業冒頭で行った後、ECサイトの基礎と活用方法を学ぶ	
	事前学習 30分	前回の授業で指示した部分を整理しておく	
	事後学習 30分	ECサイトの内容を整理し、実務や日常でどう活かせるか考える	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
インテリアコーディネート演習	生活デザイン専攻	選択	2年後学期	演習	2	山村（やまむら） 美保里（みほり）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	9,11,12

授業の概要

前半では、インテリアを構成する各要素の基礎事項とプランニングの一般的なルールを学び、生活に関するインテリアの専門知識を習得する。後半では、豊かで持続可能な生活をデザインし提案できるよう、前半で学んだ基礎知識を基に課題に取り組み、プレゼンテーションをする。また希望者はインテリアデザイン技能検定に必要な平面図、デザインコンセプト等を学習する。

成績評価方法

以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。
(1)受講態度(20%)
(2)学修成果確認のための授業ノート・作成物(40%)
(3)プレゼンテーション課題(40%)

再評価の成績評価方法

再試験は(3)のプレゼンテーション課題を作成して評価する。
再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

インテリアに関する基礎知識と、それらをコーディネートして表す技能を習得し、自身の表現で説明できるようになる。【DP1:知識・技能】。習得した各インテリアエレメンツを用い、図面を効果的に活用して、論理的にプレゼンテーションができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に対して積極的に取り組み、インテリアを活用する様々な場面を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

インテリアに関する基礎知識と、それらをコーディネートして表す技能を習得し、説明できるようになる。【DP1:知識・技能】。習得した各インテリアエレメンツを用い、図面を活用して、プレゼンテーションができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に対して積極的に取り組み、インテリアを活用する様々な場面を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

インテリアに関する基礎知識と、それらをコーディネートして表す技能を習得し、概ね説明できるようになる。【DP1:知識・技能】。習得した各インテリアエレメンツを用い、図面を活用して、プレゼンテーションができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に取り組み、インテリアを活用する場面を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

インテリアに関する基礎知識を学習し、概ね説明できるようになる。【DP1:知識・技能】。習得した各インテリアエレメンツを用い、プレゼンテーションができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に取り組み、インテリアを活用する場面を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

教科書

必用な資料は適宜配布

参考書・資料

『インテリアデザイン技能検定公式テキスト』日本教育訓練センター ¥2,750　一般社団法人 日本室内意匠協会参

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

小課題は、返却時にアドバイスを含め返却する。プレゼンテーション課題は、最終発表時に評価コメントする。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業中の携帯電話の操作禁止（指示のある場合は除く）
・私語厳禁
・グループワークは各自責任をもち、協力して進める

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
インテリアコーディネート演習	生活デザイン専攻	選択	2年後学期	演習	2	山村 美保里	単独	9,11,12

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス	授業の目的と方針　インテリアテイスト	
	事前学習 30分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 30分	授業方針を確認する	
2	家具Ⅰ	家具の種類と役割、家具の寸法	
	事前学習 30分	身近な家具の寸法を計測する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
3	家具Ⅱ	家具の配置計画　著名な家具のスケッチ	
	事前学習 30分	家の家具や家具売り場を見ておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
4	照明Ⅰ	照明の種類と役割　著名な照明のスケッチ	
	事前学習 30分	自宅や店舗の照明を見ておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
5	照明Ⅱ	照明計画	
	事前学習 30分	自宅や店舗の照明を見ておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
6	窓回り	カーテン等のウィンドートリートメント	
	事前学習 30分	自宅や店舗の窓回りを見ておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
7	色彩	色彩計画	
	事前学習 30分	好きな居住空間の色彩を観察しておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
8	平面図	平面図の基礎	
	事前学習 30分	学習した内容を確認しておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
9	平面図Ⅱとこれまでの確認	平面図に家具を描き入れる　これまでの学習の確認	
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
10	課題発表	与えられた課題に対してコーディネートを考える	
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
11	プレゼンテーションボードの作成	プレゼンテーションの内容を検討する	
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習し、発表内容を検討する。	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
12	プレゼンテーションボードの作成		
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習し、発表内容を検討する。	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
13	プレゼンテーションボードの作成		
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習し、発表内容を検討する。	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
14	発表会と総括	発表会と振り返り	
	事前学習 30分	発表練習をする	
	事後学習 30分	他の発表者のアイデアを確認する	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
アロマテラピー概論	生活デザイン専攻	選択	1年 前学期	講義	2	久保田（くぼた） 裕子（ひろこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	6・7,16

授業の概要

日常生活において、心身の健康増進にアロマテラピーを役立てるという目標に到達するために、この科目では、アロマテラピーの基礎を学び、セルフケアに活かす知識を身につける。（公社）日本アロマ環境協会認定アロマテラピー検定のテキストを使用して、基礎知識や活用法、注意事項などについて学ぶ。また、基礎で知っておくべき９種の精油の嗅ぎ分けをしながら、各精油について学び、活用できる知識を身につける。

成績評価方法

以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。
(1)定期試験（筆記試験）　(80%)
(2)小テスト　(10%)
(3)授業態度　(10%)

再評価の成績評価方法

(1)の筆記試験を実施し点数が更新される。
再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・アロマテラピーの基礎的事項をしっかり理解し、日常生活に知識を活かすことで、心身の健康増進に活用できるようになる。【DP1:知識・技能】
・9種の精油について、各精油の特徴をしっかり理解し、効果的で適切な活用法を提案することができるようになる。【DP1:知識・技能】
・セルフケア、販売業や福祉介護関係など、仕事でも役立てられる知識を身につけ、提案することができるようになる。【DP1:知識・技能】
・（公社）日本アロマ環境協会認定アロマテラピー検定２級に合格できるようになる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価A）目標

・アロマテラピーの基礎的事項を理解し、日常生活に知識を活かすことで、心身の健康増進に活用できるようになる。【DP1:知識・技能】
・9種の精油について、各精油の特徴を理解し、効果的な活用法を提案することができるようになる。【DP1:知識・技能】
・セルフケア、販売業や福祉介護関係など、仕事でも役立てられる知識を身につけ、提案することができるようになる。【DP1:知識・技能】
・（公社）日本アロマ環境協会認定アロマテラピー検定２級に合格できるようになる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価B）目標

・アロマテラピーの基礎的事項を身につけ、日常生活の中で活用できるようになる。【DP1:知識・技能】
・9種の精油について、各精油の基本的事項について説明することができる。【DP1:知識・技能】
・心身のケアに役立てる知識を身につけられるようになる。【DP1:知識・技能】
・（公社）日本アロマ環境協会認定アロマテラピー検定２級に挑戦できるようになる。【DP1:知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

・アロマテラピーの基礎的事項を身につけ、日常生活の中で活用できるようになる。【DP1:知識・技能】
・9種の精油について、各精油の基本的事項について理解することができる。【DP1:知識・技能】
・（公社）日本アロマ環境協会認定アロマテラピー検定２級に挑戦できるようになる。【DP1:知識・技能】

教科書

（公社）日本アロマ環境協会：『アロマテラピー検定テキスト』（2020年6月改訂版）　2,640円
2回目の授業迄に準備(改定年度を間違得ないように注意）。

参考書・資料

授業内に適宜指示する

教科書以外にかかる費用(自己負担)

【希望者】アロマテラピー検定　受験料　6,600円（税込）

課題に対するフィードバック

時間内に小テストをおこない、振り返りをして不明点を確認する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・毎時間進度チェックを行う。予定進度より遅れている場合は、授業以外の時間に各自で実習し、追いつくこと。
・遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること。余儀なく欠席の場合は、必ずメールで連絡をし、欠席時の内容を習得すること。
・忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。
・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
アロマテラピー概論	生活デザイン専攻	選択	1年 前学期	講義	2	久保田 裕子	単独	6・7,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス	アロマテラピーとは　検定について　１年間の目標設定　精油の試香クイズ	
	事前学習 10分	シラバスを読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
2	精油利用法Ⅰ	使用上の注意事項　芳香浴法①　精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
3	精油利用法Ⅱ	吸入法　フェイシャルスチーム法　湿布法　精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
4	精油利用法Ⅲ	沐浴法　トリートメント法　手作り化粧品　精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
5	利用法Ⅳ、基材について	素材の種類　精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 60分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
6	まとめと復習①	精油り方法についてまとめ　小テスト　答え合わせ　精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	小テストの範囲を復習をする。	
	事後学習 60分	小テストの間違えを復習する。授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
7	素材について	素材の種類　精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
8	まとめと復習②	素材について　小テスト　答え合わせ　精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 60分	小テストの範囲を復習をする。	
	事後学習 60分	小テストの間違えを復習する。授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
9	精油学Ⅰ	精油の定義・安全性　精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
10	まとめと復習③	安全のための注意点　小テスト　答え合わせ　精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 60分	小テストの範囲を復習をする。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
11	精油額Ⅱ	精油の抽出法　精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	小テストの間違えを復習する。授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
12	精油学Ⅲ・まとめと復習④	精油の作用　小テスト　答え合わせ　精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 60分	テキストの指定された範囲を読んでおく。小テストの範囲を復習する。	
	事後学習 60分	ノートをまとめ、復習する　小テストの間違えを復習する。	
13	まとめと復習⑤	安全のための注意点　小テスト　答え合わせ　精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 60分	小テストの範囲を復習する。	
	事後学習 60分	小テストの間違えを中心に、復習をする。授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
14	総括	全体の振り返りと学修成果確認　9種の精油の嗅ぎ分け	
	事前学習 300分	前学期全体の学習内容を振り返り、知識を確認する。	
	事後学習 90分	定期試験に備え、小テストで間違えたところを中心に見直しをして、学習を定着させる。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
アロマテラピー演習	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	演習	2	久保田（くぼた） 裕子（ひろこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
検定合格を目指す学生は前学期概論履修を、資格を必要としない場合も、概論履修者が望ましい。	該当なし	6・7,12

授業の概要

はじめに、アロマテラピー概論で学んだ基礎知識を活かし、日用品を作成する。精油を用途に応じて選べるように学び、作成物を実際に使用して、考察をすることで、日常生活や仕事に活かせる応用力を身につける。次に、販売するために必要な関連法規や製品開発のポイントなどを学ぶ。班員で製品開発をおこない、資料を作成し、発表をすることで、実践力を身につける。アロマテラピー検定2級の合格を目指すこともできる。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下の項目の総合評価とする。 (1)レポート　(70%) (2)取り組み姿勢　(30%)	(1)の再提出をすることにより点数が更新される。 再評価は(1),(2)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・アロマテラピーの基礎を総合的に理解して使用法、注意点などが適切に説明できるようになる。【DP1:知識・技能】
・状況に応じて、精油を選択し、ブレンドができ、適切な提案・説明ができるようになる。【DP1:知識・技能】
・作成物を活用した考察に加え、応用し、独自のアイディアや提案をレポートに記述できるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・班員に配慮しつつ、コミュニケーションをとりながら、オリジナル製品を提案できるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】
・積極的にプレゼンテーションの準備に取り組み、魅力的な発表ができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】
・プレゼンテーションの準備に取り組み、積極的に魅力的な発表ができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・アロマテラピーの基礎を総合的に理解して使用法、注意点などが説明できるようになる。【DP1:知識・技能】
・状況に応じて、精油を選択し、ブレンドができ、説明ができるようになる。【DP1:知識・技能】
・作成物を活用した考察に加え、応用のためのアイディアや提案をレポートに記述できるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・班員に配慮しつつ、コミュニケーションをとりながら、オリジナル製品を提案できるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】
・積極的にプレゼンテーションの準備に取り組み、魅力的な発表ができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】
・プレゼンテーションの準備に取り組み、魅力的な発表ができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・アロマテラピーの基本的事項について説明できるようになる。【DP1:知識・技能】
・用途に応じて精油を選択し、ブレンドができるようになる。【DP1:知識・技能】
・作成物を活用して考察し、関連することを調査し、まとめることができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
・班員とコミュニケーションをとりながら、オリジナル製品を考案し、プレゼンテーションの準備をし、発表ができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・アロマテラピーの基本的事項について理解ができる。【DP1:知識・技能】
・用途に応じた精油が選択できるようになる。【DP1:知識・技能】

教科書

概論で使用した書籍（公社）日本アロマ環境協会：『アロマテラピー検定テキスト』（2020年6月改訂版）　2,640円

参考書・資料

授業中に説明する。

教科書以外にかかる費用(自己負担)

演習材料費　1000円（税込）　　／　　【希望者】アロマテラピー検定　受験料　6,600円（税込）

課題に対するフィードバック

レポートを添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業前半は、精油と基材を実際に使用して作成物を作って使用しながら身につけていく。
・毎回レポートを作成し、次回授業の前に提出をする。欠席の場合はシラバスの内容について、テキストの範囲をまとめて提出をする。
・授業後半は、作成したものを参考にして、製品化することを班ごとに協力して行う。
・授業の順番、内容を変更する場合がある。
・私語および、携帯電話の使用を禁止する（活用する場合は指示する）。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
アロマテラピー演習	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	演習	2	久保田 裕子	単 独	6・7,12

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス	前期の復習　芳香浴を体験　9種の精油の復習	
	事前学習 90分	シラバスに目を通す　概論で学んだことを復習をする。	
	事後学習 90分	芳香浴法についてまとめ、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
2	前期の復習　芳香浴を体験　9種の精油の復習	精油を効果的に使用する方法　沐浴法の部分浴 手浴法の他、吸入法、フェイシャルスチーム法、湿布法　デモとまとめ　製品開発について	
	事前学習 60分	芳香浴法以外の利用法の復習をする。作成したい製品について考え、記載しておく。	
	事後学習 60分	授業の復習をし、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
3	安全のための注意点Ⅰ	精油を効果的に使用する方法を学ぶ　ルームスプレーを作成	
	事前学習 60分	使用する人による注意点の復習をする。作成物をどの精油を何の目的で選ぶのが良いかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
4	安全のための注意点Ⅱ	入浴と精油の相乗効果を得る　バスソルトを作成	
	事前学習 60分	入浴の健康効果について調べ、沐浴後の心身の変化についてまとめる。作成物をどの精油を何の目的で選ぶかを予習しレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
5	暮らしに活かすⅠ	素材を活かして発泡入浴剤を作成	
	事前学習 60分	その他の素材について復習する。作成物をどの精油を何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
6	暮らしに活かすⅡ	肌から精油の作用を活かすボディージェルを作成	
	事前学習 60分	水性の素材について復習する。作成物をどの精油を何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
7	基材論Ⅰ	ハーブの効果を活かしたハーブソープを作成	
	事前学習 60分	精油の安全性について復習する。作成物をどの精油で何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用して考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
8	基材論Ⅱ	精油の抽出時に得られる蒸留水で作るスキンローション	
	事前学習 60分	精油の製造法について復習する。作成物をどの香りで何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用して考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
9	基材論Ⅲ	植物油と天然素材で作る保湿クリーム	
	事前学習 60分	植物油について復習する。作成物をどの精油で何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
10	関連法規、販売戦略	製作・販売にあたっての関連法規や販売戦略について 作成物について各自発表後、制作グループ分け	
	事前学習 60分	これまでの復習をし、不明点が無いか確認する。①製品化するものを何にするか ②どのような物にしたいかについて考えまとめる。	
	事後学習 90分	関連法規を踏まえ、製品化するものを再考し、より具体的に何を作りたいかを考え、調べ、レポートをまとめる。	
11	製品開発	製品を販売する時に必要な準備　消費者に選んでもらうには何が必要か	
	事前学習 90分	作成したい製品について、授業で学んだことを踏まえ、より具体的に考えて情報収集をし、レポートにまとめ、発表に備える。	
	事後学習 90分	授業で学んだこと、グループで話し合ったことをもとに、より具体的に製品について考え、調べてレポートに記載をする。	
12	製品開発	パワーポイント作成、商品発表準備	
	事前学習 90分	製品作成に向けて準備、情報収集をする。	
	事後学習 90分	製品作成に向けて準備、情報収集をする。	
13	発表練習と改良点確認	発表準備、最終確認　事前発表	
	事前学習 90分	関連情報を収集し、発表の準備をする。	
	事後学習 90分	事前発表時の意見をふまえ、本発表に向けて最終確認をする。	
14	発表・総括・振り返り	発表・考察　レポートのまとめ	
	事前学習 90分	関連情報を収集し、発表の準備をする。	
	事後学習 60分	発表の振り返りをする。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
子どもの福祉	生活デザイン専攻	卒業必修	1・2年 前学期	講義	2	川上（かわかみ） 美子（よしこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	長年保育者養成の大学で保育士資格、幼稚園教諭免許取得の授業や保育・施設実習を担当した。自身の保育現場の実践経験も活かし講義をする。	3,11,12,14,15,16

授業の概要

子どもの福祉の理念は、子どもが心身ともに健やかに生まれ、育てられ、日々生活が保障されることである。子ども家庭福祉と社会的養護の現状と課題を知り、家庭・地域における子育て支援、実践機関・児童福祉施設の役割と働きについて学ぶ。また、子どもの時期はその後の人生のあり様を方向づける大切な時期である。特に、生涯にわたる人間形成の基礎を培う乳幼児期の保育と発達についても、合わせて学ぶ。自分の子ども時代を振り返る、幼稚園での子どもの生活と遊びのDVD活用、実践に携わっている講師の出前講義を取り入れ、理解を深める。自分で課題を見つけ、調査研究・見学など行い、その成果を授業で発表する。子ども家庭福祉の問題は、今の時代、だれにも起こりうることでもある。それゆえ、他人事ではなく、自分に引き寄せ、当事者の意識をもって取り組んでほしい。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(4)の項目の総合評価とする。 (1)受講態度（10%） (2)課題の発表（10%） (3)ワークシート（40%） (4)定期試験（筆記試験）（40%）	再試験は(4)の定期試験(筆記試験)の再実施により点数が更新される。 再評価は(1)～(4)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

子どもの福祉と社会的養護の現状と課題を理解し、自身の表現で説明できる。乳幼児の発達とその育ちを支える保育、こども理解、保育環境について理解し、自身の表現で説明できる。問題意識をもってさらに学ぼうとする。他者との話し合いにおいて、互いに理解が深まるように配慮し、広い視野に立って自分の考えを述べることができる。研究課題について自身の目標を設定して学び、問いを設定し自ら探求できた。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性・多様性・協働性】

到達（成績評価A）目標

子どもの福祉と社会的養護の現状と課題を理解し、説明できる。乳幼児の発達とその育ちを支える保育、こども理解、保育環境について理解し、説明できる。他者との話し合いにおいて、多様な考えを取り入れて深め、自分の考えを説明することができる。研究課題について自身の目標を設定して学び、問いを考え、説明できた。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性・多様性・協働性】

到達（成績評価B）目標

子どもの福祉と社会的養護の現状と実際と課題についての理解が不十分なところもあるが、概ね説明できる。乳幼児の発達とその育ちを支える保育、こども理解、保育環境についての理解が不十分なところもあるが、概ね説明できる。研究課題について自身の目標を設定して学び、問いを考えることができた。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性・多様性・協働性】

単位取得（成績評価C）目標

子どもの福祉と社会的養護の現状と課題についての理解が乏しいところもあるが、自身の考えを不十分ながら説明できる。乳幼児の発達とその育ちを支える保育、こども理解、保育環境についての理解が乏しいところもあるが、自身の考えを不十分ながら説明できる。研究課題について自身の目標を設定して学ぶことができた。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性・多様性・協働性】

教科書

山田勝美・艮　香織編著：『新版 子ども家庭福祉（第2版）』　建帛社　　¥2,530

参考書・資料

特になし

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

授業で学んだことや課題について毎回ワークシートを作成し、自己評価、教員の添削指導を行う。毎回の授業で重要な事柄を確認し、知識の確かな習得を図る。

履修上の注意・備考・メッセージ

・意欲的に授業に取り組んでほしい。
・携帯電話・スマートフォンの操作を禁じる。
・新聞やテレビなど子どもの福祉や保育に関する記事やニュースに関心を持ってほしい。
・自分でよく考え、グループ討議では積極的に話し合い視野を広げてほしい。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
子どもの福祉	生活デザイン専攻	卒業必修	1・2年 前学期	講義	2	川上 美子	単独	3, 11, 12, 14, 15, 16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	現代社会と子ども	子どもを取り巻く社会状況	
	事前学習20 分	シラバスを読む。教科書「今、私たちの社会で進行していること」を読み、自分の考えをまとめておこう。	
	事後学習15 分	授業で学び、深めたことを復習する。	
2	子ども家庭福祉とは	子どもの人権と子ども家庭福祉ー理念と概念	
	事前学習15 分	教科書の該当するところをよく読んでおく。	
	事後学習15 分	授業内容を復習し、理解を深める。	
3	保育を学ぶ意義	命の大切さ、子どもという存在、育つこと・育てること	
	事前学習15 分	自分にとって子どもとは。子どもの時楽しかったこと・嫌だったことを思い起こす。	
	事後学習15 分	自分の誕生の時の話を聞く。保育を学ぶ意義を確認する。	
4	子どもの心身の発達	子どもの発達の特性と発達過程	
	事前学習15 分	事前に配布した資料を読み、乳幼児期の重要性を知ろう。	
	事後学習20 分	生理的早産と養育について、子どもの精神発達について復習する。	
5	子どもを育てる	愛着と信頼感の形成、養護態度の重要性、家庭教育	
	事前学習15 分	自分の家庭の教育で、大切にされていたことを思い出そう。	
	事後学習20 分	配布した資料や教科書を読み、授業内容を復習する。	
6	子どもの生活と遊び	子どもの生活習慣の形成、遊びの意義　研究課題の設定	
	事前学習15 分	子ども時代の遊びについて、楽しかったことなど思い出してみよう。	
	事後学習30 分	遊びの意義、遊びの大切さを復習する。	
7	保育の実際	幼稚園の子どもの生活・遊びの姿を知り、保育の実際を学ぶ	
	事前学習15 分	幼稚園や保育園での生活や遊びについて、印象に残っていることを思い出してみよう。	
	事後学習20 分	保育の実際を知り、修得した内容を確認する。	
8	母子保健と福祉・子育て不安	妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援と母子保健対策	
	事前学習20 分	母子保健法、特定妊婦、こども家庭センターについて事前に調べておく。	
	事後学習20 分	配布した資料を読み、学んだことを復習する。	
9	子ども虐待とドメスティック・バイオレンス	子ども虐待とDVの実情と支援体制	
	事前学習20 分	子ども虐待、DV、教科書の該当するところを読んでおく。	
	事後学習15 分	授業で学んだことを復習し、自分の考えを深める。	
10	子どもの貧困・社会的養護	子どもの貧困、社会的養護の定義と実施体系	
	事前学習20 分	教科書の該当するところを読んでおく。	
	事後学習20 分	授業で学んだことを復習し、自分の考えをを深める。	
11	子ども家庭福祉の制度と実施体系　研究課題1	児童福祉六法、こども基本法と子ども家庭福祉の法律、子ども家庭庁と実施体系	
	事前学習20 分	教科書の該当するところを読んでおく。	
	事後学習20 分	配布した資料を読み返し、復習する。研究課題のテーマを決める。	
12	保育支援と児童福祉施設　　研究課題2	保育所、幼稚園、認定こども園、地域子育て支援　障がいのある子どもと家族の支援 課題の研究方法等を考える。	
	事前学習20 分	教科書の該当するところを読んでおく。研究課題の進め方を考える。	
	事後学習30 分	授業内容を復習し、理解を深めよう。設定した研究課題について調べる。	
13	地域の子育て支援・自立援助ホームの実態　研	出前講義　　研究課題の発表資料を作る	
	事前学習15 分	地域の子育て支援や高校生や高校卒業後すぐの年齢で、家庭からの支援がなしで自活するとき、どのような課題があるか考えてみよう。研究課題の内容をまとめておく。	
	事後学習30 分	配布された資料をもとに復習する。講義の感想をまとめる。研究課題の発表資料を完成させる。	
14	これからの家庭福祉と保育　研究課題4	研究課題の発表	
	事前学習20 分	研究課題を発表するにあたり、限られた時間で何を重点に述べるか、聞く側にわかりやすい発表の仕方などを考える。	
	事後学習20 分	研究発表により、何を学んだのか振り返る。発表後の質疑応答を踏まえ、さらに学修したいことは何かを考える。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
介護概論	生活デザイン専攻（社主事）	卒業必修	2年 前学期	講義	2	中野（なかの） 都（みやこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
教科書購入者	居宅介護支援事業所の在職経験を有した教員より、介護に対する基本的な知識及び介護支援全般について学ぶ。	15,17

授業の概要

高齢化の急速な伸びと同時に、寝たきりや認知症といった要介護者の増加が顕著となっている現代社会においては、介護を社会的に支援する必要がある。高齢者の身体的特性及び心理を学び、介護の役割と範囲を理解し、看護・医療及び家政との関係を具体的な展開過程を活用して考える。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)定期試験（筆記試験）(50%) (2)授業内レポート(30%) (3)受講態度(20%)	再試験は(1)の筆記試験を実施し、点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

介護に対する十分な知識を得た上で、介護と自分を関係づけ、積極的に行動することができるようになる。
1．講義で学ぶ理論と在宅・施設介護現場の課題把握を通して、「介護」とは何かについて論理的に理解しており、自身の表現で説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2．介護の理念について十分に理解を深め、日常生活において支援が必要な高齢者に対して自ら積極的な援助活動ができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

介護に対する知識を得た上で、介護と自分を関係づけ、積極的に行動することができるようになる。
1．講義で学ぶ理論と在宅・施設介護現場の課題把握を通して、「介護」とは何かについて論理的に理解して説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2．介護の理念について理解を深め、日常生活において支援が必要な高齢者に対して積極的な援助活動ができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

介護に対する基本的な知識を得た上で、介護と自分を関係づけ、行動することができるようになる。
1．講義で学ぶ理論と在宅・施設介護現場の課題把握を通して、「介護」とは何かについて論理的な理解が不足するところもあるが、概ね説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2．介護の理念について理解し、日常生活において支援が必要な高齢者に対して援助活動ができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

介護に対する基本的な知識を得た上で、介護と自分を関係づけることができる。
1．講義で学ぶ理論と在宅・施設介護現場の課題把握を通して、「介護」とは何かについて論理的な理解には乏しいが、関連する用語は述べられるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2．介護の理念について概ね理解し、日常生活において支援が必要な高齢者に対して援助活動を行う心構えを持つ。【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

菊池信子編著：『福祉実践をサポートする介護概論 第2版』 保育出版社 （最新版） ￥2,619

参考書・資料

適宜資料を配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

提出課題は添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

1．高齢者介護に関する新聞記事やニュースに常に関心をもち、介護に対する意識を高め、資料収集する。
2．授業中は携帯電話の使用及び私語は禁止する。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
介護概論	生活デザイン専攻（社主事）	卒業必修	2年 前学期	講義	2	中野 都	単独	15, 17

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	介護の概念（１）	介護の理念と定義	
	事前学習 15分	シラバス及び教科書の該当ページを読み、授業内容を把握する。	
	事後学習 30分	介護の理念と定義について確認する。	
2	介護の概念（２）	介護の対象	
	事前学習 30分	介護の対象について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	介護の対象者について復習する。	
3	高齢者の全体像（１）	高齢者の身体的特性	
	事前学習 30分	加齢に伴う身体的変化について調べる。	
	事後学習 30分	高齢者の身体的特性について復習する。	
4	高齢者の全体像（２）	高齢者の心理的特性	
	事前学習 30分	高齢者の心理的特性について調べる。	
	事後学習 30分	高齢者の心理的特性について復習する。	
5	高齢者の生活実態の把握（１）	生活（衣食住）の実態	
	事前学習 30分	高齢者の生活実態について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考える。	
6	高齢者の生活実態の把握（２）	介護の社会化	
	事前学習 30分	介護の社会化について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 60分	高齢化の推移と介護の社会化についてまとめる。	
7	高齢者の生活実態の把握（３）	介護保険制度	
	事前学習 30分	介護保険の申請方法及びサービス内容について調べる。	
	事後学習 30分	介護保険制度の概要をまとめる。	
8	高齢者の生活実態の把握（４）	介護の実態と課題	
	事前学習 30分	介護の実態と課題について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 60分	介護の実態を確認し、課題解決に向けての取り組みについて理解する。	
9	高齢者の生活実態の把握（５）	寝たきり高齢者の実態	
	事前学習 30分	寝たきりに高齢者の課題について考える。	
	事後学習 30分	寝たきり高齢者の生活実態を理解し、意向に沿った介護について考える。	
10	高齢者の生活実態の把握（６）	認知症高齢者の実態	
	事前学習 30分	認知症高齢者の課題について考える。	
	事後学習 30分	認知症高齢者の生活実態について理解し、意向に沿った介護について考える。	
11	介護を支える技術	生活行為を成立させるための技術・家事機能を維持拡大する生活技術	
	事前学習 30分	介護を支える技術について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考える。	
12	介護の過程　在宅における介護	ケアマネジメントの必要性　在宅援助の基本　福祉住環境整備の重要性	
	事前学習 30分	介護の過程・在宅における介護について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	利用者や家族の意向を重視したケアマネジメントとは何かを考える。	
13	施設における介護	施設介護の役割、機能	
	事前学習 30分	高齢者施設の種類を調べる。	
	事後学習 60分	高齢者施設における介護の役割と機能とは何かを考える。	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習 60分	前学期全体の学習内容を振り返り、介護の全体像を把握する。	
	事後学習 60分	介護について学んだことをどのような場で活かせるかを考える。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
社会福祉概論（生デ）	生活デザイン専攻（社主事）	卒業必修	1年 前学期	講義	2	中野（なかの） 都（みやこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
教科書購入者	居宅介護支援事業所の在職経験を有した教員より、社会福祉の理念、制度、保健・医療・福祉・介護等の関係専門職との連携・協働の必要性について学ぶ。	15

授業の概要

生活するとはどういうことなのか、生活する上で社会福祉はどのように関与しているかについて基本的な考え方・理念を学ぶとともに、具体的な援助活動の特性を理解する。社会福祉サービスの多様化・専門化が進んでいる現代社会では、保健・医療・福祉・介護等の関係専門職との連携・協働が必要であることを理解し、社会福祉に携わる専門職種について認識する。

成績評価方法

以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。
(1)定期試験（筆記試験）(60%)
(2)授業内レポート(20%)
(3)受講態度(20%)

再評価の成績評価方法

再試験は(1)の筆記試験を実施し、点数が更新される。
再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

社会福祉の十分な知識を得た上で、生活の視点で履修生一人ひとりが社会福祉について自分との関係を考え、地域福祉の担い手であることを認識し、積極的に行動することができるようになる。
1．一社会人としてわが国の社会保障制度について十分な知識を身につけることができるようになる。【DP1：知識・技能】
2．社会福祉の知識を基礎にして、地域福祉の基本的な概念について、自分の具体的な経験と結び付けて論理的な説明ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3．社会福祉サービスの多様性・専門性と保健・医療・福祉・介護の分野との連携・協働の重要性について自身の表現で説明できるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

社会福祉の知識を得た上で、生活の視点で履修生一人ひとりが社会福祉について自分との関係を考え、地域福祉の担い手であることを認識し、行動することができるようになる。
1．一社会人としてわが国の社会保障制度について知識を身につけることができるようになる。【DP1：知識・技能】
2．社会福祉の知識を基礎にして、地域福祉の基本的な概念について、自分の具体的な経験と結び付けて説明できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3．社会福祉サービスの多様性・専門性と保健・医療・福祉・介護の分野との連携・協働の重要性について説明できるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

社会福祉の基本的な知識を得た上で、生活の視点で履修生一人ひとりが社会福祉について自分との関係を考え、地域福祉の担い手であることを認識し、行動することができるようになる。
1．一社会人としてわが国の社会保障制度について基礎的な知識を身につけることができるようになる。【DP1：知識・技能】
2．社会福祉の知識を基礎にして、地域福祉の基本的な概念について、自分の具体的な経験と結び付けて自分なりに説明できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3．社会福祉サービスの多様性・専門性と保健・医療・福祉・介護の分野との連携・協働の重要性について概ね説明できるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

社会福祉の基本的な知識を得た上で、生活の視点で履修生一人ひとりが社会福祉について自分との関係を考え、地域福祉の担い手であることを認識することができるようになる。
1．一社会人としてわが国の社会保障制度について基礎的な知識を身につけることができるようになる。【DP1：知識・技能】
2．社会福祉の知識を基礎にして、地域福祉の基本的な概念について、考えることができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3．社会福祉サービスの多様性・専門性と保健・医療・福祉・介護の分野との連携の重要性について、考えることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

小野澤昇・島田肇編著：『三訂　はじめて学ぶ社会福祉』 建帛社（2024）￥2,310

参考書・資料

厚生労働省：『厚生労働白書』（最新版）
社会福祉法規研究会：『社会福祉六法』 新日本法規出版（令和6年版）￥7,480

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題は添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

1．講義を受けるだけでなく新聞、テレビなど社会福祉に関係する記事やニュースに常に関心をもつこと。
2．授業中のスマートフォンの使用及び私語は禁止する。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
社会福祉概論（生デ）	生活デザイン専攻（社主事）	卒業必修	1年 前学期	講義	2	中野 都	単独	15

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	社会福祉とは（1）	社会福祉の理念	
	事前学習 20分	シラバス及び社会福祉の理念について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会福祉の理念について復習する。	
2	社会福祉とは（2）	社会福祉の歴史	
	事前学習 30分	社会福祉の歴史について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会福祉の歴史について復習し、現在に至るまでの過程を確認する。	
3	社会福祉制度（1）	子どもの福祉	
	事前学習 30分	子どもの福祉について、教科書の該当ページを読む。子どもの福祉について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	自分の誕生から現在までに経験した社会福祉サービスおよび社会保障制度について確認する。	
4	社会福祉制度（2）	障がい者の福祉	
	事前学習 30分	障がい者の福祉について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	障がい者の福祉に関する法規について確認する。	
5	社会福祉制度（3）	高齢者の福祉	
	事前学習 30分	高齢者の福祉について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	高齢者福祉に関する課題を整理する。	
6	社会福祉制度（4）	貧困と福祉、生活保護制度	
	事前学習 30分	貧困と福祉について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	生活保護制度がセーフティネットであることを確認する。	
7	社会保障とは（1）	社会保障の概念	
	事前学習 30分	社会保障の概念について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会保障と自分との関係性について確認する。	
8	社会保障とは（2）	わが国の社会保険制度	
	事前学習 30分	わが国の社会保険制度について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会保険制度について復習し、次週の出前講座の質問事項を考える。	
9	社会保障とは（3）	江戸川年金事務所出前講座	外部講師
	事前学習 30分	年金保険制度について見直しておく。	
	事後学習 60分	出前講座で学んだことをまとめる。	
10	地域福祉の推進	地域福祉の推進主体と諸活動	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 60分	自分の居住地の地域福祉の課題を考える。	
11	社会福祉の課題と動向（1）	日本の動向	
	事前学習 30分	社会福祉の課題と動向（日本）について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	日本が抱える社会福祉の課題と動向を考える。	
12	社会福祉の課題と動向（2）	世界の動向	
	事前学習 30分	社会福祉の課題と動向（世界）について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	世界が抱える社会福祉の課題と動向を考える。	
13	保育・教育・療育・保健・医療等の連携とネットワーク	社会福祉の専門職	
	事前学習 30分	社会福祉の専門職について、調べる。	
	事後学習 30分	社会福祉に関わる専門職について、確認する。	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習 60分	前学期全体の学習内容を振り返り、社会福祉の全体像を把握する。	
	事後学習 60分	学習を定着させ、社会福祉について学んだことをどのような場で活かせるかを考える。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
介護食実習	生活デザイン専攻	選択	2年 前学期	実習	1	小田島（おだじま） 祐美子（ゆみこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	6・7,9,15

授業の概要

咀嚼機能や嚥下機能が低下した高齢者や障がい者の方は、食形態を調整しないと上手に食べる事ができない。本授業では、まず高齢者や障がい者の身体的、精神的特徴を理解する。さらにそれらに適した調理の基本技術をマスターするため、歯茎でつぶせる硬さのものからゼリー状の形状のものまで様々な形状のものを実習し、高齢者・障がい者に適した食事作りの実習を行う。実習毎に介護食としての調理の工夫点についてまとめる。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
（1）取り組み姿勢(40%) （2）実技(30%) （3）課題(30%) の総合評価	再試験は(3)の課題を再度実施し、再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

1.高齢者・障がい者の身体的、精神的特徴について論理的に理解し、自身の表現で詳細に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.安全で美味しい介護食の食事作りの知識を理解し、自身の表現で詳細に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3.安全で美味しい介護食の食事作りを、学んだ知識を意識しながら、役割に応じた責任を果たし、班員と協力して行うことができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

1.高齢者・障がい者の身体的、精神的特徴について理解し、詳細に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2.安全で美味しい介護食の食事作りの知識を理解し、詳細に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3.安全で美味しい介護食の食事作りを、学んだ基本知識を意識しながら、班員と協力して行うことができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

1.高齢者・障がい者の身体的、精神的特徴について理解し、概ね説明できるようになる。
2.安全で美味しい介護食の食事作りの基本知識を理解し、概ね説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3.高齢者・障がい者のための安全で美味しい食事作りを、班員と協力して行うことができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

1.高齢者・障がい者の身体的、精神的特徴について理解し、概要を述べることができるようになる。
2.安全で美味しい介護食の食事作りの基本知識について概ね理解し、概要を説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3.高齢者・障がい者のための安全で美味しい食事作りを、行うことができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

実習のテーマごとにプリントを配布する。

参考書・資料

必要に応じてプリントを配布する。

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題は添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業の内容と順番を変更する場合がある。
・欠席が事前にわかる場合は、事前に連絡をする。また、当日欠席する場合は、教員もしくは助手に連絡を入れる。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
介護食実習	生活デザイン専攻	選択	2年 前学期	実習	1	小田島 祐美子	単独	6・7,9,15

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス、調理実習基礎	ガイダンス、実習の目的、心得、包丁の持ち方、計量方法、出汁の取り方、塩味の比較（おにぎり）、野菜の切り方、	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。	
	事後学習 10分	高齢者にとっての食事の意味、献立を作る上で配慮すること、包丁の持ち方、野菜の切り方、計量、出汁のとり方について復習する。	
2	高齢者の軟菜食1	ユニバーサルデザインフードについて、介護用ゼラチンの使い方、 実習：ふわふわオムライス、いちごミルクゼリー	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	ユニバーサルデザインフードと介護用ゼラチンの使い方について復習する。ワークシートを完成させる。	
3	高齢者の軟菜食2	高齢者の食の支援：高齢者の食事の意味、献立を作る上で配慮すること	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	献立を作る上で配慮する点について復習する。ワークシートを完成させる。	
4	高齢者の軟菜食3	高齢者の食の支援：食事を作る上で配慮すること 実習：ご飯、豆腐饅頭、かぼちゃ羊羹	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	献立を作る上で配慮する点について復習する。ワークシートを完成させる。	
5	高齢者の軟菜食4	高齢者の食の支援：食欲がない時の対応、食事を作る上での留意点 実習：かつ丼、ヤクルトゼリーのにんじんソースかけ	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	食欲がない時の対応、食事を作る上での留意点について復習する。 ワークシートを完成させる。	
6	高齢者の軟菜食5	嚥下しやすくする工夫 実習：パン、クリームポタージュ、海老白菜ロール	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	嚥下しやすくする工夫について復習する。ワークシートを完成させる。	
7	高齢者の軟菜食6	咀嚼しやすくする工夫（材料の選び方） 実習：ピザトースト、栗のポタージュ、黄桃缶ゼリー	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	咀嚼しやすくする工夫（材料の選び方）について復習する。ワークシートを完成させる。	
8	予防食：減塩食	咀嚼しやすくする工夫（調理のポイント）、減塩の方法と調理の工夫 実習：ご飯、焼売、根菜汁	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	咀嚼しやすくする工夫（調理のポイント）、減塩の方法と調理の工夫について復習する。ワークシートを完成させる。	
9	予防食：便秘予防食	咀嚼しやすくする工夫（下ごしらえ）、便秘予防と調理の工夫 実習：ひじきご飯、おからの煮物、納豆汁、バナナとパイナップルのシェイク	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	咀嚼しやすくする工夫（下ごしらえ）、便秘予防と調理の工夫について復習する。ワークシートを完成させる。	
10	行事食：年越しそば	咀嚼しやすくする工夫（下ごしらえ、切り方） 実習：とろろそば、天ぷら、トマトサラダ	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	咀嚼しやすくする工夫（下ごしらえ、切り方）について復習する。ワークシートを完成させる。	
11	行事食：お正月料理	咀嚼しやすくする工夫（切り方） 実習：お雑煮、カステラのシロップ漬け	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	咀嚼しやすくする工夫（切り方）について復習する。ワークシートを完成させる。	
12	行事食：敬老の日の食事（立案）	「敬老の日」の食事の立案	
	事前学習 10分	行事食の献立とレシピについて考えてくる。	
	事後学習 20分	立案した献立について自宅で作成し、レシピを修正する。	
13	ムース食	嚥下について、介護用食器、食事介助の方法、ムース食について 実習：粥、味噌汁、焼き鮭、ほうれん草のおひたし、あんパン豆乳シェイク	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	嚥下について、介護用食器、食事介助の方法、ムース食について復習する。ワークシートを完成させる。	
14	行事食：敬老の日の食事（実習）	「敬老の日」の食事の実習テスト	
	事前学習 10分	作成する料理の手順について見直してくる。	
	事後学習 60分	実習のレポートを作成する。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
福祉住環境コーディネート概論	生活デザイン専攻	選択	2年 前学期	講義	2	山村（やまむら） 美保里（みほり）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
特になし	該当なし	11，16

授業の概要

身在宅介護の意義を社会的背景から理解し、体機能が低下しても在宅で過ごせるための知識、技能、家庭での実践に活かす能力を、福祉住環境コーディネーター3級のテキストを用いて基礎から学ぶ。知識の確認及び検定試験受験準備のために、毎回終了したテキスト範囲の練習問題を解く。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)受講態度(20%) (2)定期試験（筆記試験）(70%) (3)提出物(10%)	再試験は(2)の定期試験問題を解答することで評価する。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

高齢者や障がい者の生活全体を配慮した住環境に関する福祉、医療、建築の基礎知識とサービスや制度についての必要な知識を正確に理解し、自分の表現で説明できるようになる【DP1:知識・技能】。具体的な介護施設の事例記事の輪読から、現場で求められる機能や特徴を論理的に理解して、自らの意見を述べることができる【DP2:思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価A）目標

高齢者や障がい者の生活全体を配慮した住環境に関する福祉、医療、建築の基礎知識とサービスや制度についての必要な知識を正確に理解し、説明できるようになる【DP1:知識・技能】。具体的な介護施設の事例記事の輪読から、現場で求められる機能や特徴を理解して、自らの意見を述べることができる【DP2:思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価B）目標

高齢者や障がい者の生活全体を配慮した住環境に関する福祉、医療、建築の基礎知識とサービスや制度についての必要な知識を概ね理解し、説明できるようになる【DP1:知識・技能】。具体的な介護施設の事例記事の輪読から、現場で求められる機能や特徴を理解することができる【DP2:思考力・判断力・表現力等】

単位取得（成績評価C）目標

高齢者や障がい者の生活全体を配慮した住環境に関する福祉、医療、建築の基礎知識とサービスや制度について、概略を理解することができる【DP1:知識・技能】。具体的な介護施設の事例記事の輪読から、現場で求められる機能や特徴を部分的に理解することができる【DP2:思考力・判断力・表現力等】

教科書

『福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト』東京商工会議所（最新版）　購入時は、東京商工会議所検定試験情報参照
https://www.kentei.org/fukushi/　で最新版を確認すること。

参考書・資料

受験希望者は過去問題集を用意することを推奨する

教科書以外にかかる費用(自己負担)

福祉住環境コーディネーター検定試験3級 受験料

課題に対するフィードバック

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

・教科書は初回授業までに各自で購入しておく
・授業中の携帯電話の操作禁止
・私語厳禁

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
福祉住環境コーディネート概論	生活デザイン専攻	選択	2年 前学期	講義	2	山村 美保里	単独	11，16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス 暮らしやすい住環境を目指して(1)	少子高齢化社会と福祉	
	事前学習 30分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 30分	授業方針を確認する	
2	暮らしやすい住環境を目指して(2)	福祉住環境整備の重要性と必要性	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
3	暮らしやすい住環境を目指して(3)	在宅生活の維持とケアサービス	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
4	健康と自立を目指して(1)	照明の種類と役割　著名な照明のスケッチ	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
5	健康と自立を目指して(2)	照明計画	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン(1)	色彩の基礎と日本の伝統的色彩	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
7	バリアフリーとユニバーサルデザイン(2)	色彩計画	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
8	安全・安心・快適な住まい(1)	平面図の基礎	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
9	安全・安心・快適な住まい(2)	平面図に家具を描き入れる　これまでの学習の確認	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
10	安全・安心・快適な住まい(3)	与えられた課題に対してコーディネートを考える	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
11	住生活とまちづくり(1)	プレゼンテーションの内容を検討する	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
12	住生活とまちづくり(2)		
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
13	住生活とまちづくり(3)		
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
14	総復習と福祉住環境の今後の展望	発表会と振り返り	
	事前学習 30分	これまでの小テストを確認する	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
医療事務サービス論	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	講義	4	内藤（ないとう） 麻紀（まき）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
技能認定振興協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とし、全14回の授業に参加する者（遅刻・欠席・早退不可）	該当なし	－

授業の概要

豊かなコミュニケーション力を活かし、医療事務スタッフとして主体的に業務に参画できるようになるために、医療保険制度を基礎から学習し、専門職としての知識を身につける。主に、医療機関が診療行為によって発生する費用を請求する際に作成する、レセプト（請求のための用紙）の書き方と請求費用の計算方法について学習する。書き方と計算方法は「注射」「手術」「検査」など医療行為によって異なるため、行為ごとに学び、医療事務に関する専門知識・技能を仕事での実践に活かせるようになる。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下（1）～（3）の総合評価とする。 （1）13回分のレポート提出と添削内容（50%） （2）受講態度（25%） （3）定期試験（筆記試験）（25%）	再試験は(3)の筆記試験を実施し、点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・診療報酬請求の算定方法並びにレセプトの書き方について、総合的な知識を有し、レセプトの記述ができるようになる。【DP1:知識・技能】
・医療機関で事務員として働くために必要な知識を十分に身につけ、実践できるようになる。【DP1:知識・技能】
・受講態度が良好で、学習成果確認のための試験の点数が90%以上の者。且つ、全13回のレポート全て80%以上の成績であること。【DP1:知識・技能】
・技能認定振興協会の主催する「医療事務管理士技能認定試験」の合格に必要な知識を有し、具体的に説明したり、記述できるようになる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価A）目標

・診療報酬請求の算定方法並びにレセプトの書き方について、総合的な知識を有し、レセプトの記述ができるようになる。【DP1:知識・技能】
・医療機関で事務員として働くために必要な知識を十分に身につけ、実践できるようになる。【DP1:知識・技能】
・受講態度が良好で、学習成果確認のための試験の点数が80%以上の者。且つ、全13回のレポート全て70%以上の成績であること。【DP1:知識・技能】
・技能認定振興協会の主催する「医療事務管理士技能認定試験」の合格に必要な知識を有し、具体的に説明したり、記述できるようになる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価B）目標

・診療報酬請求の算定方法並びにレセプトの書き方について、基本的な知識を有し、レセプトの解釈ができるようになる。【DP1:知識・技能】
・医療機関で事務員として働くために必要な知識を十分に身につけ、使用できるようになる。【DP1:知識・技能】
・受講態度が良く、学習成果確認のための試験の点数が70%以上の者。且つ、全13回のレポート全て60%以上の成績であること。【DP1:知識・技能】
・技能認定振興協会の主催する「医療事務管理士技能認定試験」の受験に必要な知識を有し、基本的事項の説明、記述できるようになる。【DP1:知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

・診療報酬請求の算定方法並びにレセプトの書き方について、基本的な知識を有し、レセプトの解釈ができるようになる。【DP1:知識・技能】
・医療機関で事務員として働くために必要な知識を十分に身につけ、使用できるようになる。【DP1:知識・技能】
・受講態度が良く、学習成果確認のための試験の点数が60%以上の者。且つ、全13回のレポート全て50%以上の成績であること。【DP1:知識・技能】
・技能認定振興協会の主催する「医療事務管理士技能認定試験」の受験に必要な知識を有し、基本的事項の説明、記述できるようになる。【DP1:知識・技能】

教科書

株式会社ソラスト作成　医療事務講座テキスト一式￥19,690（税込み・学校にて注文）

参考書・資料

必要に応じてプリント配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

医療事務管理士技能認定試験を受験する場合は、別途費用が掛かります。

課題に対するフィードバック

課題は添削の後、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・毎回の授業で新しいことを学ぶため、各授業での内容を理解した上で次の授業に臨むこと。
・教材を使い、各自、授業内容の理解に努めること。
・毎回、レポートを課すので、次回の授業までに作成すること。
・資格試験に合格することを目標とするため、全14回の参加を求める。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
医療事務サービス論	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	講義	4	内藤 麻紀	単 独	－

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	医療制度と請求事務	病院概要・保障制度・請求事務の基本・レセプト（請求用紙）の基礎	
	事前学習 5分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 30分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
2	点数算定の原則・診察料(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 30分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
3	診察料(2)・医学管理(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 30分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
4	医学管理(2)・在宅医療	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 30分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
5	投薬(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
6	投薬(2)・注射	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
7	処置(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
8	処置(2)・リハビリテーション・検査(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
9	検査(2)・病理診断	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
10	手術	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
11	麻酔・画像診断(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
12	画像診断(2)・精神科専門療法・放射線治療	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
13	入院	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
14	他制度・レセプトの点検	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
医療事務サービス演習	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	演習	2	中野（なかの） 都（みやこ）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
生活デザイン専攻科目の「医療事務サービス論」履修者	該当なし	16

授業の概要

「医療事務の基礎知識」「点数算定とレセプトの書き方」「公費負担医療、その他の制度」について、医療事務の授業内容をわかりやすく解説し、点数算定の方法を整理・復習し、医療事務管理士技能認定試験に合格できる力を身につける。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)定期試験（筆記試験）(50%) (2)演習課題(30%) (3)受講態度(20%)	再試験は(1)の筆記試験を実施し、点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・各診療報酬の算定方法を十分に理解し、ミスなく確実に計算できるようになる。【DP1：知識・技能】
・医療事務管理士技能認定試験学科及び実技に合格できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・「外来」「入院」のレセプト作成及び「レセプト点検」問題を自ら積極的に計画して取り組むことができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・各診療報酬の算定方法を理解し、ミスなく確実に計算できるようになる。【DP1：知識・技能】
・医療事務管理士技能認定試験学科及び実技に合格できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・「外来」「入院」のレセプト作成及び「レセプト点検」問題を自ら計画的に取り組むことができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・各診療報酬の算定方法を理解し、概ねミスなく計算できるようになる。【DP1：知識・技能】
・医療事務管理士技能認定試験学科及び実技に合格できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・「外来」「入院」のレセプト作成及び「レセプト点検」問題を自ら取り組むことができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・各診療報酬の算定方法を理解し、計算できるようになる。【DP1：知識・技能】
・医療事務管理士技能認定試験学科に合格できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・「外来」「入院」のレセプト作成及び「レセプト点検」問題を自ら取り組むことができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

株式会社ソラスト作成　医療事務講座テキスト一式 ¥19,690（学校にて注文）

参考書・資料

社会保険研究所　医科診療報酬点数表　令和6年6月版

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

課題は添削ののち、各自に返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

医療事務管理士技能認定試験に合格するためには、「医療事務サービス論」の授業内容を確実に理解し、練習問題、過去問題をこなし、着実に学習を進める必要がある。「医療事務サービス論」の授業内容をわかりやすく解説し、一問でも多くの練習問題、過去問題に取り組み、合格に向けての勉強方法も指導していくので、欠席、遅刻、早退のないよう、授業に臨むこと。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
医療事務サービス演習	生活デザイン専攻	選択	1年 後学期	演習	2	中野 都	単独	16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	医療保障制度	医療機関・医療保障制度・保険給付及び医療事務管理士技能認定試験勉強について	
	事前学習 5分	シラバスを読み、「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	医療保障制度の練習問題に取り組む。	
2	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（１）	医療事務の基礎知識　初・再診料	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	医療事務の基礎知識、初・再診料の練習問題に取り組む。	
3	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（２）	医学管理	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	医学管理の練習問題に取り組む。	
4	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（３）	在宅医療	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	教科書の練習問題に取り組む。	
5	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（４）	投薬	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 120分	トレーニングブック1～2号のレセプトを作成する。	
6	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（５）	注射	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 180分	トレーニングブック3～5号のレセプトを作成する。	
7	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（６）	処置	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	トレーニングブック6号のレセプトを作成する。	
8	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（７）	リハビリテーション・検査（1）	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 180分	トレーニングブック7～9号のレセプトを作成する。	
9	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（８）	検査	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	トレーニングブック10号のレセプトを作成する。	
10	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（９）	病理診断・手術・麻酔	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 120分	トレーニングブック11～12号のレセプトを作成する。	
11	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（10）	画像診断	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 180分	トレーニングブック13～15号のレセプトを作成する。	
12	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（11）	精神科専門療法・放射線治療	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	教科書の練習問題に取り組む。	
13	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（12）	入院	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 360分	トレーニングブック16～20号のレセプトを作成する。	
14	点検・まとめ	レセプトの点検	
	事前学習 180分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習し、後学期の学習内容を振り返る。	
	事後学習 180分	学習内容を把握し、医療事務管理士技能認定試験に臨む。	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
商品開発・企画演習	生活デザイン専攻	卒業必修	2年 後学期	演習	4	木林（きばやし）、中野（なかの）、山村（やまむら）、米山（よねやま）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
①卒業予定年次に履修すること ②卒業予定年次の前年度終了時点で、修得卒業要件単位数が31単位以上あること ③担当教員のテーマ関連科目を卒業予定年次の前学期までに履修しておくこと	該当なし	4,5,6・7,11,12,16

授業の概要

豊かで持続可能な生活を自らデザインし、提案・実践できるようになるために、2年前学期までに学修した、生活に関する専門的知識・技能及び豊かなコミュニケーション力を活かし、担当教員とディスカッションを行いながら、商品やサービスの企画を行い、開発する。演習のプロセスはPDCAサイクルに則り、創造的・具体的に計画を立てて実践する。プロセスと結果をレポートにまとめ、成果物とともに提出し、口頭発表を行う。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
下記項目を提出または参加した上で総合評価を行う。 (1)商品としての作品あるいは研究成果(40%) (2)レポート(40%) (3)口頭発表(20%)	再試験は(1)の商品としての作品あるいは研究成果及び(2)のレポートの再提出により点数が更新される。 (3)口頭発表をやむを得ない理由により発表できなかった場合のみ、再試験で評価される 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・2年生前学期までに学修した生活に関する専門的知識を十分に理解し技能を適切に用いて、自ら計画を立て、仕事や家庭での実践に活かすことができる。【DP1：知識・技能】
・豊かで持続可能な生活をデザインし提案できる能力を身につけるために、自らの作品制作や研究に積極的に取り組み、発展的に広げることができる。【DP1：知識・技能】
・最終的な作品の作成過程あるいは研究の目的・方法・結果を調査分析しまとめて発表し、完成度の高いレポートを提出することができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・豊かなコミュニケーション能力を活かし、担当教員とディスカッションを重ねながら主体的・積極的に演習を的確に進めることができ、生活経営や社会活動に主体的に参画できる能力を磨く努力ができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
・自分以外の企画に対して、効果的な助言や質問を積極的にすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

・2年生前学期までに学修した生活に関する専門的知識を理解し技能を適切に用いて、自ら計画を立て、仕事や家庭での実践に活かすことができる。【DP1：知識・技能】
・豊かで持続可能な生活をデザインし提案できる能力を身につけるために、自らの作品制作や研究に積極的に取り組むことができる。【DP1：知識・技能】
・最終的な作品の作成過程あるいは研究の目的・方法・結果をまとめて発表し、完成度の高いレポートを提出することができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・豊かなコミュニケーション能力を活かし、担当教員とディスカッションを重ねながら主体的・積極的に演習を進めることができ、生活経営や社会活動に主体的に参画できる能力を磨く努力ができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
・自分以外の企画に対して、効果的な助言や質問をすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

・2年生前学期までに学修した生活に関する専門的知識を理解し技能を用いて、自ら計画を立て、仕事や家庭での実践に活かすことができる。【DP1：知識・技能】
・豊かで持続可能な生活をデザインし提案できる能力を身につけるために、自らの作品制作や研究に取り組むことができる。【DP1：知識・技能】
・最終的な作品の作成過程あるいは研究の目的・方法・結果をまとめて発表し、レポートを提出することができる。【DP2：思考力・判断力、表現力等】
・豊かなコミュニケーション能力を活かし、担当教員とディスカッションを重ねながら演習を進めることができ、生活経営や社会活動に参画できる能力を磨く努力ができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
・自分以外の企画に対して、助言や質問をすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

・2年生前学期までに学修した生活に関する専門的知識・技能を用いて、仕事や家庭での実践に概ね活かすことができる。【DP1：知識・技能】
・豊かで持続可能な生活をデザインし提案できる能力を身につけるために、自らの作品制作や研究にサポートを受けながら取り組むことができる。【DP1：知識・技能】
・最終的な作品の作成過程あるいは研究の目的・方法・結果を不十分な状態であるため、サポートを受けながらまとめ、レポートを提出することができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
・担当教員の助言を受けながら演習を進めることができ、生活経営や社会活動に参画する努力ができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
・自分以外の企画に対して、助言や質問をすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

教科書

各教員の指示による。

参考書・資料

必要に応じてプリントを配布する。

教科書以外にかかる費用(自己負担)

作品制作および実験・実習を行うにあたり、学校で用意できる材料等以外で必要なものは、自己負担で準備する。

課題に対するフィードバック

・毎回各担当教員と意見交換することにより、細かい振り返りができ、次の作業に役立てることができる。

履修上の注意・備考・メッセージ

①学事日程により口頭発表の日を変更する場合がある。
②活動日は担当教員と相談のうえ、各自200分間14回の時間数を確保すること。
③欠席が事前にわかる場合あるいは当日欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をすること。
④授業開始前に手洗い等の準備をし、それぞれの身支度を整え準備を行う。
⑤口頭発表後、プロセスと結果をレポートにまとめ、成果物とともに提出する。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
商品開発・企画演習	生活デザイン専攻	卒業必修	2年 後学期	演習	4	木林、中野、山村、米山	単独	4,5,6・ 7,11,12,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	全体のオリエンテーション、担当教員とのディスカッション	オリエンテーション、担当教員との意見交換	担当教員全員
	事前学習 20分	シラバスや事前の説明から、自分が実施したい企画を考えてくる	
	事後学習 60分	各自の企画書作成準備を行う	
2	企画書作成(1)	担当教員とのディスカッション、企画書作成	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	担当教員とのディスカッション、企画書提出の準備	
	事後学習 60分	次回からの作品制作あるいは実験・実習の準備	
3	企画書作成(2)又は作品制作・実験・実習(1)	企画書の検討　作品制作あるいは実験・実習実施	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
4	作品制作・実験・実習(2)	作品制作あるいは実験・実習実施	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
5	作品制作・実験・実習(3)	作品制作あるいは実験・実習実施	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
6	作品制作あるいは実験・実習(3)	作品制作あるいは実験・実習実施	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
7	作品制作あるいは実験・実習(4)	作品制作あるいは実験・実習実施	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
8	作品制作あるいは実験・実習(5)	作品制作あるいは実験・実習実施	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
9	作品制作あるいは実験・実習(6)	作品制作あるいは実験・実習実施	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
10	作品制作あるいは実験・実習(7)	作品制作あるいは実験・実習実施	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
11	作品制作あるいは実験・実習(8)	成果物を仕上げる、最終発表の準備	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
12	作品制作あるいは実験・実習(9)	成果物を仕上げる、口頭発表の準備	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
13	授業の振り返り、口頭発表の準備	授業を振り返るための口頭発表の準備（成果物、レポートの確認準備）	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	成果物、レポートの準備、口頭発表のプレゼンテーション用スライドの作成及び練習	
	事後学習 60分	口頭発表とレポート提出の準備と確認、自分自身がこの演習を通してどれだけの能力がついたか、振り返る	
14	学修成果のまとめ	口頭発表、成果物、レポートの提出	ゼミ担当教員
	事前学習 20分	成果物、レポートの見直しと確認、口頭発表の準備	
	事後学習 60分	発表の反省を学修成果発表会に反映させる。 自分自身がこの演習を通してどれだけの能力がついたか、振り返る	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
英語基礎演習	支援科目	―	1年 前学期	講義	1	オステン・リチャード	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
入学時の英語能力スピーキングテストで基準点に至らなかった者	該当なし	6・ 7,8,9,16

授業の概要

この授業は、英語の基礎を復習し、特にスピーキング能力の向上を目的とした授業である。口頭練習を中心に、次学期の「英語コミュニケーション」などの授業に必要な基礎力を身につけるため、繰り返し学習を行う。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
以下(1)～(3)の項目の総合評価とする。 (1)定期筆記試験(40%) (2)口頭試験(40%) (3)授業中の態度(20%)	再試験は(1)の筆記試験を実施し、点数が更新される。 再評価は(1)～(3)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

・「英語コミュニケーション」で必要とされる基礎的な英語コミュニケーション能力を完全に修得する。【DP1：知識・技能】
・基礎的な文法力を土台にした読解力を完全に修得する。【DP1：知識・技能】
・英語でコミュニケーションを取ることを楽しみ、自分が思うこと、感ずることを積極的に英語で表現することができる。【DP4:関心・+A10:M13意欲・態度】

到達（成績評価A）目標

・「英語コミュニケーション」で必要とされる基礎的な英語コミュニケーション能力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】
・基礎的な文法力を土台にした読解力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】
・英語でコミュニケーションを取ることを楽しみ、自分が思うこと、を英語で表現することができる。【DP4:関心・意欲・態度】

到達（成績評価B）目標

・「英語コミュニケーション」で必要とされる基礎的な英語コミュニケーション能力が大方修得できている。【DP1：知識・技能】
・基礎的な文法力を土台にした読解力を大方修得している。【DP1：知識・技能】
・英語でコミュニケーションを取ることを楽しむ【DP4:関心・意欲・態度】

単位取得（成績評価C）目標

・「英語コミュニケーション」で必要とされる基礎的な英語コミュニケーション能力がある程度修得できている。【DP1：知識・技能】
・基礎的な文法力を土台にした読解力をある程度修得している。【DP1：知識・技能】　・英語でコミュニケーションを取ることを楽しむ【DP4:関心・意欲・態度】

教科書

なし

参考書・資料

授業毎にじてプリントを配布

教科書以外にかかる費用(自己負担)

なし

課題に対するフィードバック

・授業の最後にワークシートを確認し、フィードバックを提供する。　・授業毎にロールプレイを行い、英語コミュニケーション能力を築くため、個々にアドバイスを提供する。　・課題をチェックし、コメントや修正を付け、返却する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・積極的な発言が期待され、授業中の質問を歓迎する。
・授業中に遊びでの携帯電話の使用は、減点対象とする。
・欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること。
・意欲的に授業に取り組むこと ー　英語で話すことをチャレンジする気持ちで授業に参加すること。
・英語コミュニケーション能力を築き上げるため、「English Corner」に参加することを薦める。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
英語基礎演習	支援科目	―	1年 前学期	講義	1	オステン・リチャード	単独	6･7,8,9,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	Introduction Class ― meeting new people	自己紹介・授業の流れになれる・英語能力テストの復習	
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
2	Food and drink	好みについて学ぶ （I like / I don't like）	
	事前学習 15分	I like / I don't like を予習する	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
3	Hobbies and interests	趣味について （My hobby is ）	
	事前学習 15分	My hobby is　を予習する	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
4	Countries and culture	行きたい国について(I want to ） ・英語の国名	
	事前学習 15分	I want to を予習する	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
5	Family and friends	自分の人間関係について(He is / She is / They are ）	
	事前学習 15分	He is / she is / they are を予習する	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
6	Appearance	人の外見について(He is / She has / He looks ）	
	事前学習 15分	He is / she has / he looks を予習する	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
7	Cooking	日本の料理の説明やお勧めの言い方について学ぶ	
	事前学習 15分	料理に関する英単語を予習する	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
8	Weather	天気について(It is / was / will be)	
	事前学習 15分	It is / was / will be を予習する	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
9	Jobs	仕事について(I want to be ）	
	事前学習 15分	I want to be を予習する	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
10	Making friends and inviting	疑問文の作り方 （What / When / Who ） ・誘い方	
	事前学習 15分	What / when / who / Do you want to ？　を予習する	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
11	Customs and habits	自分の習慣について （I sometimes / I never など）	
	事前学習 15分	How often を予習する	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題	
12	Review and practice (1)	復習	
	事前学習 15分	ワークシートの復習　・口頭テストの練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題　・口頭テストの練習	
13	Review and practice (2)・口頭テスト	復習	
	事前学習 15分	ワークシートの復習　・口頭テストの練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習・宿題　・筆記テストの練習	
14	まとめ ・筆記テストの復習		
	事前学習 15分	ワークシートの復習　・筆記テストの練習	
	事後学習 60分	ワークシートの復習する　・筆記テストの練習	

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態
生活数理演習	支援科目〔生デ〕	—	1年 前学期	演習	1	前田（まえだ） 康智（やすとも）	単独

履修条件	実務経験のある教員による科目	AL
入学準備学習の数学試験で基準点を超えられなかった者	該当なし	6・7

授業の概要

本演習は、家政専攻科目における必須知識、特に最重要とされる数学・科学的知識に焦点をあてて、ものの長さ・面積の測り方、重さ・容積の量り方、濃度、希釈に関する考え方などについて、細かい手先の作業や科学的思考を通じて繰り返し練習し、他の専攻科目への導入とする。

成績評価方法	再評価の成績評価方法
(1)受講態度(10%) (2)毎回の課題(20%) (3)実技試験 (20%) (4)定期試験 (筆記試験) (50%) の総合評価	再試験により、(4)定期試験が更新される。再評価は(1)～(4)の総合評価とする。

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

到達（成績評価S）目標

(1)デザイン画の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、完全にできるようになる。【DP1:知識・技能】
(2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、完全にできるようになる。【DP1:知識・技能】
(3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識を総合的に活用できるようになる。【DP1:知識・技能】
(4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、総合的に実行できるようになる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価A）目標

(1)デザイン画の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、十分にできるようになる。【DP1:知識・技能】
(2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、十分にできるようになる。【DP1:知識・技能】
(3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識を十分に活用できるようになる。【DP1:知識・技能】
(4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、十分に実行できるようになる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価B）目標

(1)デザイン画の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、大方できるようになる。【DP1:知識・技能】
(2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、大方できるようになる。【DP1:知識・技能】
(3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識を大方活用できるようになる。【DP1:知識・技能】
(4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、大方実行できるようになる。【DP1:知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

(1)デザイン画の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、基本的にできるようになる。【DP1:知識・技能】
(2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、基本的にできるようになる。【DP1:知識・技能】
(3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識をある程度活用できるようになる。【DP1:知識・技能】
(4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、ある程度実行できるようになる。【DP1:知識・技能】

教科書

なし（毎回資料を配布する）

参考書・資料

なし

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

授業の後半で解説し、授業中にできるだけ解決できるようにする。

履修上の注意・備考・メッセージ

・毎回演習課題を課す。欠席した場合は、資料を取りに来るだけでなく、ある程度はその欠席した分の課題に取り組むことを期待する。
・学修成果の確認のため、14回目の授業では実技試験を行い、さらに定期試験（記述）のための総まとめを行う。
・やむを得ず欠席した場合は、授業内容と連絡事項を必ず聞きに来て、資料を受け取りに来ること。

科　目　名	科目区分	必修・選択	開講時期	形式	単位	担 当 教 員	形態	AL
生活数理演習	支援科目〔生デ〕	—	1年 前学期	演習	1	前田 康智	単独	6･7

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス、到達度状況確認テストの復習／大きい数字/型切り練習1	被服実習室の利用、到達度状況確認テストの復習、生活に関する大きい数字、はさみ、カッターを使い、型切りの練習を行う	
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 30分	大きい数字、カッター、はさみの使い方を確認する	
2	小さい数字/長さを測る、線を引く	生活に関する小さい数字、長さの単位の理解、竹定規で長さを測る、直線を引く	
	事前学習 60分	大きい数字、カッター、はさみの使い方を確認する	
	事後学習 60分	小さい数字、長さの単位、定規の使い方を確認する	
3	物を分ける/型切り練習2	生活に関する長さ等の等分、等分にする練習、はさみ、カッターを使い、型切りの練習を行う	
	事前学習 60分	小さい数字、長さの単位、定規の使い方を確認する	
	事後学習 60分	等分に長さを分ける方法を確認する	
4	マイナスと金額計算/図形の描画1／小テスト1	生活に関するマイナスとお金の計算、図形を描く練習／1～3回目授業の確認小テスト	
	事前学習 60分	等分に長さを分ける方法を確認する	
	事後学習 60分	マイナス、お金の計算、図形の作成の方法を確認する	
5	倍・分割と金額計算/図形の描画2	生活に関する倍・分割とお金の計算、平行垂直を描く練習	
	事前学習 60分	マイナス、お金の計算、図形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	倍、分割とお金の計算、各種図形の作成の方法を確認する	
6	概数とつり銭の計算/図形と模様切り練習1	生活に関する概数とおつりの計算、多角形作成と細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	倍、分割とお金の計算、各種図形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	概数とおつりの計算、多角形の作成の方法を確認する	
7	割合とグラフ/図形と模様切り練習2／小テスト2	生活に関する割合の計算、グラフ描画と細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)／4～6回目授業の確認小テスト	
	事前学習 60分	概数とおつりの計算、多角形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	割合の計算とグラフ描画を確認する	
8	比・割合1/模様切り練習1	長さを比で分ける、細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	割合の計算とグラフ描画を確認する	
	事後学習 60分	比・割合の計算の方法を確認する	
9	比・割合2/模様切り練習2	長さを比で分ける、細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	比・割合の計算の方法を確認する	
	事後学習 60分	比・割合の計算の方法を確認する	
10	容積と計量カップ・スプーン/模様切り練習3	容積の単位、計量カップ・計量スプーンによる計算、細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	比・割合の計算の方法を確認する	
	事後学習 60分	容積の単位、計量カップ・計量スプーンによる計算について確認する	
11	重さと重さの単位、重さの計算/模様切り練習4	重さの単位、重さの計算、細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	容積の単位、計量カップ・計量スプーンによる計算について確認する	
	事後学習 60分	重さの単位、重さの計算について確認する	
12	希釈の計算/電卓の使い方／小テスト3	希釈、電卓計算の方法、実技試験の準備／7～11回目授業の確認小テスト	
	事前学習 60分	重さの単位、重さの計算について確認する	
	事後学習 60分	希釈、電卓計算の方法について確認する	
13	実技部分における課題（測量と測定）	実技部分における全体の振り返り、測量と測定の実技課題	
	事前学習 60分	希釈、電卓計算の方法について確認する	
	事後学習 60分	これまでの授業で行った内容を振り返り、実技で苦手とする部分について確認する	
14	生活計算における総まとめ	全体の振り返りとして、1～12回目授業の確認小テストと生活計算全般におけるまとめ	
	事前学習 60分	これまでの授業で行った内容、主に計算の方法について確認する	
	事後学習 60分	これまでの授業で行った内容を振り返り、筆記（計算）で苦手とする部分について確認する	